PEGASO 650 STRADA - TRAIL

use+maintenancebook

第一版 : 2005 年 9 月

再版 : 2006 年 9 月 - A

発行と印刷 :
VALLEY FORGE DECA
Ravenna , Modena, Torino

DECA s.r.l.
登録事務所および管理部
Via Vincenzo Giardini, 11
48022 Lugo (RA) - ITALY
Tel. +39 - 0545 216611
Fax +39 - 0545 216610
E-mail: deca@vftis.spx.com
www.vftis.com

監修 :
Piaggio & C. S.p.A.
via G. Galilei, 1 - 30033 Noale (VE) - Italia
Tel. +39 - 041 58 29 111
Fax +39 - 041 44 10 54
www.aprilia.com

安全に関するお知らせ

本マニュアル中に使用されているメッセージ表示は、以下ことを意味します :

⚠ 安全に関する警告のマークです。このマークが車体もしくはマニュアルに記載されている場合には、傷害の危険がありますので注意してください。このマークのあとに記されている事項を遵守しないと、本人、第三者および車両の危険を招く恐れがあります。

⚠ 危険

重大な傷害もしくは死亡の危険性があることを表します。

⚠ 注意

軽度の傷害もしくは車体への損傷の危険性があることを表します。

重要事項 本マニュアル中の「重要」という用語は、大切なインフォメーションや使用上の注意のはじめに記されています。

テクニカルインフォメーション

★ このマークの付いた作業は、車体の反対側からも行う必要があります。

特に指示がない限り、パーツの取り付けは取り外し作業の逆の手順で行なってください。

「右」及び「左」という用語は車体にライダーが通常の位置で乗っていることを前提としたものです。

警告・注意・一般的注意事項

エンジンを起動させる前に本マニュアルをよく読み、特に「安全運転」の章をよく読んでください。

ライダーおよび第三者の安全は、ライダーの反応の素早さや機敏さだけでなく、車両についての理解、車両の整備状態、また安全運転のための基本的知識などにより確保されます。路上を安全、かつ適確に操作しながら走行するために、車両に慣れるようにしてください。

重要事項 同種類の予備電球を常に車両に備え付けておいてください。
(テクニカルデータ参照)

重要事項 このマニュアルは車体構成の一部分とみなされ、中古販売の際にも必要です。

aprilia は情報の正確さ、最新情報に関して最大限の注意を払い、このマニュアルを作成しました。しかしながら、デザインやモデル改良が常に行われるため、購入された車両との多少の違いが有る場合があります。**aprilia** 社オフィシャルディーラー本マニュアルに記載されている情報に関する詳細や疑問は最寄の にお問い合わせください。

このマニュアルでは詳しく記述していない点検や修理、**aprilia** 純正部品、アクセサリーパーツ、その他の製品の購入に関してはもちろん、技術的アドバイスについても **aprilia** 正規ディーラーにご相談ください。

aprilia 社の製品をお選びいただき、まことにありがとうございます。
当社車両でお客様が快適なライディングができるよう心がけております。

重要事項 使用する国によっては公害防止、防音規制のために定期検査を行う必要があります。

定期検査が行われる国で車両をお使いの方は：

- **aprilia** 社オフィシャルディーラーその国の規制に適応した部品と交換するために、アプリリアオフィシャルディーラーまでお問い合わせください。
- 定められた定期検査を行ってください。

重要事項 車両購入後、「スペアパーツ認識ラベル」に記載された車体識別データを下表に記入してください。ラベルはシート台の左側に貼られています。シートを取り外してラベルを読んでください。27 ページ (シートロックの掛け方・外し方) 参照。

aprilia

SPARE PARTS IDENTIFICATION

YEAR	Y	1	2	3	4
I.M.	A	B	C	D	E

I	UK	A	P	SF	B	D	F	E	GR
NL	CH	DK	J	SGP	SLO	IL	ROK	MAL	RCH
HR	AUS	USA	BR	RSA	NZ	CDN			

識別データは次のとおりです：

- YEAR = 製造年 (Y, 1, 2, ...)
- I.M. = 修正コード (A, B, C, ...)
- COUNTRY CODES = 認定を受けている国 (I, UK, A, ...)

aprilia 社オフィシャルディーラースペアパーツやアクセサリーをご購入の際は、上記データを にお知らせください。

説明文中に出てくるシンボルは以下の意味を示します：

OPT オプション

各国向け仕様：

- I イタリア
- UK イギリス
- A オーストリア
- P ポルトガル
- SF フィンランド
- B ベルギー
- D ドイツ
- F フランス
- E スペイン
- GR ギリシャ
- NL オランダ
- CH スイス
- DK デンマーク
- J 日本
- SGP シンガポール
- SLO スロベニア
- IL イスラエル
- ROK 韓国
- MAL マレーシア
- RCH チリ
- HR クロアチア
- AUS オーストラリア
- USA アメリカ
- BR ブラジル
- RSA 南アフリカ共和国
- NZ ニュージーランド
- CDN カナダ

目次

aprilia

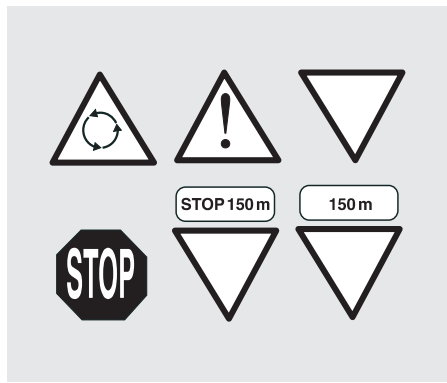
安全運転のために

基本安全ルール

乗物を運転するためには、法律によって定められた必要条件全てを所持することが必要です(運転免許証、年齢、精神的・身体的能力、保険証、車両登録証、納税証明、ナンバープレートその他)。

まずは交通量の少ないところ、または私有地を利用し、車両になれるようにしましょう。

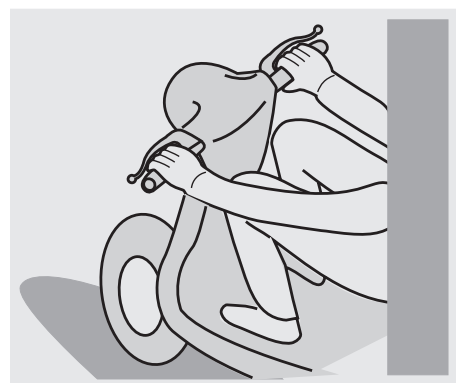
医薬品、アルコール、麻薬、精神安定剤などの服用は交通事故を起こす原因となります。

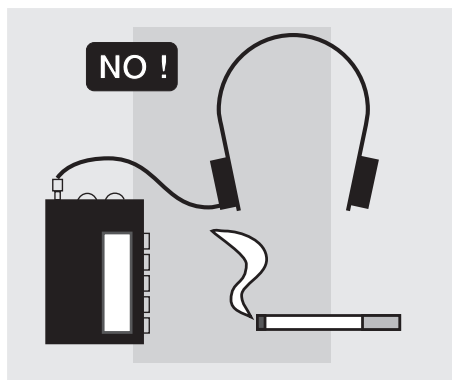
自分が精神的、体力的に運転できる状態か、睡眠を十分に取ったかなどを自分で確認するようにしましょう。

路上事故の多くは運転手の経験不足が原因です。
車両を絶対初心者に貸さないでください。貸す場合は運転するための必要書類を全て所持している事を確かめてください。

国や自治体が定めた道路交通法、交通標識を守り運転してください。

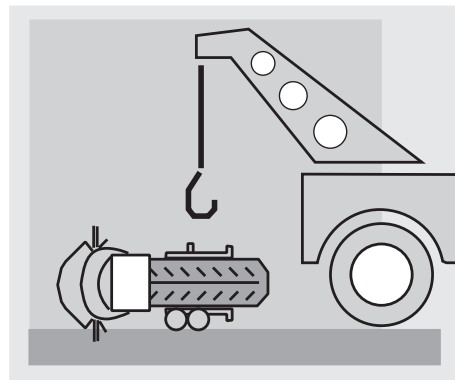
急激なハンドル操作や、ライダー自身、および第三者に危険となるようなハンドル操作(例:後輪で立つ、制限速度を守らない等)は避けてください。また、道路のコンディションや視界状況を常に点検し、考慮しながら運転してください。

障害物を避けて走行してください。車両損傷の原因となったり、コントロールを失ったりする原因となります。

空気抵抗を減らす目的で先行車のすぐ後ろを走行するようなことはやめてください。

⚠ 危険

運転する時は常にハンドルから手を離さず、両足をステップに乗せ、正しい姿勢で運転してください。
運転中は絶対にシートから腰を上げたり、足を伸ばしたりしないでください。

運転中に周囲の人や事物に気を取られたり、他の行為 (喫煙、飲食、読書など) をすることはやめてください。

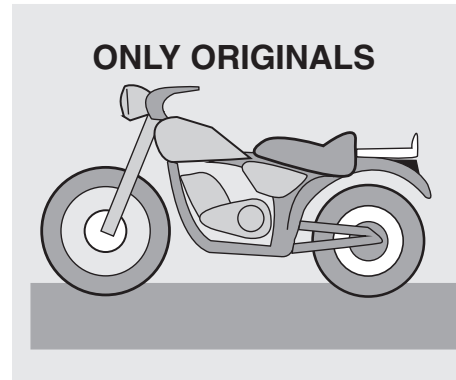
指定油脂類表で定められた燃料、潤滑油のみを使用し、
定期的に燃料、オイル、冷却液のレベルチェックを行ってください。

事故に巻き込まれたり、衝突、車両転倒した場合は、コントロールレバー、パイプ、ワイヤー、ブレーキシステムやねじなどのパーツが損害を受けていないか確認してください。

必要な場合は、**aprilia 社オフィシャルディーラー**に点検を依頼してください。個人では十分に点検できないフレーム、ハンドル、サスペンション、保全部品には特に注意を払ってください。

テクニカルサービスにおける調整、修理作業を万全に行なうために、どのような不具合も漏らさずお知らせください。

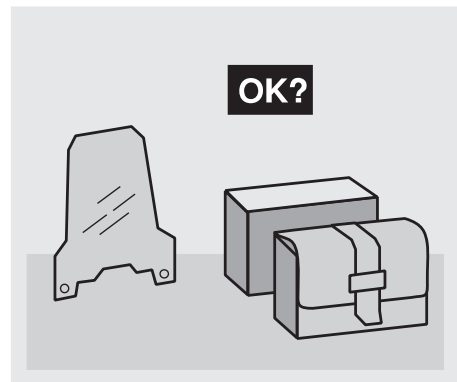
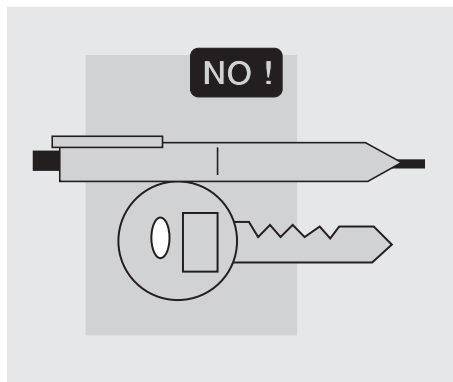
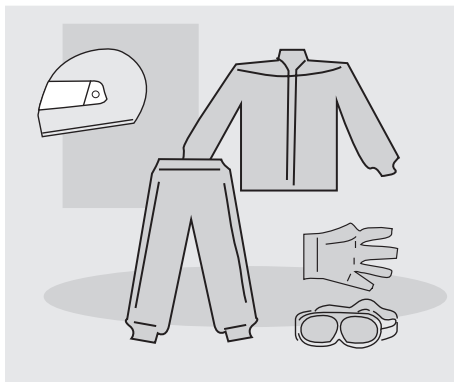
車両に損傷があり、安全走行が保証できない場合は絶対に車両を運転しないでください。

ナンバープレート、ターンインジケーター、ライト、警告ホーンなどの位置、角度または色を変えたりしないでください。

車体の改ざんは保証契約を無効にします。

車体の改造、オリジナルパーツの取り外しは違法な上、車体の安全性を減少させます。

車両装備は国や自治体が定めた法律、規則に従うことを推奨します。

車両本来の仕様を変更したり、性能を向上させる目的での改造は絶対にしないでください。

他の車両との競争は決してしないでください。

服装

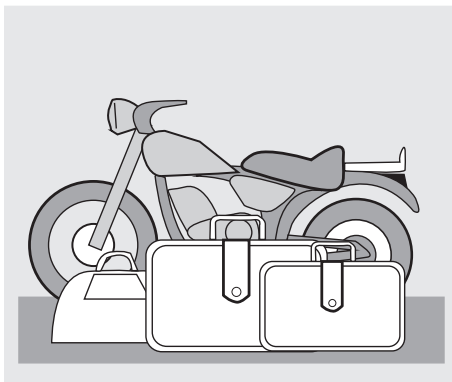
出発前には必ずヘルメットをしっかりと着用してください。なお、ヘルメットは保安基準認定品で、損傷などがなく、形やサイズが適したものであり、視界がよい事を確認してください。

服装は身体を保護する服を着用してください。転倒した場合でも他のドライバーから見えやすいように、なるべく明るい色、または反射素材の物がよく、体を十分に保護するものを選んでください。

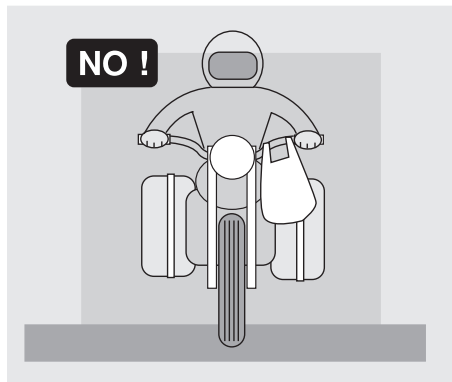
服装は身体にぴったりするもので、手首、足首の部分が締まる形のものをお薦めします。紐、ベルト、ネクタイなどが緩んで走行中に可動部分に巻き込まれ、運転に支障を及ぼすことのないよう注意してください。

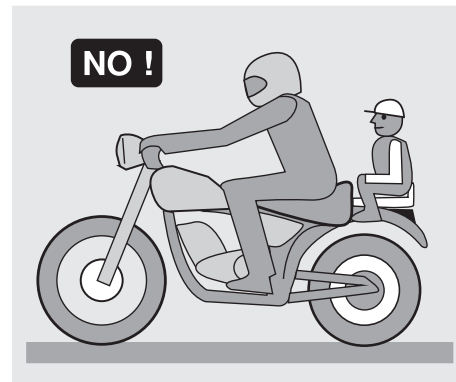
転倒した時に危険となるようなものをポケットにいれないでください。
例：鍵、ペン、ガラス瓶など、角の尖ったもの (同乗者についても同様です。)

付属品

車両所有者は付属品の使用と設置、選択などのすべてに責任を持ってください。
付属品取り付けの際には、ホーンやライトなどを覆ったり、機能を損なわせたり、サスペンション•ストローク、操縦角度、車高などの制限を守らなかったり、コントロールを失ったり、コーナリング時の接地が低くなりすぎたりしないよう注意してください。
運転操作の邪魔になるようなアクセサリーの使用は避けてください。緊急操作の際の反応時間を遅らせ、事故の原因になります。
大きすぎるフェアリング、ウインドシールドなどの設置は高速走行時に空気抵抗が増し、車体の安定性が減少します。

危険を避けるため、付属品がしっかり設置されていることを常に確かめてください。電流容量を超えるような電装パーツの追加、電気系統の改造はしないでください。電気的負荷が過重になり、車両が突然停止したり、ライト類や警告ホーンの動作に必要な電流が不足する危険な事態を招きます。
aprilia はオリジナル付属品の使用を推奨します。(**aprilia** オリジナルアクセサリー)

荷物

荷物は大きさと重量に注意して適切に搭載してください。積荷は車両の重心に近く、また左右の重量配分が等しくなるようにします。そして積荷が車体にしっかりと固定されていることを確認します。長距離ツーリングの際は特に注意してください。

大きいもの、重いもの、危険なものをハンドル、マッドガード、フロントフォークなどに吊り下げないでください。カーブでの反応が鈍くなる他、操縦性が損なわれます。

車体の両脇に重い荷物やヘルメットを掛けないで下さい。歩行者や障害物にあたって、車体のバランスを失う危険があります。

車体にしっかりと固定できない積荷は運ばないでください。

後部の荷物ラックから大きくはみ出たり、またライト類、ホーンなどを覆うような積荷は運ばないでください。

荷物ラックや小物入れに子供や動物を載せて運ばないでください。

各荷物ラックの許容重量を超えないようにしてください。

過荷重になった車両は安定を失い、操縦性も悪くなります。

各部名称

1) ヘッドランプ
2) イグニッションスイッチ/ステアリングロック
3) 左リアビューミラー
4) 燃料タンクキャップ
5) 燃料タンク
6) バッテリー
7) エンジンコントロールユニット
8) ヒューズケース
9) 乗客用グラブハンドル
10) 小物入れ
11) リアスイングアーム
12) 左側パッセンジャーフットレスト (開/閉､2 ポジション)
13) サイドスタンド
14) 左側ライダーフットレスト
15) ギアシフトレバー
16) シートロック
17) ドライブチェーン
18) エンジンオイルタンク
19) ツールキット
20) アイドリング調整スクリュー
21) オイルドレンプラグ
22) アンダーシートトランク

各部名称

1) テールランプ
2) 乗客用グラブハンドル
3) シート
4) リアブレーキオイルタンク
5) エアフィルター
6) リアショックアブソーバー
7) エンジンオイル・キャップ計量スティック
8) フロントブレーキオイルタンク
9) 右リアビューミラー
10) 警告ホーン
11) エンジンオイルフィルター
12) リアブレーキレバー
13) 右側ライダーフットレスト
14) リアブレーキポンプ
15) 右側パッセンジャーフットレスト (開／閉、2 ポジション)
16) 冷却液エキスパンションタンク・キャップ
17) 冷却液エキスパンションタンク
18) CO センサーキャップ

各部名称

1) ヘッドランプ
2) イグニッションスイッチ/ステアリングロック
3) 左リアビューミラー
4) 燃料タンクキャップ
5) 燃料タンク
6) バッテリー
7) エンジンコントロールユニット
8) ヒューズケース
9) 乗客用グラブハンドル
10) 小物入れ
11) リアスイングアーム
12) 左側パッセンジャーフットレスト(開／閉､2 ポジション)
13) サイドスタンド
14) 左側ライダーフットレスト
15) ギアシフトレバー
16) シートロック
17) ドライブチェーン
18) エンジンオイルタンク
19) ツールキット
20) アイドリング調整スクリュー
21) オイルドレンプラグ
22) アンダーシートトランク

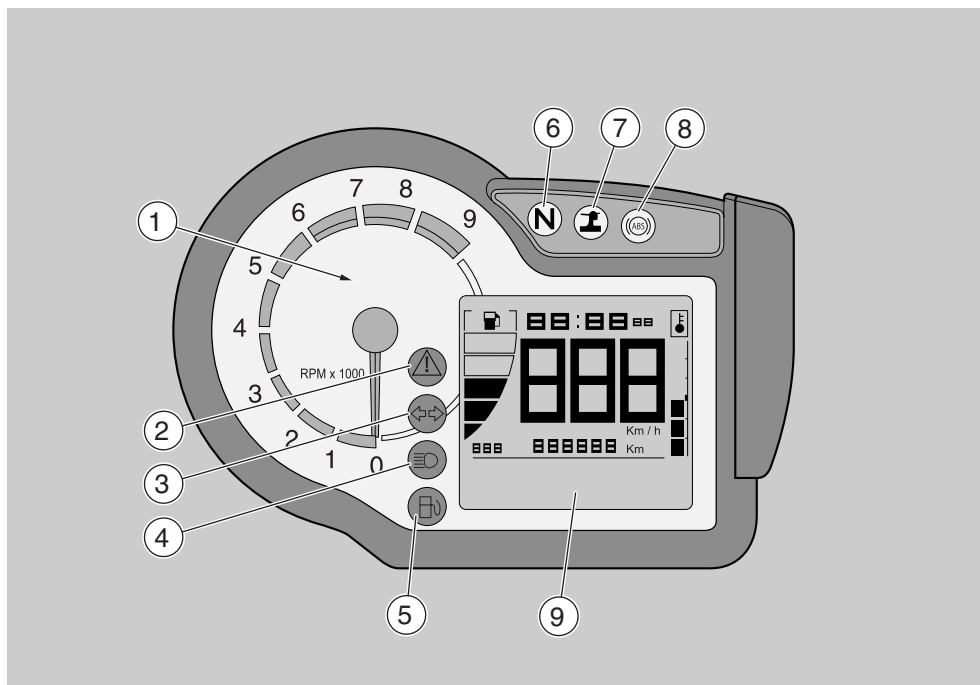
各部名称

1) テールランプ
2) 乗客用グラブハンドル
3) シート
4) リアブレーキオイルタンク
5) エアフィルター
6) リアショックアブソーバー
7) エンジンオイル・キャップ計量スティック
8) フロントブレーキオイルタンク
9) 右リアビューミラー
10) 警告ホーン
11) エンジンオイルフィルター
12) リアブレーキレバー
13) 右側ライダーフットレスト
14) リアブレーキポンプ
15) 右側パッセンジャーフットレスト (開／閉､2 ポジション)
16) 冷却液エキスパンションタンク・キャップ
17) 冷却液エキスパンションタンク
18) CO センサーキャップ

各部名称

1) クラッチコントロールレバー
2) インストルメントパネル
3) イグニッション／ステアリングロックスイッチ (○-⊗-🔒)
4) フロントブレーキレバー
5) スロットルグリップ
6) 非常表示ボタン (⚠)
7) スターター／エンジンストップスイッチ (⊗-○-⚡)
8) ディマースイッチ (≣D-≣D)
9) 燃料タンクキャップ・カバーオープニングスイッチ
10) 警告ホーンボタン (📯)
11) ターンインジケータースイッチ (⇦⇨)
12) MODE スイッチ

インストルメントパネル

各部名称

1) タコメーター
2) 警告灯：メンテナンス時期 (⚠) レッド
3) ターンインジケーター表示警告灯 (⇦⇨) グリーン
4) ハイビーム表示警告灯 (≣D) ブルー
5) リザーブ燃料警告灯 ()オレンジ
6) ニュートラルポジション警告灯 (N) グリーン
7) サイドスタンド警告灯 () イエロー
8) ABS システム警告灯 ((ABS)) (ABS システム搭載車両のみ) オレンジ
9) マルチ機能デジタルディスプレイ

計器およびインジケーター類 (表)

イグニッションスイッチを “○” にすると、「ハンドルバーヒーティング」ランプ以外の全ての警告灯が LED 機能チェックのために 3 秒間点灯します (エンジンは作動しません)。点灯しないランプがひとつでもある場合は、**aprilia 社オフィシャルディーラーオフィシャルディーラー**にご連絡下さい。

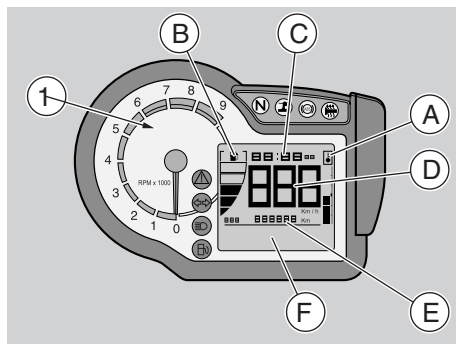
項目		機能
マルチ機能デジタルディスプレイ	**スピードメーター (km/ 時 - MPH)**	設定に応じて、瞬間速度、平均速度、または最高速度 (km またはマイル) を表示。18 ページ (マルチ機能コンピューター) 参照。
	オドメーター (KM - マイル)	トリップ距離もしくは全走行距離を km またはマイルで表示。18 ページ (マルチ機能コンピューター) 参照。
	冷却液温度「°C/°F」	エンジンの冷却液温度を表示。18 ページ (マルチ機能コンピューター) 参照。 **⚠ 注意** **イグニッションスイッチを "⊗" の位置に回したままにしないで下さい。冷却ファンが、冷却液温度とは関係なく停止し、液体温ドがさらに上昇する原因となります。** 冷却液温度が危険値まで上昇した場合には、エンジンを停止し、イグニッションキーを "○" の位置まで回して、冷却ファンが停止するまで待ちます。 その後、イグニッションキーを “⊗” の位置まで回して冷却液のレベルを点検します。38 ページ (冷却液) 参照。 **aprilia 社オフィシャルディーラー**にお問い合わせください。 **⚠ 注意** **冷却液温が許容値 (118 °C － 248 °F) を超えた場合には、エンジンに重大な損傷を与えることがあります。**
	燃料レベル (STRADA バージョンのみ)	タンク内の燃料の量を表示。18 ページ (マルチ機能コンピューター) 参照。
	時計	設定に応じ、時刻 (時間、分) を表示。18 ページ (マルチ機能コンピューター) 参照。
	バッテリー電圧 V BATT	バッテリー電圧をボルトで表示。18 ページ (マルチ機能コンピューター) 参照。
	クロノメーター	設定に応じ、様々な測定時間を表示。18 ページ (マルチ機能コンピューター) 参照。
	診断機能	車両、人身の保全に影響を及ぼす重大な警告が存在する場合は、その原因を示す関連アイコンが強度表示されます (例：油圧 、メンテナンス時期)。 **⚠ 注意** **エンジン作動中に「⚠ SERVICE」の文字が表示された場合は、コントロールユニット、またはインストルメントパネルが何らかの異常を発見したことを示しています。多くの場合、エンジンは限られた性能で作動し続けます。直ちに、aprilia 社オフィシャルディーラーにご連絡ください。**
タコメーター (回転 / 分 rpm)		分間のエンジン回転数を表示します。 **⚠ 注意** **エンジン最大回転数を超えてはいけません。53 ページ (慣らし運転) 参照。**

項目	機能
エラー警告灯 ⚠	以下のような異常が発生した場合、点灯します：油圧異常、温度超過、インジェクションシステムの不具合、最大回転数の超過。 エンジンが停止している時に点滅し、盗難防止システムが作動していることを示します。 最大回転数を超えると、点滅します。 **⚠ 注意** **もし警告灯 ⚠ がエンジン作動後も点いたままの場合、またはエンジンの通常作動中に点灯した場合はディスプレイ上に"EFI"または" "が表示されます。(EFI) の場合はインジェクションシステムに異常、( ) の場合はエンジンオイルプレッシャーが低い事を示します。この場合は、エンジンをすぐ停止して、aprilia 社オフィシャルディーラーに連絡してください。**
ターンインジケーター表示灯	ターンインジケーターが点いている時に点滅します。
ハイビーム表示警告灯	ヘッドランプがハイビームの時やパッシングライト点灯の時に点灯します。
燃料レベル警告灯	燃料タンク内のガソリン量が約 3 リットルになった時に点灯します。 **この場合にはすぐに燃料補給をしてください。31 ページ (燃料) 参照。** **表示が正確に行われるには、イグニッションキーが OFF の状態で燃料補給をしなければなりません。**
ニュートラルギア表示灯 N	ギアがニュートラルポジションにある時に点灯します。
サイドスタンド使用警告灯	サイドスタンドを下げている時に点灯します。
ABS システム警告灯 (ABS システム搭載車両のみ) (ABS)	ABS システム に不具合があった場合、点灯します。

マルチ機能コンピューター

イグニッションキーを“◯”にすると、以下のインストルメントパネル・ランプが 2 秒間点灯します：

- 「PEGASO 650 STRADA -TRAIL 」のロゴ
- 「スロットルグリップヒーティング」を除く全警告灯
- バックライト

タコメーターの針 (1) はユーザーが設定した最大回転数を指します。

初期点検の後、すべてのメーター類はそれぞれ現在の読み取り値を瞬間的に表示します。

ディスプレイの標準設定表示は以下のとおりです：

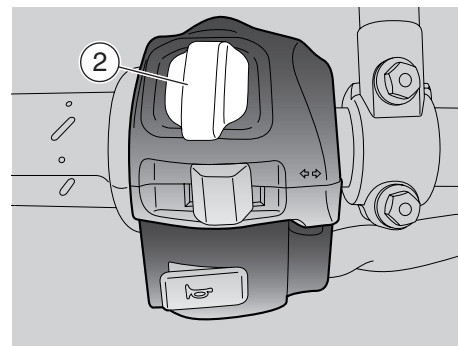
A) 冷却液温度

B) 燃料残量 (STRADA バージョンのみ)

C) 時計

D) スピードメーター

E) オドメーター

F) トリップコンピューター、アクセサリー機能

MODE セレクター(2) には、3 つのポジションがあります：左に動かすと数値が減少し、メニューを下向きにスクロールします。右に動かすと数値が増加し、メニューを上向きにスクロールします。キーを押して数値を確認する場合は、中央の位置にします。

セレクター (2) によって、LCD ディスプレイの (F) のゾーンに次の数値が表示できます :

A) TRIP METER 1 (トリップメーター 1)

B) TRIP TIME 1 (走行時間 1)

C) TRIP METER 2 (トリップメーター 2)

D) TRIP TIME 2 (走行時間 2)

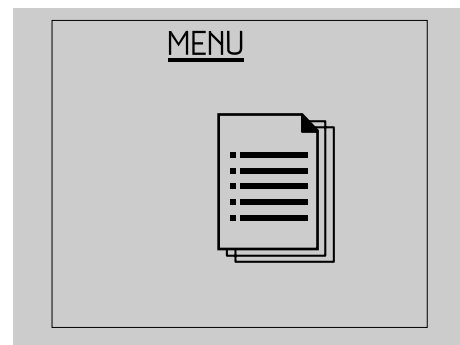
E) MAXIMUM SPEED (最大速度)

F) LAP TIMER (クロノメーター)

G) BATTERY VOLTAGE (バッテリー電圧)

H) KM COVERED W/FUEL RESERVE (燃料残量走行可能距離) (2 km 以上)

トリップメーター 1 およびトリップメーター2 をリセットするには、セレクター(2)の中央を長く押し、表示距離をゼロにしてください。

車両が停止している場合のみ、KM IN RISERVA(燃料残量走行可能距離) に続いて MENU(メニュー) 画面が表示されます。

MENU (メニュー)

車両が停止している場合は、セレクター MODE の中央を押すと、MENU 画面からコンフィグレーションのメニューへ移行します。走行している場合は、TRIP METER 1 の画面に戻ります。

コンフィグレーションのメニューにある項目は以下の通りです :

EXIT (終了)

SETTINGS (設定)

LAP TIMER (クロノメーター)

DIAGNOSIS (診断)

LANGUAGE (言語)

Settings ／設定

設定機能を選択すると、次のオプションを含む画面が表示されます：

EXIT (終了)

TIME SETTINGS (時刻調整)

GEAR SHIFT INDICATOR (ギアシフト表示)

BACK LIGHTING (バックライト)

CHANGE THE CODE (コード変更)

CODE RECOVERY (コードのリセット)

UNLOCK SAFETY LOCKS
(安全ロック解除)

作業が終了すると、メインメニュー画面に戻ります。

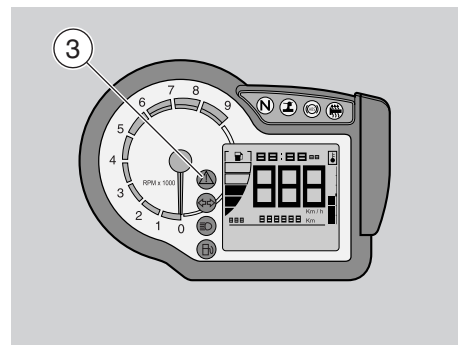
TIME SETTINGS ／時刻調整

時計の設定を行います。「TIME SETTINGS ／時刻調整 」の項目がある画面が再び表示されます。

ここでは、分表示が消え、時間のみが表示されます。MODE セレクターを右側にずらして押すたびに時間が増加します。12 時に達すると0に戻ります。同様に MODE セレクターを左側にずらして押すたびに時間が減少します。0 に達した後、もう一度左側を押すと 12 に戻ります。

確認用シグナルによって設定値が保存され、分調整に移行します。

ここでは、時間表示が消え、分のみが表示されます。MODE セレクターを右側にずらして押すたびに分が増加します。59に達した後、もう一度右側を押すと 0 に戻ります。同様に MODE セレクターを左側にずらして押すたびに時間が減少します。0 に達した後、もう一度左側を押すと 59 に戻ります。

確認シグナルによって設定値が保存され、時刻調整モードが終了します。

GEAR SHIFT INDICATOR ／ ギアシフト表示

ギアシフト表示を設定します。「 GEAR SHIFT INDICATOR ／ギアシフト表示 」の項目を含む画面が再び表示されます。

MODE セレクターの右側を押すたびに、値が 100 RPM 増加し、同様に左側を押すたびに 100 RPM 減少します。

上限、下限に達すると、それ以上押し続けても値は変わりません。

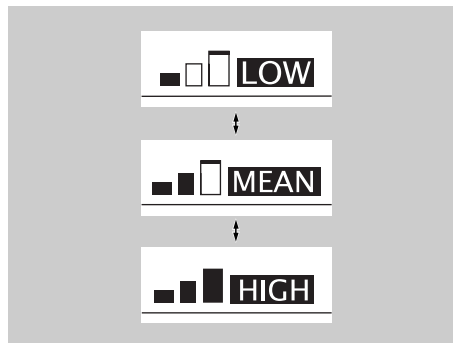
MODE セレクターの中央を押すと設定値が保存され、作業が終了します。針はゼロに戻り、コンフィグレーションメニューの画面が表示されます。

初めてバッテリーを接続した場合は、慣らし運転の値が設定されます。次回からは最終設定値が設定されます。

慣らし運転回転数：5000

最小回転数：4000

最大回転数 8000

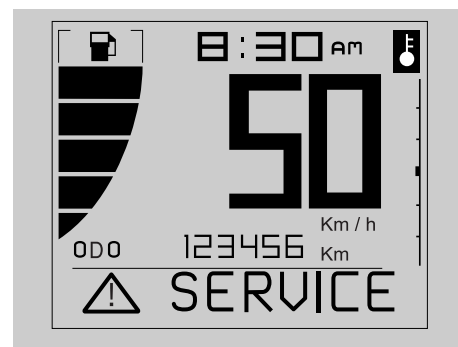
許容設定値を超えると、インストルメントパネルの警告灯 (3) が点滅し、許容設定値以下に戻るまで点滅を続けます。

BACK LIGHTING ／バックライト

バックライトの照度は 3 段階で調整ができます。MODE セレクターを右、もしくは左に押すたびに次のアイコンが表示されます：

LOW(弱)

MEAN(中)

HIGH(強)

作業が終了したら MODE セレクターの中央を押してください。SETTINGS ／設定の画面に戻ります。

CHANGE THE CODE ／コード変更

この機能は古いコード表示し、変更したい時に使用します。

この機能を選択すると、下記のメッセージが表示されます。

"INSERT THE OLD CODE" (古いコードを入力してください)

古いコードを承認した後、新しいコードの入力に移ります。ディスプレイには下記のメッセージが表示されます。

"INSERT THE NEW CODE" (新しいコードを入力してください)

作業が終了すると、DIAGNOSIS メニューの画面に戻ります。コードを使用して選択した場合、この作業は不可能です。

作業が終了すると、インストルメントパネルはセッティングメニューに戻ります。

CODE RECOVERY ／コードのリセット

この機能は古いコードを表示せずに変更したい時に使用します。この場合、最低 2 本のキーをイグニッションブロックに挿入しなければなりません。1 本目はすでに挿入されていますので、下記のメッセージと共に 2 本目の挿入が要求されます。

"INSERT THE 2nd KEY" (キーを挿入してください)

2 本目のキーを 20 秒以内に挿入するとインストルメントパネルは消えません。2 本目のキー承認後、下記のメッセージと共に新しいコードの入力が要求されます。

"INSERT THE NEW CODE" (新しいコードを入力してください)

作業が終了すると、DIAGNOSIS メニューの画面に戻ります。コードを使用して選択した場合、この作業は不可能です。

作業が終了すると、インストルメントパネルはセッティングメニューに戻ります。

UNLOCK SAFETY LOCKS ／安全ロック解除

サイドスタンド、ニュートラル、クラッチスイッチのセンサーが故障した場合、「UNLOCK SAFETY LOCKS ／安全ロック解除」機能で安全ロックを解除し、　車両を発進させることができます。

画面に「SERVICE ／サービス」の文字が表示されます。

エンジンを停めると、安全ロックが再び掛ります。

⚠ 危険

この機能は非常時のみ使用してください。

LAP TIMER ／クロノメーター

LAP TIMER ／クロノメーター機能を選択すると、次のオプションを含む画面が表示されます：

EXIT (終了)

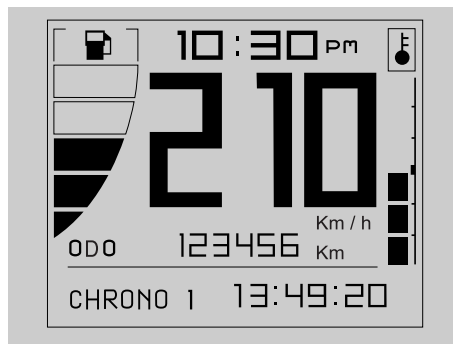
VIEW TIMES (タイム表示)

DELETE TIMES (タイム削除)

VIEW TIMES ／タイム表示

ここでは、測定タイムが表示されます。MODE セレクターの右側、左側を軽く押すと、測定タイムのページがスクロールできます。押し続けると、LAP TIMER ／クロノメーターのメニューに戻ります。バッテリーを切り離すと、保存されたタイムのメモリーは消失します。

DELETE TIMES ／タイム削除

ここでは、測定タイムを削除します。削除してもよいかの確認が求められます。作業が終了すると、LAP TIMER ／クロノメーターメニューの画面に戻ります。

クロノメーター機能

クロノメーターを使用するには、CHRONO の項目を含むメイン画面をディスプレイに表示し、カウント開始を待機します。

MODE セレクターを短く押すとクロノメーターがタイムの記録を始めます。開始の 10 秒前に MODE セレクターの中央をもう一度押すと、測定は取り消され、新たに測定が開始します。開始の10秒後にMODE セレクターの中央をもう一度押すと、カウントは中断され、記憶され、新たな測定が開始します。　カウントを止めるには MODE セレクターの中央を長く押します。

カウントが 40 回行われた時点でカウントは終了し、「FULL] の文字が表示されます。測定タイムを読むためには、車両を停止し (54 ページ (停車) 参照)、LAP TIMER メニューにある VIEW TIMES(タイム表示) 機能に入る必要があります。

新たなカウントのセッションを開始するには、測定されたタイムを削除しなければなりません。LAP TIMER メニューにある DELETE TIMES(タイム削除) 機能に入ってください。

Diagnosis ／診断機能

車両に搭載されたシステムと連係し、その診断を実施します。この機能を使用するためには、アクセスコードの入力が必要です。アクセスコードは、**aprilia** サービスセンターにおいてのみ入手できます。

Language ／言語

ユーザーの言語を選択します。

ITALIANO (イタリア語)

ENGLISH (英語)

FRANCAIS (フランス語)

DEUTCH (ドイツ語)

ESPAGNOL (スペイン語)

サービス　インジケーター

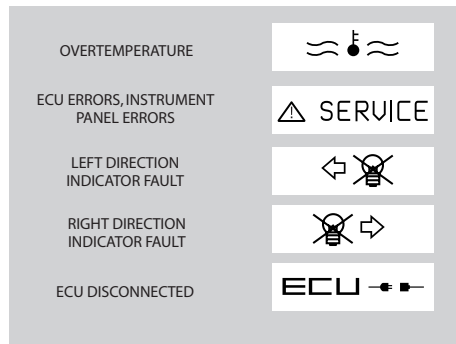
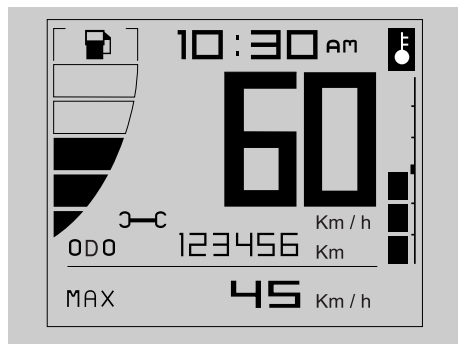
サービス点検時期を過ぎると、スパナのアイコンが表示されます。

警告表示

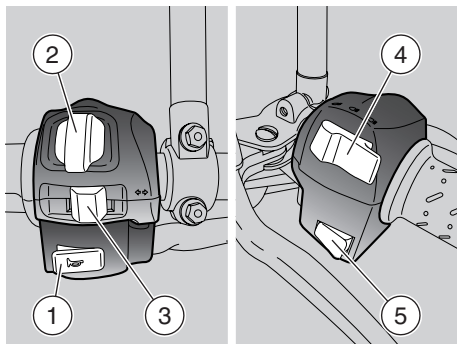
車両、人身の保全に影響を及ぼす重大な異常が発見された場合は、通常はオドメーターがある場所に、原因を示すアイコンが表示されます。

警告事項は優先順位によって２つのグループに分類されます：

- 高い優先順位：温度超過、コントロールユニットエラー、インストルメントパネルエラー。
- 低い優先順位：ターンインジケーター

ターンインジケーター表示の故障は、インジケーター全ての LED が故障した場合のみ起こります。

同じ優先順位グループ内で２つ以上の警告事項が同時に発生した場合は、該当アイコンが交互に表示されます。

優先順位の高い警告事項がある場合は、低い警告は表示されません。

警告表示灯、「SERVICE」アイコンがわずかの間点灯しても、故障ではありません。

ハンドル左側エレクトリックコントロール

重要事項　インジケーター、ライト等の電装パーツはイグニッションキーが "○" の位置にないと機能しません。

1) 警告ホーンボタン (📯)
このボタンを押すと警告ホーンが鳴ります。

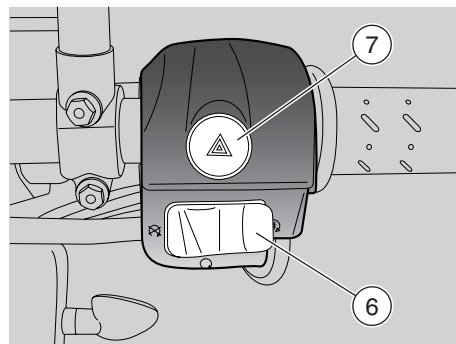
2) ウィンカースイッチ (⇦⇨)
ウィンカーを左に出すにはスイッチを左にずらし､右に出すにはスイッチを右にずらします。
ウィンカーを停止するにはこのスイッチを押します。

3) MODE ボタン
MODE ボタンを左 / 右に動かすとディスプレイ上のスクロールを行い、ボタンを押すと画面を決定します。

4) ディマースイッチ (≣D-≡D)
"≣D" の位置にある時は常にパーキングライト、メーターパネルライト、ロービームライトが点灯しています。

左側の "≡D" の位置にある時はハイビームライトが点灯します。

右側の "≡D" の位置にある時は、危険、非常時にハイビームライトが点滅します。

5) 燃料タンクカバー　オープニングスイッチ
このスイッチを押すと、燃料タンクカバーを開けることができます。

ハンドル右側のエレクトリックコントロール

重要事項　インジケーター、ライト等の電装パーツはイグニッションキーが "○" の位置にないと機能しません。

6) スターター／エンジンストップスイッチ (○-⊠-⊛)
スイッチを ○ の位置にして⊛ を押すとエンジンが始動します。スターターモーターがエンジンを回転させます。スタート方法は 48 ページ (エンジンの始動) 参照。

⊠ の位置にすると、エンジンが停止します。

⚠ 危険

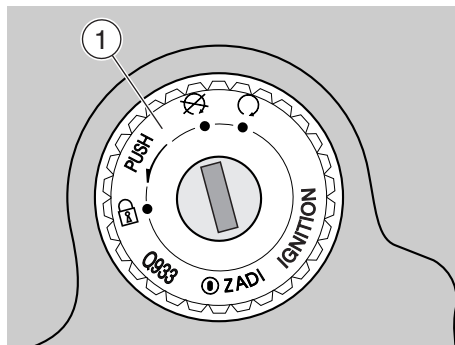
運転中はスイッチを ⊠ の位置にしないでください。

⚠ 注意

エンジンを止めた状態でスイッチが"○"の位置にあると、バッテリーが放電する恐れがあります。

車両を停止し、エンジンを切った後、スイッチを "⊗" の位置にしてください。

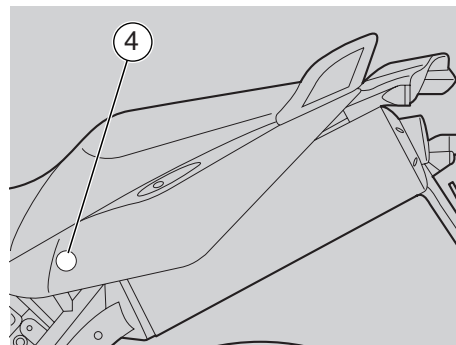
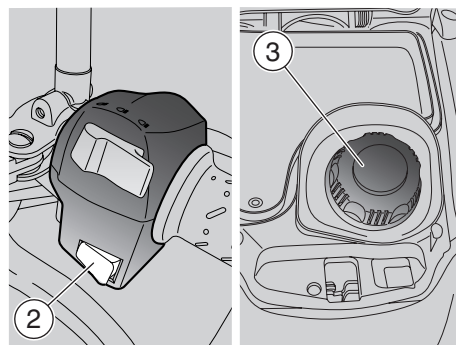
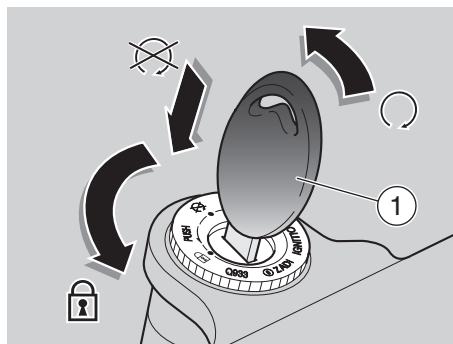
7) 非常表示ボタン (⚠)
ボタンを押すと両方のターンインジケーターが作動します。

イグニッションスイッチが ○"の位置にないと、ターンインジケーターは作動しません。ターンインジケーターは作動を始めると、キーを抜いても作動を続けます。ターンインジケーターを停止するには、イグニッションスイッチを "○" の位置にしてください。

イグニッションスイッチ

イグニッションスイッチ (1) は両ハンドルバーの中央部に位置しています。

重要事項 キーは、イグニッションスイッチ / ステアリングロック、燃料タンクキャップカバー (3) オープニングスイッチ (2)、シートロック (4) の作動に必要です。

納車時には計 2 本のキー (1 本はスペアキー) がついています。

重要事項 スペアキーは車両と別の場所に保管してください。

位置	機能	キーの抜き取り
ステアリングロック	ステアリングがロックされています。エンジンを始動させることは出来ません。	キー抜取り可能。
	エンジンは作動しません。	キー抜取り可能。
	エンジンは作動します。	キー抜取り不可能。

ステアリングロック

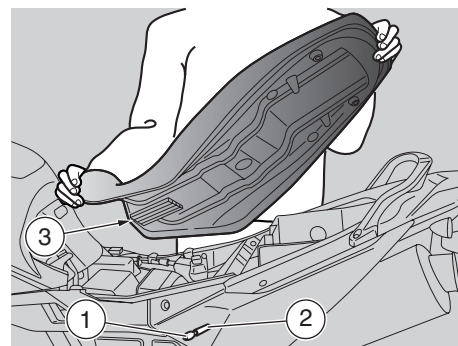
⚠ 危険

走行中は絶対にキーを "🔒" の位置に回さないでください。車体のコントロールを失う危険があります。

機能

ステアリングロックは次の手順で行なってください :

- ◆ ハンドルを右、または左いっぱいに切ってください。
- ◆ キー (1) を "⊗" の位置まで回します。
- ◆ キー (1) を押しながら "🔒" の位置まで回してください。
- ◆ キー (1) を抜き取ります。

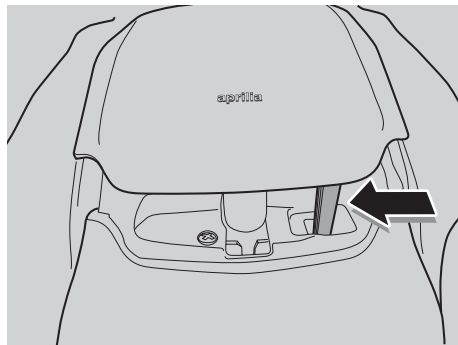
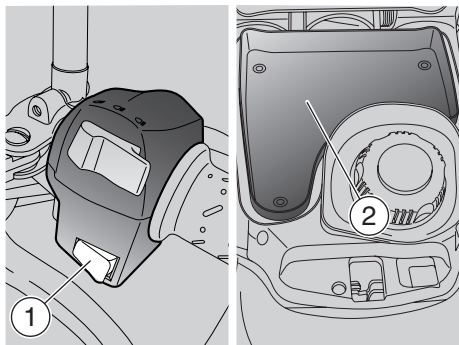
補助装備

シートロックの掛け方・外し方

- ◆ スタンドに車両を配置します。55 ページ (スタンドの立て方) 参照。
- ◆ キー (1) をシート (2) に挿し込みます。
- ◆ キー (1) を時計方向に回し、シートを取り外します。

シートをロックするには :

- ◆ つめ (3) を所定位置に合わせ、シートを押すとロックが掛かります。

⚠ 危険

運転する前にはシートがロックされているか、よく確かめてください。

小物入れ

小物入れ (2) を利用するには :

◆ イグニッションキーを "○" の位置にし、燃料タンクキャップカバー・オープニングボタン (1) を押します。

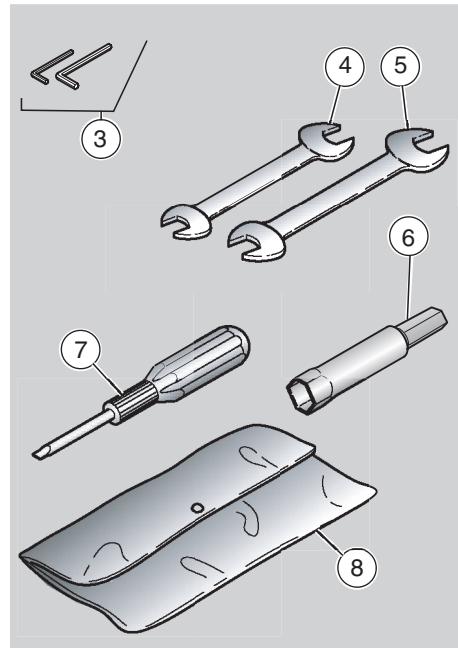
◆ 左側に動かし、赤い安全用つめを外します。

ツールキット収納スペース

ツールキット収納スペースにアクセスするには :

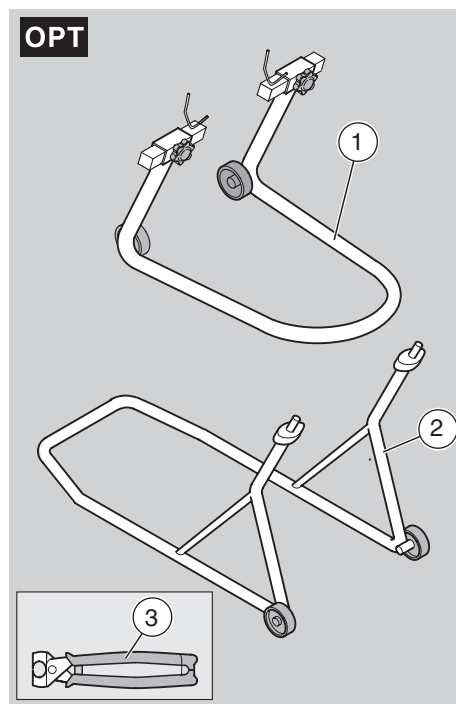
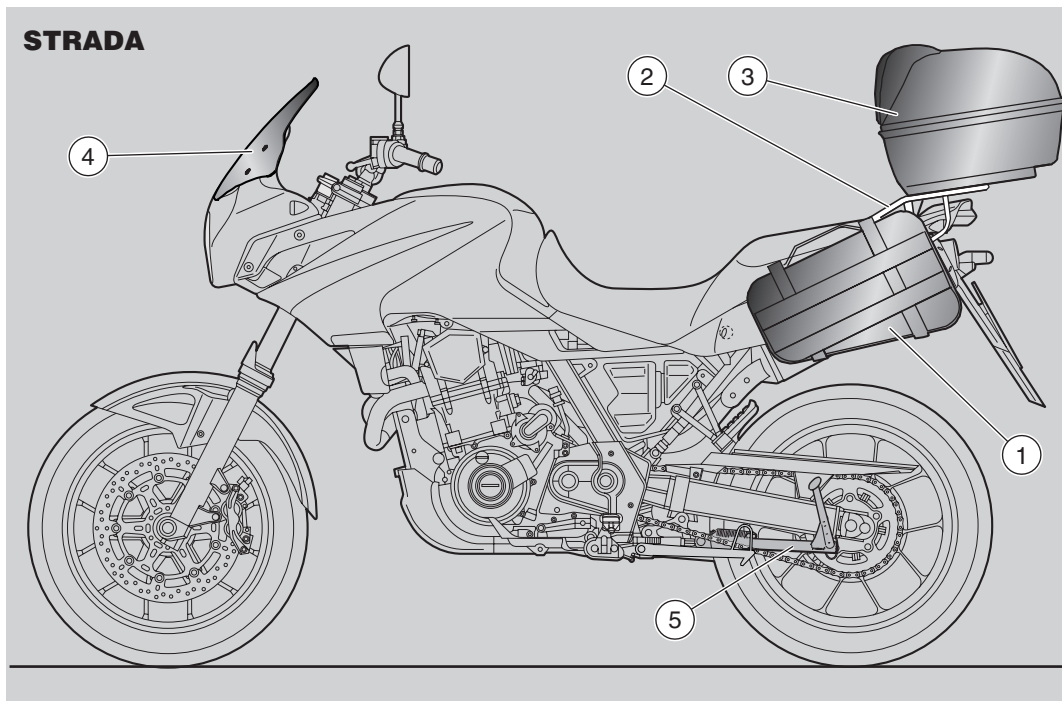
◆ シートを取り外します。27 ページ (シートロックの掛け方・外し方) 参照。

ツールキットの内容 :

- アレンキー　3.4 mm (3)
- スパナ 8 – 10 mm (4)
- スパナ 11 – 13 mm (5)
- スパークプラグ用 16 mm ソケットレンチ (6)
- マイナス・プラスドライバー (7)
- ツールバッグ (8)
- コンビネーション・スパナ　13 mm

最大載積重量 :　**1.5 kg**

スペシャルツール OPT

メンテナンス項目によっては、以下のスペシャルツールが必要となります。**aprilia** 社オフィシャルディーラー) にてお求めください。

ツール	作業
作業用リアスタンド　1 67 ページ (作業用リアスタンド使用法 OPT) 参照。	リアホイールの取り外し。 チェーン張力の調整。
作業用フロントスタンド　2 67 ページ (作業用フロントスタンド使用法 OPT) 参照。	フロントホイールの取り外し。
クリック固定輪取り付け用プライヤー (3)　60 ページ (クリック固定輪) 参照。	クリック固定輪取り付け。

アクセサリー OPT

本車両 (**TRAIL** モデルにも装着可能) には次のアクセサリーが装着できます。**aprilia 社オフィシャルディーラー**にてお求めください。

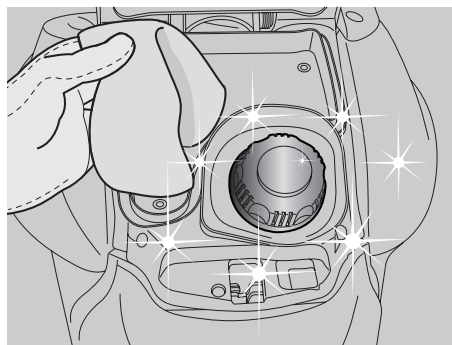
- セミハードタイプサイドバッグセットと固定具 (1)
- 専用荷台 (2)
- 後部トランク 28 リットル (3)
- 後部トランク 45 リットル (3)
- フロントフェアリングガラス、スクリュー (4) で 2 つの位置に調製可能。
- センタースタンドキット (5)
- 燃料タンクカバー
- 燃料タンクサック (燃料タンクカバーに固定し、車体に装着)
- ハイポジション・シート
- 調整可能フロントブレーキレバー

燃料

⚠ 危険

エンジン内で燃焼される燃料は可燃性が高く、状況によっては爆発の恐れもあります。

燃料補給やメンテナンスは換気のよい場所でエンジンを止めた状態で行なってください。

燃料補給中や喫煙は絶対に避けてください。また、炎、火花、その他のあらゆる火元から離れたところで作業をしてください。燃料の蒸気に触れるとと火災や爆発の危険があります。

⚠ 危険

熱くなっているエンジンの表面に燃料が触れると火災を起こす原因となります。補給口からこぼさないように注意してください。

もし燃料をエンジンの表面にかけてしまった場合は、エンジンを始動する前に、表面が完全に乾いていることを確かめて下さい。

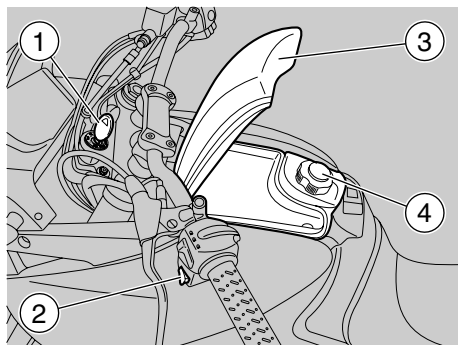
燃料は、熱や太陽光線などで膨張するので補給口の境ぎりぎりまでいっぱいにすることを避けてください。

⚠ 危険

補給後は、キャップをよく閉めてください。ホースを使用して、燃料を他の容器に移すときなども、口に含んだり、肌に触れたり、蒸気を吸ったりすることを避けてください。

環境汚染を防ぐため、燃料を所定の場所以外に廃棄しないでください。

子供の手の届かない場所に保管してください。

燃料は DIN 51 607 に基づいた最低オクタン価 95 (N.O.R.M.) 及び 85(N.O.M.M.) の無鉛ガソリンのみ使用してください。

燃料補給は次の手順で行なってください：

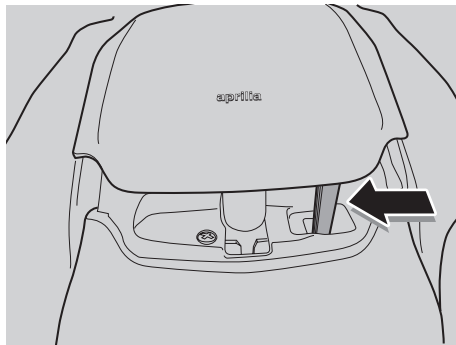
- ◆ キー (1) をイグニッションスイッチに差し込み、"○" の位置に回します。
- ◆ 燃料キャップカバー・オープニングボタン (2) を押します。
- ◆ 左側に動かし、赤い安全用つめを外します。
- ◆ カバー (3) を外します。
- ◆ 燃料キャップ (4) を回して開けます。

燃料タンク実働容量
(リザーブタンク含む): 15 ± 0.5 リットル

リザーブタンク：約 3 リットル

⚠ 注意

タンクはわずかに過圧気味です。キャップを開けた際に、軽くエアが抜ける音がします。完全にエアが抜けるまでキャップをしっかり抑えていてください。

⚠ 注意

オイルには、添加物やその他の物質を混ぜないで下さい。

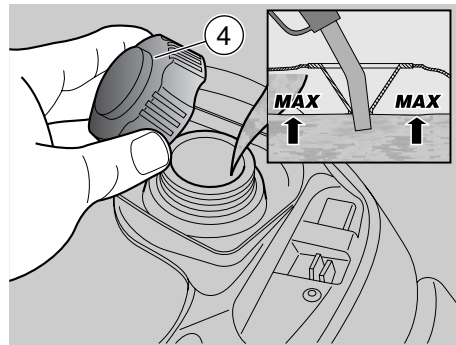
じょうご等を使用する場合には、清潔なものであることを確かめてから使用して下さい。

⚠ 危険

燃料をタンクいっぱいまで注入しないでください。燃料の最大レベルは、リセスの下縁 (図参照) を超えないようにします。

⚠ 注意

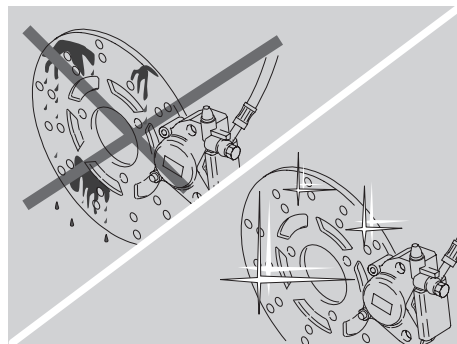
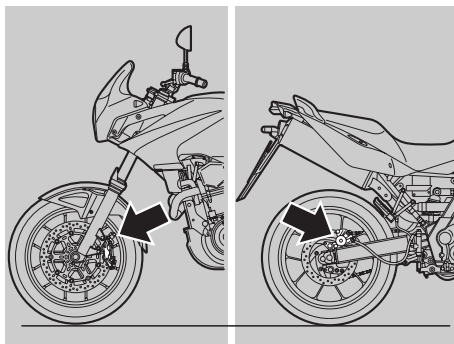
補給の際は、ポンプでタンク内を損傷しないように十分に注意してください。

- ◆ 補給を行います。

補給を行った後は：

- ◆ 燃料キャップ (4) を回して閉めます。

⚠ 危険

キャップが正しく閉まっていることをよく確認して下さい。

- ◆ カバー (3) を閉めます。
- ◆ イグニッションキーを抜き取ります。

ブレーキ液 - 注意事項

重要事項 この車両は、フロント、リアディスクの油圧回路が別々のブレーキを装備しています。

以下の説明は一つのブレーキ系統についてですが、内容はフロント、リア共に共通です。

⚠ 危険

ブレーキレバーの遊びが突然に変化したり、抵抗がある場合は、油圧回路に問題があります。
ブレーキシステムが正常に機能しているか疑問がある場合、および通常の点検作業ができない場合は aprilia 社オフィシャルディーラーにご相談ください。

⚠ 危険

ブレーキディスクにオイルやグリースが付着していないことを確認してください。特に整備、点検作業の後には注意が必要です。

また、ブレーキケーブルが捩じれたり、損傷がないか点検してください。

油圧系統に水や埃が混入しないように注意してください。

油圧系統のメンテナンスをする際はゴム手袋の着用をお薦めします。

ブレーキ液が皮膚に付いたり、眼に入ったりすると激しい炎症を起こすことがあります。

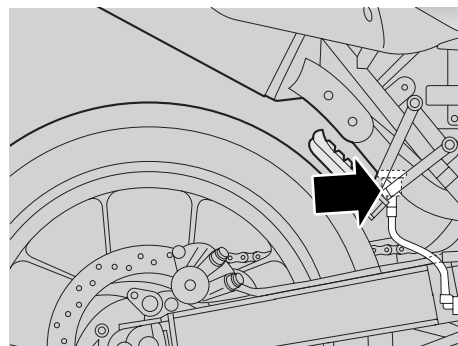
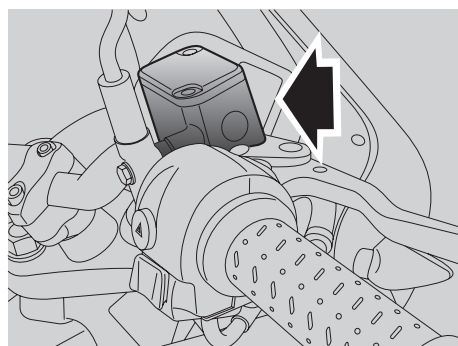
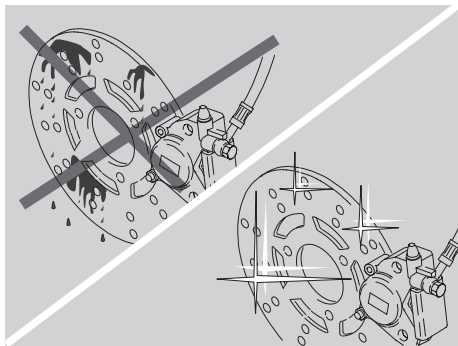
⚠ 危険

ブレーキ液が身体に付いた時は、その部分を丁寧に洗ってください。眼に入った場合は眼科医または医師の診察を受けてください。

環境汚染を防ぐために、所定の場所以外に液を廃棄しないでください。

子供の手の届かない場所に保管してください。

⚠ 注意

ブレーキ液を扱うときはプラスチック部品や塗装部分にこぼすと損傷を与えますので注意してください。

ディスクブレーキ

⚠ 危険

ブレーキはライダーの安全を守る重要な装置です。常に確実に作動するようメンテナンスする必要があります。また、走行の前には必ず点検してください。

ディスクが汚れていればパッドも汚れ、その結果、ブレーキ機能に問題を起こす原因になります。
パッドが汚れた場合は、すぐに交換し、ディスクの汚れは、高度の油汚れおとしを使用して拭き取ります。
ブレーキ液は､2 年ごとに aprilia 社オフィシャルディーラー に依頼して交換してください。
93 ページ (指定油脂類表) に記載された指定ブレーキ液を使用してください。

重要事項 本車体は、フロント、リアとも、それぞれ独立した油圧系統による二つのブレーキシステムの、ディスクブレーキを装備しています。

フロントブレーキシステムは、シングルディスクブレーキ (左側のみ) です。

リアのブレーキシステムは、シングルディスクブレーキ (右側のみ) です。

以下の説明は一つのブレーキ系統についてですが、内容はフロント、リア共に共通です。

ブレーキパッドが摩耗すると、摩耗した分を補うためにブレーキ液が減ります。

フロントブレーキ液タンクは、右ハンドル上のフロントブレーキレバー・マウントの近くにあります。

リアブレーキ液タンクは、車両右側のリアブレーキレバー付近にあります。

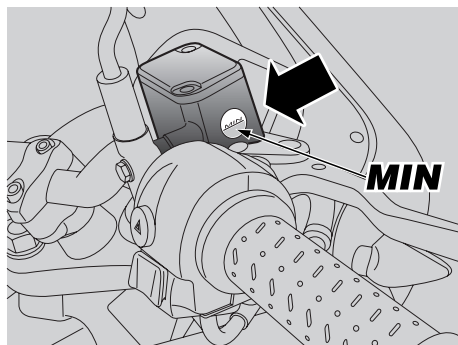
重要事項 車両を雨や埃の多い場所、凸凹な激しい道路で使用する場合は、メンテナンスの回数を増やしてください。

初回は 1000 km (625 mi) 走行後、その後は 10000 km (6250 mi) 走行ごとに、ブレーキディスクの点検を **aprilia 社オフィシャルディーラー**に依頼してください。

出発前には、タンク内のブレーキ液レベルをチェックして下さい。 35 ページ (フロントブレーキ)、37 ページ (リアブレーキ) 参照。またディスクパッドの摩耗も必ずチェックして下さい。72 ページ (ブレーキパッドの摩耗の点検) 参照。

aprilia 社オフィシャルディーラーに依頼して、2 年ごとにブレーキ液の交換を行って下さい。

⚠ 危険

ブレーキ系統からのオイル漏れが見られる場合は車両を使用しないでください。

フロントブレーキ

ブレーキ液の点検

◆ 車体を垂直に保ち、ハンドルバーを回し、タンク内の液面がタンクカバーと平行になるようにします。
◆ タンク内のオイル液面が "**MIN**" マークより上にあることを確認します。

MIN= 最小レベル

オイルの液面が "**MIN**" マークの線より下の場合：

⚠ 注意

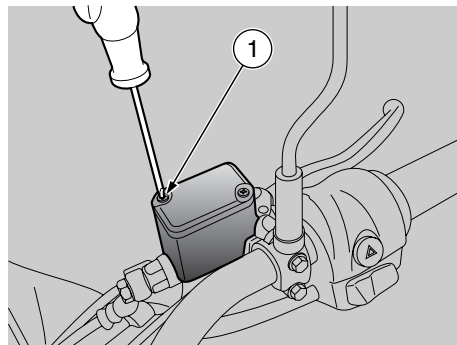
液面はブレーキパッドの摩耗につれて徐々に下がってきます。

◆ ブレーキパッドの摩耗を点検し、72 ページ（ブレーキパッドの摩耗の点検）ディスクの磨耗も点検します。

ブレーキパッドまたは / 及びディスクを交換する必要がなければ、補充を行って下さい。

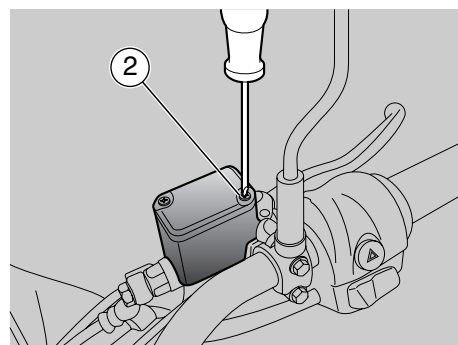
補給

33 ページ (ブレーキ液 - 注意事項) をよく読んでください。

⚠ 注意

ブレーキ液がタンクから溢れ出す危険があります。ネジ (1)、(2) を緩めている状態やタンクキャップを外した状態では、決してフロントブレーキレバーを操作しないでください。

⚠ 注意

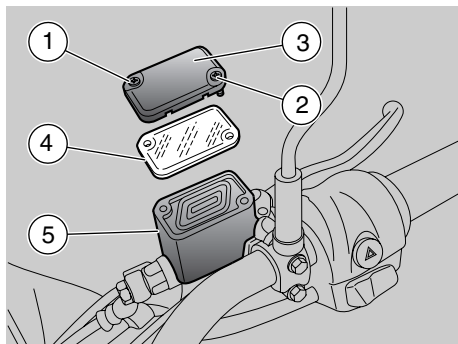
ブレーキオイルがタンクから溢れ出す危険に備えて、タンクの下に布をあてがってください。

◆ 車体を垂直に保ち、ハンドルバーを回し、タンク内の液面がタンクカバーと平行になるようにします。
◆ 短いマイナス・スクリュードライバーを使ってスクリュー (1) を緩めます。

◆ ネジ (2) を緩めます。

⚠ 危険

ブレーキオイルを長時間空気に触れさせないよう注意してください。

ブレーキオイルには吸湿性があり、空気に触れると湿気を含んでしまいます。

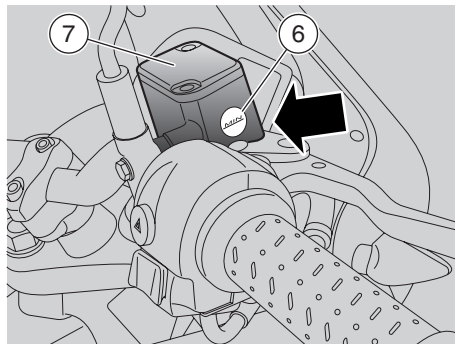
補充のため必要な場合にのみ、タンクキャップを開けるようにしてください。

◆ ネジ (1) と (2)、および内側保護カバー(4)と一体で、タンクキャップ (3) を取り外します。
◆ オイルシール (5) を取り外します。

⚠ 注意

オイルをこぼさないよう、補充中は車体を揺らさないでください。

オイルには、添加物やその他の物質を混ぜないで下さい。

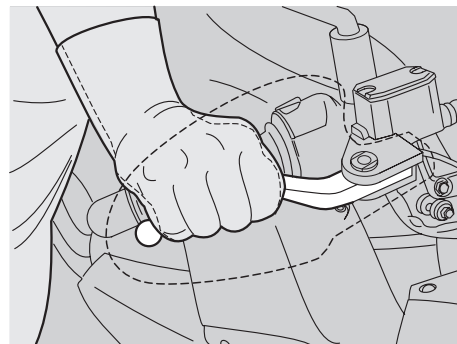
じょうご等を使用する場合には、清潔なものであることを確かめてから使用して下さい。

重要事項　タンク面と地面を平行にした状態で、点検窓が (6) が隠れるまで充填すると、最大レベル "**MAX**" に達します。

◆ 適正レベルに達するまで、タンク (7) にブレーキ液を充填します。93 ページ (指定油脂類表) 参照。

⚠ 注意

補充の際は液面が "MAX" レベルを超えないようにしてください。

"MAX" レベルまで充填するのはブレーキパッドが新品の場合のみにしてください。

ブレーキパッドが摩耗しているときはブレーキ液を "MAX" レベルまで充填しないでください。新品のパッドに交換した際にブレーキオイルが溢れ出す危険があります。

◆ ガスケット (5) を取り付けます。
◆ 内側保護カバー(4) とタンクキャップ (3) を取り付けます。
◆ ネジ (2) を締めます。
◆ ネジ (1) を締めます。

⚠ 危険

ブレーキの効き具合を点検してください。

ブレーキレバーの作動範囲が極端に大きかったり、ブレーキの制動力が落ちたりしたときなどは、エア抜き作業が必要な場合がありますので aprilia 社オフィシャルディーラーにご相談ください。

リアブレーキ

ブレーキ液の点検

◆ 車体を垂直状態に保ちます。
◆ タンク内のオイル液面が "**MIN**" マークより上にあることを確認します。

MIN= 最小レベル
MAX = 最大レベル

オイルの液面が "**MIN**" マークの線より下の場合：

⚠ 注意

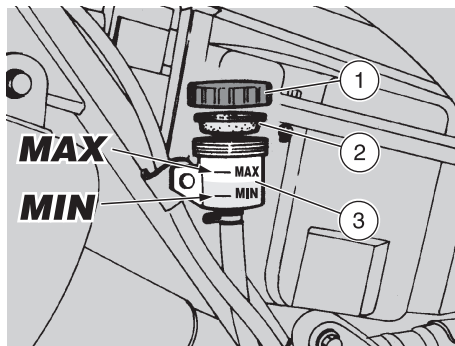
液面はブレーキパッドの摩耗につれて徐々に下がってきます。

◆ ブレーキパッドの摩耗を点検します。72 ページ（ブレーキパッドの摩耗の点検）参照。

ブレーキパッドまたは / 及びディスクを交換する必要がなければ、補充を行って下さい。

補給

33 ページ (ブレーキ液 - 注意事項) をよく読んでください。

⚠ 注意

ブレーキ液がタンクから溢れ出す危険があります。タンクキャップを取り外した状態では、決してリアブレーキペダルを操作しないでください。

⚠ 危険

ブレーキオイルを長時間空気に触れさせないよう注意してください。

ブレーキオイルには吸湿性があり、空気に触れると湿気を含んでしまいます。

補充のため必要な場合にのみ、タンクキャップを開けるようにしてください。

◆ キャップ (1) を回して取り外します。
◆ オイルシール (2) を取り外します。

⚠ 注意

オイルをこぼさないよう、補充中はオイル液面とタンクの縁が平行 (水平位置) を保つようにしてください。

オイルには、添加物やその他の物質を混ぜないで下さい。

じょうご等を使用する場合には、清潔なものであることを確かめてから使用して下さい。

◆ 93 ページ (指定油脂類表) に指定されたブレーキ液を、液面がタンク (3) の "**MIN**" と "**MAX**" マークの間に来るまで補充します。

⚠ 注意

“MAX” レベルまで充填するのはブレーキパッドが新品の場合のみにしてください。

ブレーキパッドが摩耗しているときはブレーキオイルを "MAX" レベルまで充填しないでください。新品のパッドに交換した際にブレーキオイルが溢れ出す危険があります。

ブレーキの効き具合を点検してください。

ブレーキレバーの作動範囲が極端に大きかったり、ブレーキの制動力が落ちたりしたときなどは、エア抜き作業が必要な場合がありますので aprilia 社オフィシャルディーラーにご相談ください。

冷却液

⚠ 注意

冷却液の量が規定レベル“MIN”以下のときは車両を使用しないでください。

重要事項 車両を雨や埃の多い場所、凸凹な激しい道路で使用する場合は、メンテナンスの回数を増やしてください。

出発前に冷却液のレベルを点検してください。39 ページ (冷却液の点検と補充) 参照。冷却液は、**aprilia** 社オフィシャルディーラーに依頼し 2 年毎に交換してください。

⚠ 危険

冷却液は有毒ですので決して飲み込まないでください。また、皮膚に付いたり眼に入ると炎症の原因になります。

冷却液が皮膚に付いたり、眼に入ったりした時は、流水で充分に洗い落とし医師の診察を受けてください。誤って飲み込んだ場合には吐き出してから喉、口を水で充分に洗浄し、直ちに医師の診察を受けてください。

子供の手の届かない場所に保管してください。

環境汚染を防ぐために、所定の場所以外に液を廃棄しないでください。

⚠ 危険

熱くなっているエンジンに冷却液をこぼさないよう注意してください。目にみえない炎を発し火災の原因になります。

メンテナンスの際はゴム手袋の着用をお薦めします。

⚠ 注意

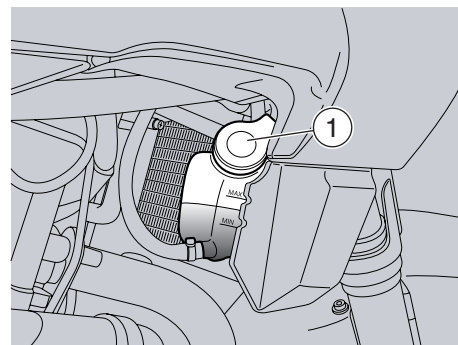
交換は aprilia 社オフィシャルディーラーに依頼してください。

冷却液の混合構成は水 50%と不凍液 50%です。

この混合率の冷却液は通常の使用温度範囲において最適であり、また防錆効果も良好です。

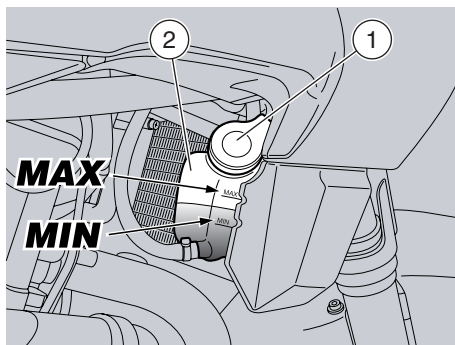
この混合率の冷却液は蒸発による減少が小さく、したがって補充回数も少なくてすみますので、夏季も含めて一年中この混合率を維持するようお薦めします。

また、蒸発によってラジエーターの中に残るミネラル結晶の発生も少なくなるため、冷却系統の性能を効率良く維持することができます。

外気温が0℃ 以下になる場合は頻繁に冷却系統の点検を行なってください。必要ならば不凍液の混合率を (最大 60% まで) 上げてください。

エンジンに損傷を与えないよう、冷却液の水は蒸留水のみ使用してください。

⚠ 危険

エンジンが熱い間はエキスパンションタンクのキャップ (1) を決して外さないでください。冷却液の温度が高い場合があり危険です。

冷却液が皮膚や衣服につくとひどい火傷や衣類の損傷をおこすことがあります。

冷却液の点検と補充

⚠ 危険

冷却液の点検や補充はエンジンが冷えている時に行なってください。

◆ エンジンを停止し、冷めるまで待ちます。
◆ 両輪を地面に着けたまま車体を垂直に保持します。
◆ エキスパンションタンク(2)内の液体レベルが「**MIN** 」と「**MAX COLD LEVEL** 」の間にあることを確かめてください。

MAX COLD LEVEL= 最大レベル
MIN= 最小レベル

そうでない場合は次の手順で補充してください :

◆ キャップ (1) を緩めて外します。

⚠ 危険

冷却液は有毒ですので決して飲み込まないでください。また、皮膚に付いたり眼に入ると炎症の原因になります。
指や他の物品を挿入して冷却液の有無を調べないでください。

⚠ 注意

オイルには、添加物やその他の物質を混ぜないで下さい。

じょうご等を使用する場合には、清潔なものであることを確かめてから使用して下さい。

◆ **MAX** マークに達するまで冷却液を補給します。93 ページ (指定油脂類表) 参照。ただしこのマークを超えないよう注意してください。エンジン作動中に冷却液がタンクから溢れ出す危険があります。
◆ 注入口のキャップ (1) を元どおり締めます。

⚠ 注意

冷却液の減りかたが激しかったり、エキスパンションタンクが空になったりする場合は、冷却液の回路に液漏れがないか点検してください。修理は aprilia 社オフィシャルディーラー に依頼してください。

タイヤ

STRADA モデルはチューブレスタイヤ、**TRAIL** モデルはチューブインが搭載されています。

重要事項 車両を雨や埃の多い場所、凸凹な激しい道路で使用する場合は、メンテナンスの回数を増やしてください。

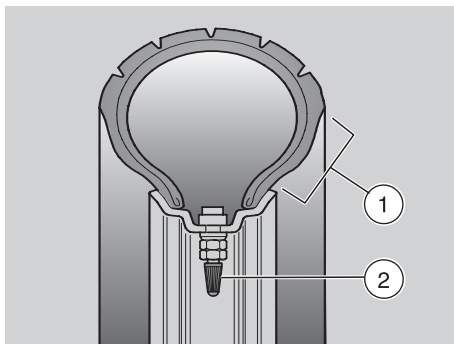
⚠ 危険

室温でのタイヤ空気圧を 15 日ごとに点検してください。

1000 km (625 mi) 毎にタイヤの状態、室温での空気圧を点検してください。90 ページ (テクニカルデータ) 参照。

⚠ 危険

定期的に室温でタイヤの空気圧を点検してください。
90 ページ (テクニカルデータ) 参照。
タイヤが熱くなっている時には正確な測定はできません。
特に長距離走行の前後には必ずチェックを行なってください。

空気圧が高すぎると、通路の起伏に対処できずハンドルを取られたり、クッションが悪くなったりし、カーブでの路面グリップ力もなくなります。

また逆に空気圧が低すぎると、タイヤの側面 (1) に負荷がかかり、リムからずれたり浮き上がったりして車体のコントロールを失う危険があります。

特に急ブレーキの際にはリムから外れる危険もあります。

カーブでは車両が横滑りする可能性が高くなります。

⚠ 危険

タイヤの状態が悪いと路面グリップ力や操縦性を損ないますので、タイヤの接地面や側面の状態、および摩耗を常に点検してください。

本車両用に保安基準認定を受けたタイヤのうち、種類によっては摩耗度の表示を備えたものがあります。

摩耗度表示にはいくつかのタイプがあるので、磨耗の点検方法に関してはお買い上げ先にお尋ねください。
タイヤの磨耗状態を目視点検し、磨耗している場合は交換してください。

全体が摩耗していたり、トレッドに 5 mm 以上の亀裂があるような場合は、タイヤの交換を依頼してください。

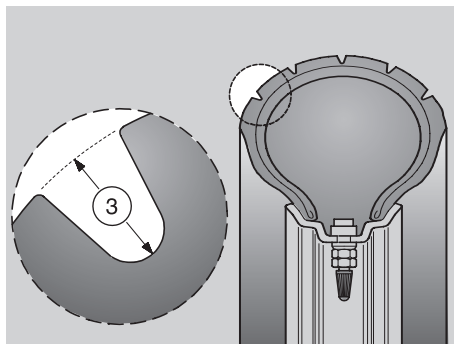
タイヤの修理を受けた後は必ずホイールバランスの点検を受けてください。

⚠ 危険

交換用タイヤは当社指定のタイプ、モデルのものを使用してください。90 ページ (テクニカルデータ) 参照。それ以外のものを使用すると車両運転時の安定性に欠けることがあり危険です。

チューブレスタイヤのリムにエアーチューブ付タイヤを装着したり、その逆を行なったりしないでください。

空気漏れを防ぐため、常にバルブキャップ (2) を使用してください。

タイヤの交換、修理、メンテナンス、ホイールバランシングは非常に重要な作業のため、適切な設備と熟練した技術が必要です。

⚠ 危険

この作業は、**aprilia** 社オフィシャルディーラーまたは、資格および経験を持つタイヤ交換所で行ってください。
新しいタイヤは、滑りやすいフィルムでカバーされている可能性がありますので、最初の数キロは注意して走行してください。
タイヤ表面に不適切な液体やオイルを塗らないでください。タイヤは古くなると硬化し、たとえ摩耗していなくても路面のグリップ力が落ちます。
このような時には新品と交換してください。

タイヤ摩耗限界・溝の深さ (3) :

フロント、リア 共に 2 mm。
いずれの場合にも、車両を使用する国の、現行の法規定により定められている値を下回らないでください。

エンジンオイル

⚠ 危険

エンジンオイルを毎日、かつ長期間扱っていると皮膚に重大な損傷を与えることがあります。

使用後は、必ず手をよく洗って下さい。

子供の手の届かない場所に保管してください。

環境汚染を防ぐために、オイルを定められた場所以外に放置しないで下さい。

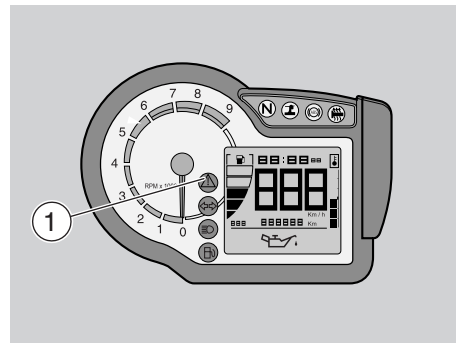
使用済みのオイルは密閉容器に入れ、行きつけのガソリンスタンド、オイル処理施設等へ持参して処理を依頼してください。

メンテナンスの際はゴム手袋の着用をお薦めします。

⚠ 注意

エンジン作動中に、インストルメントパネルの警告ランプ (1) と油圧シンボルが同時に点灯する場合は、油圧不足を意味します。

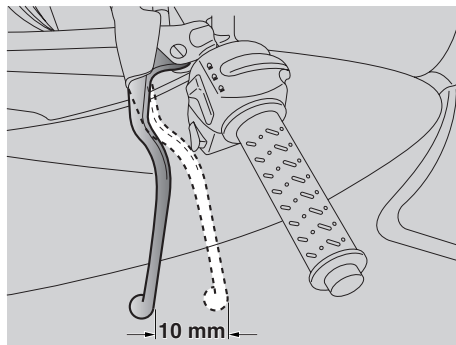
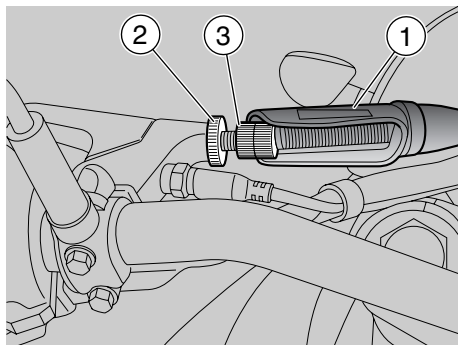
この場合は、エンジンオイルレベルを点検してください。61 ページ (エンジンオイル量の点検と補充) 参照。エンジンオイルレベルが適切でない場合は直ちにエンジンを停止し、**aprilia** 社オフィシャルディーラーに連絡してください。

⚠ 注意

取り扱いには、十分注意してください。
オイルを撒き散らさないように注意してください！
整備中の部品やその周りにオイルをつけないように注意してください。オイルが付着した場合は丁寧に拭き取ってください。

液漏れや不具合が生じた場合は、**aprilia** 社オフィシャルディーラーまでご相談ください。

エンジンオイルのレベルチェックは定期的に行ってください。61 ページ (エンジンオイル量の点検と補充) 参照。

エンジンオイルの交換に関しては、58ページ (定期管理表) を参照してください。

重要事項 15W – 50 クラスの良質オイルを使用してください。
93 ページ (指定油脂類表) 参照。

クラッチ

クラッチの調整

最初の 1000 km (625 mi) 走行後に、その後は10000 km (6250 mi)毎にクラッチの調整を行ってください。また、エンジンを停止した時に車体が前進する（クラッチレバーを引き、ギアが入っている状態で）、もしくはクラッチが「抜け」エンジン回転数に対し加速が遅れるような場合も調整してください。

調整は以下の手順で行います：

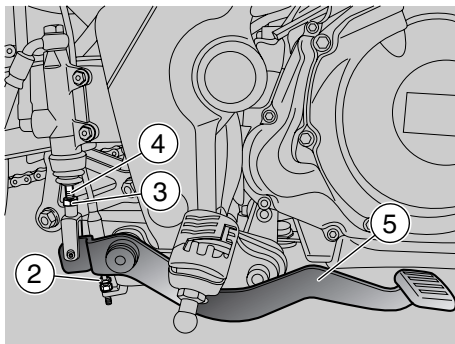
◆ スタンドに車両を配置します。55 ページ (スタンドの立て方) 参照。
◆ 保護ラバー (1) を抜き取ります。
◆ ロックナット (2) を緩めます。
◆ レバーの遊びが約 **10 mm** になるまでアジャスター (3) を回します。
◆ ロックナット (2) を締めてから、調整具合をもう一度点検します。
◆ エンジンを始動します。48 ページ (エンジンの始動) 参照。
◆ レバーを完全に引いてギアを第 1 速に入れます。

エンジンが停止しないこと、車体が前進しないこと、加速、または走行中にクラッチが「抜け」ないことを確認します。

⚠ 危険

適正調整ができない場合や不具合が生じた場合は、aprilia 社オフィシャルディーラーに問い合わせてください。

⚠ 注意

クラッチコントロールケーブルが良好な状態にあるかチェックします。潰れた箇所がないか、鎧装が磨耗していないか点検します。

リアブレーキペダルの遊びの調整

リアブレーキペダルは、組み立てられるの際、人体工学を考慮し、最適な位置に取り付けられています。
必要な場合はリアブレーキペダルの遊びを調整することも可能です：

◆ アジャスター (2) を完全に緩めます。
◆ マスターシリンダー・コントロールロッド (4) のロックナット (3) を完全に緩めます。
◆ マスターシリンダー・コントロールロッド (4) を完全に緩めてから、締め戻します（3 – 4 回転）。
◆ ブレーキレバーが希望の高さに来るまで、アジャスター (2) を締めます。
◆ マスターシリンダー・ピストンと接触するまで、ロッド (4) を締めます。
◆ ロッド (4) とピストンとの間隙が最小 **0.5 ～ 1** mm になるようにロッドを回します。

⚠ 注意

ブレーキペダル (5) の遊びを確認してください。遊びがないと、ブレーキが解除されずブレーキパッドやディスクが早く摩耗します。

ブレーキペダル (5) の遊び : 4 mm (ペダル先端で測定)

◆ マスターシリンダーコントロールロッド (5) をロックナット (4) で固定します。

⚠ 注意

調整後、ブレーキを解除した時にリアホイールが自由に回転することを確認してください。

ブレーキの効き具合を点検してください。必要な場合は、aprilia 社オフィシャルディーラー に連絡してください。

エキゾーストシステム・サイレンサー

重要事項　以下の説明は 1 本のサイレンサーに関するものですが、もう 1 方のサイレンサーに関しても同様です。

⚠ 危険

触媒システム付きの車両は、触媒サイレンサーが非常に高温に達します。木屑など発火性の高い物がある所や子供の手に届く所に停車しないでください。取り扱いには注意を払い、サイレンサーが冷え切るまで手を触れないでください。

触媒システム付き車両は白金 - ロジウム 2 価タイプのメタリック触媒サイレンサーを装備しています。

このシステムは排気ガス中に含まれている CO(一酸化炭素) と HC (不燃性炭化水素) を二酸化炭素と蒸気に変換します。

⚠ 注意

触媒システムの損傷を防ぐため、無鉛ガソリンのみを使用してください。

サイレンサー

⚠ 危険

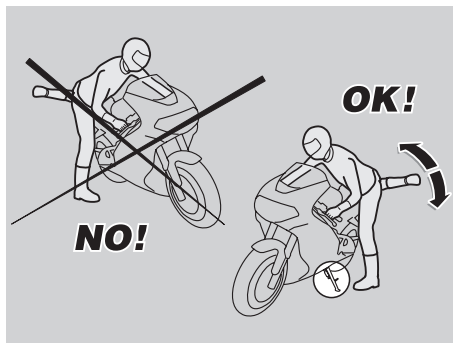
騒音制御装置に手を加えることは禁止されています。

車両のオーナーに対しては、法律で次のような項目が禁止されています：

- メンテナンス、修理もしくは部品交換目的以外で、車両の最終購入者への販売、納車前、もしくは車両使用中に、騒音抑制のために新車に装着されている構成装置、部品を取り外したり作動できなくすること。
- 上記の装置や部品を取り外したり、作動できなくした後で、車両を運転すること。

エキゾーストサイレンサー、サイレンサーパイプに錆や穴がないかチェックして、排気装置が正常に働いていることを確かめてください。

排気装置が発する騒音が増大する場合には、**aprilia 社オフィシャルディーラー**まで直ちにご相談ください。

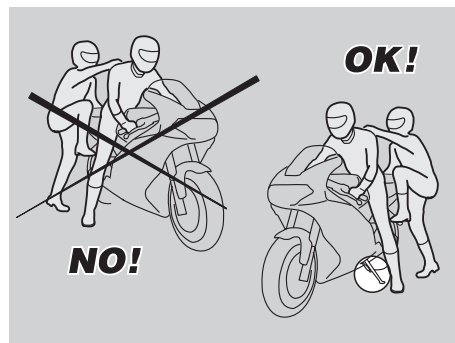
車両使用上の注意

車両への乗り降り

次の安全のための注意事項は特に注意してお読みください。ドライバーやパッセンジャーが車両から転落したり、車両が転倒したりすることによる、人身傷害や器物および車両への損傷を防ぐためのものです。

⚠ 危険

転落や転倒の危険があります。
取り扱いには、十分注意してください。

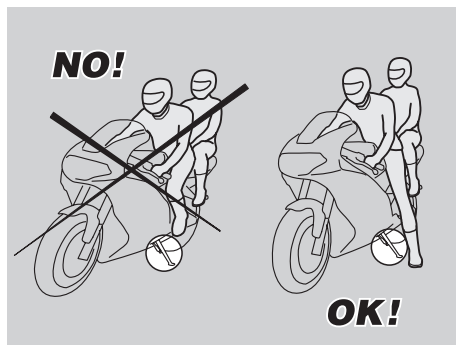
車両への乗り降りは、自由に身動きが取れ、また両手に何も（物体、着用していないヘルメット、グローブ、眼鏡など）持たない状態で行なってください。

車両には２つのスタンドが装備されています：センタースタンド、サイドスタンド。

⚠ 注意

センタースタンドを立てた状態での始動は避けてください。ギアを入れると車体のコントロールを失うことがあります。
ライダー、パッセンジャー共に、センタースタンド を立てた状態で乗車しないでください。
運転姿勢から センタースタンドを降ろすことは禁止されています。

車両への乗り降りは、必ず車体の左側から、また必ずサイドスタンドを降ろした状態で行なってください。

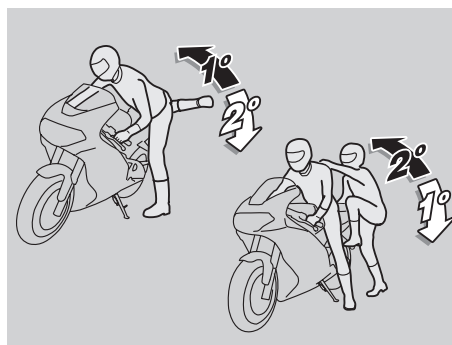
⚠ 注意

サイドスタンドにはライダー、パッセンジャーの体重をかけないようにしてください。

サイドスタンドは車体重量とわずかな重量の積荷を支えられるよう設計されています。ライダーやパッセンジャーの体重は含まれていません。

サイドスタンドを立てた状態で乗車するのは、転落や転倒の危険を防ぐことのみが目的です。サイドスタンドにはライダーやパッセンジャーの体重は含まれていません。

乗り降りの際、車体重量のためバランスを失い、転落や転倒する危険があります。

重要事項 必ずライダーが先に乗り、後で降りるようにしてください。パッセンジャーが乗り降りする間は、ライダーがバランスを取り安定を確保します。

一方、パッセンジャーは車体やライダーのバランスを崩さないよう、慎重に乗り降りしてください。

重要事項 乗り降りの方法をパッセンジャーに指示するのはライダーの役割です。

車両にはパッセンジャーの乗り降りのためのパッセンジャーフットレストが備えられています。パッセンジャーは乗り降りの際必ず左側のフットレストを使用してください。

飛び降りようとしたり、地面まで直接足を伸ばして降りようとしたりすることはやめてください。このような行為は車体のバランスを崩し安定を失う原因となります。

重要事項 車体後方の積荷や取り付け物などが乗り降りの妨げとなる場合があります。

いずれの場合にも、車体のバランスを崩さないよう慎重に右足を動かして車体後部（テール部または積荷）の上を通してください。

乗り方

- ◆ ハンドルを正しく握り、サイドスタンドに体重をかけないように注意しながら乗ります。

重要事項 両足とも地面に着けることが無理な場合は、右足を着け(バランスを崩しても左側はサイドスタンドで「守られて」います)、左足はすぐに着けられるようにしておきます。

- ◆ 両足を地面に着け、車体を走行時の状態にまっすぐ起こしてバランスを保ちます。

重要事項 運転姿勢を取っているライダーがパッセンジャーフットレストを引き出そうとしてはいけません。車体のバランスを崩し安定を失う原因となります。

- ◆ パッセンジャーに指示して両側のパッセンジャーフットレストを引き出します。
- ◆ パッセンジャーに乗り方を指示します。
- ◆ 左足を使い、サイドスタンドを完全に収納します。

降り方

◆ 駐車場所を選んでください。
54 ページ (パーキング) 参照。
◆ 車両を停止します。54 ページ (停車) 参照。

⚠ 危険

障害物のない堅く水平な場所に駐車してください。

◆ 左足のかかとを使いサイドスタンドを完全におろします。

重要事項 両足とも地面に着けることが無理な場合は、右足を着け (バランスを崩しても左側はサイドスタンドで「守られて」います)、左足はすぐに着けられるようにしておきます。

◆ 両足を地面に着け、車体は走行時の状態に起こしたままバランスを保ちます。
◆ パッセンジャーに降り方を指示します。

⚠ 注意

転落や転倒の危険があります。

パッセンジャーが降りたことを確認してください。
サイドスタンドに体重をかけないようにしてください。

◆ サイドスタンドが地面に着くまで車体を傾けます。
◆ ハンドルを正しく握って降ります。
◆ ハンドルを完全に左に回します。
◆ パッセンジャーフットレストを収納します。

⚠ 注意

車体が安定しているか確認してください。

走行前の点検

⚠ 危険

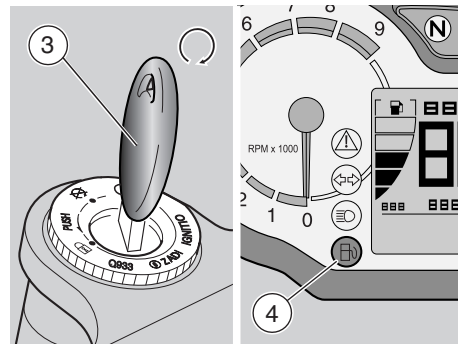
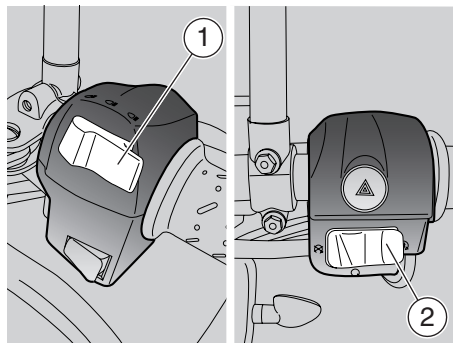
走行を始める前には必ず予備点検を行ない、車両が確実に機能することを確認してください。「走行前の点検」表参照。

事前チェック怠った場合には、ライダー本人以外だけでなく第三者および車両への損傷をきたす可能性があります。

aprilia 社オフィシャルディーラー機能が明確でない操作系がある場合、また不具合や異常に気付いたり、その疑いがある場合は、に、ためらわずに、連絡してください。

走行前の点検はライダーの安全のためにとても重要です。短時間でできますので必ず実施してください。

走行前の点検

項目	点検内容	ページ
フロント・リアディスクブレーキ	正常に作動するかをチェック。レバーの遊び、ブレーキ液レベル、漏れの有無などを調べる。 ブレーキパッドの摩耗を点検。 必要な場合はブレーキ液を補充。	33 ページ (ブレーキ液 - 注意事項)、34 ページ (ディスクブレーキ)、35 ページ (フロントブレーキ)、37 ページ (リアブレーキ)、72 ページ (ブレーキパッドの摩耗の点検)
スロットル	全てのステアリングポジションでスロットルがスムーズに働くこと、開閉が完全にできることを調べる。必要な場合は、調節を行なうか、潤滑する。	74 ページ (スロットルグリップの調整)
エンジンオイル	点検後、必要であれば補給。	41 ページ (エンジンオイル)、61 ページ (エンジンオイル量の点検と補充)
ホイール・タイヤ	タイヤの表面の状態、空気圧、磨耗状態、損傷があるかなどをチェックする。 タイヤのトレッドの溝に異物がはまった場合は、取り除いて下さい。	40 ページ (タイヤ)
ブレーキレバー	ブレーキがスムーズに作動することを点検。 必要ならばジョイント部の潤滑や作動ストロークを調整。	43 ページ (リアブレーキペダルの遊びの調整)
クラッチ	クラッチレバー先端の遊びは約 10 mm。スナッチが出ないこと、抜けないことを確認。	42 ページ (クラッチ)
ステアリング	左右の回転が均一で、スムーズ、また遊びや緩みがないことを調べる。	–
サイドスタンド、セントラルスタンド OPT (国によっては標準装備)	正しく作動することを確認。スムーズに作動し、開閉の際に引っかかりなどがないこと、スプリングにより正しい収納ポジションに戻ることを確認。 必要な場合はジョイント部を潤滑。 サイドスタンドの安全スイッチが正常に動作することを確認。	81 ページ (スイッチ類の点検)
固定部品	固定された部分が緩んでいないか調べる。必要な場合は調整、締め直します。	–
ドライブチェーン	遊びを点検。	68 ページ (ドライブチェーン)
燃料タンク	レベルを点検し、必要な場合は補給。 燃料供給系統に漏れがないことを確認。 注入口のキャップが正しく閉まっているか調べる。	31 ページ (燃料)
冷却液	液体のレベルが「**MIN**」と「**MAX COLD LEVEL**」の間であることを確認。	38 ページ (冷却液)、39 ページ (冷却液の点検と補充)
スターター / エンジンストップスイッチ (◯-⊗-◯)	機能が正常に働くことを調べる。	25 ページ参照 [スターター／エンジンストップスイッチ (◯-⊗-◯)]
ライト、警笛ホーン、リアストップライトスイッチ、電気装置。	ライト、警笛、各システムが正常に働くことを調べる。必要な場合はバルブの交換や故障部分を修理。	77 ページ (バッテリー) – 86 ページ (ナンバープレートランプ電球の交換)

エンジンの始動

⚠ 危険

ハンドル操作やインストルメントパネルの視界を妨げないために、フロントフェアリングの内側 (ハンドルとインストルメントパネルの間) には何も置かないでください。

重要事項 エンジンを始動する前に「安全運転のために」の章を注意してお読みください。
5 頁 (安全運転のために) 参照。

⚠ 危険

排気中には吸引すると大変危険な一酸化炭素が含まれています。

閉め切った室内や換気の悪い場所でエンジンを始動しないでください。
上記の警告を無視すると、意識の喪失、および窒息死にまで至る可能性があります。

重要事項 サイドスタンドが降りた状態では、ギアがニュートラルポジションにある時だけエンジンをかけることができます。この場合、ギアをニュートラル以外のポジションに入れようとするとエンジンが停止します。

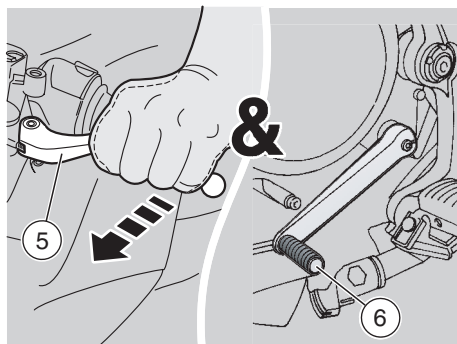
サイドスタンドが収納されている状態では、ギアがニュートラルポジションの時、クラッチが切ってあればどこのポジションでも、エンジンをかけることができます。

- ◆ 乗車します。44 ページ (車両への乗り降り) 参照。
- ◆ サイドスタンドが完全に格納されているか確認してください。
- ◆ ディマースイッチ (1) を ≣D の位置にします。
- ◆ エンジンストップスイッチ (2) を "○" 側に押します。
- ◆ イグニッションキー (3) を "○" の位置に回します。

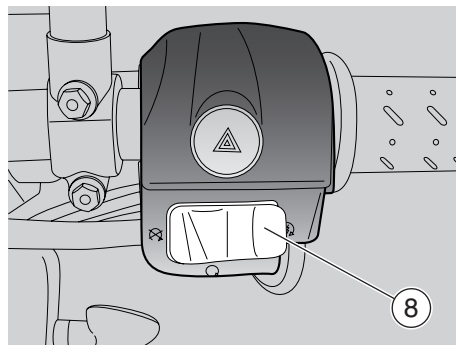
メーターパネルの警告灯がすべて点灯し、すぐに消灯します。

ポンプが燃料回路を加圧する音が約 3 秒聞こえます。

⚠ 注意

メーターパネル上の燃料警告灯"⛽"(4)が点灯した場合は、できるだけ速やかに燃料を補充してください 31 ページ (燃料) 参照。

- フロントブレーキレバーをいっぱいに引きます。
- クラッチレバー(5) をいっぱいに引いて、シフトペダル (6) をニュートラルにします [グリーンのインジケーター "N"(7) が点灯]。

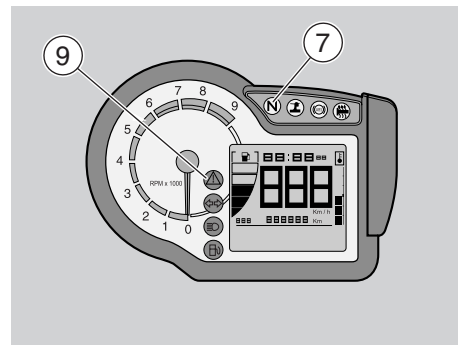
⚠ 注意

バッテリーの消耗を避けるため、スタータースイッチは "⚡" の位置で 15 秒以上押し続けないでください。
この間にエンジンが始動しない場合は、10 秒間待ってから再度スターターボタンを "⚡" で押します。

- スロットルグリップを戻した状態でスターターボタン (8) を "⚡" の位置で押します。エンジンが始動したら直ぐに離してください。

⚠ 注意

スターターモーターを損傷する危険がありますので、始動したらスターターボタン "⚡" (8) をの位置で押さないでください。

エンジン作動中に、インストルメントパネルの警告ランプ ⚠ (9) と油圧シンボルが同時に点灯する場合は、油圧の不足を意味します。
この場合は、エンジンをすぐ停止して、aprilia 社オフィシャルディーラーに連絡してください。

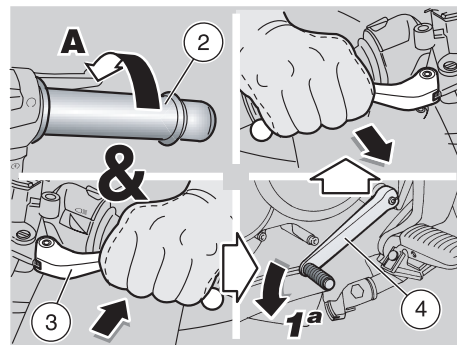
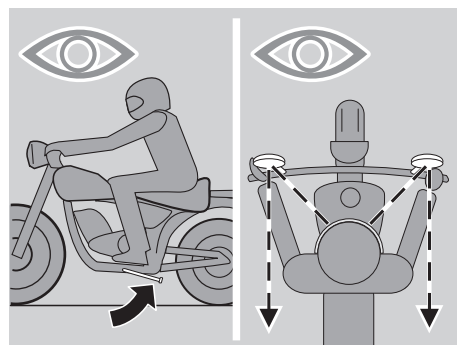
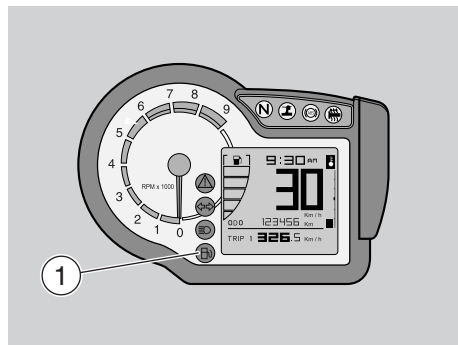
- 発進するまで、少なくとも片方のブレーキレバーを引き、加速をしないでください。

⚠ 注意

暖機される前に急激な発進をしないでください。

汚染物質の排出や無駄な燃料の消耗を防ぐために、数キロ間は、速度を落として、エンジンを温めることに心がけてください。

⚠ 注意

警告灯 ⚠ (9) が消灯しない、もしくはエンジン作動中に「EFI"」と同時に点灯する場合は、コントロールユニットが異常を検出したことを意味します。

多くの場合、エンジンは限られた性能で作動し続けます。aprilia 社オフィシャルディーラーにご連絡ください。

発進と走行

⚠ 危険

ハンドル操作やインストルメントパネルの視界を妨げないために、フロントフェアリングの内側（ハンドルとインストルメントパネルの間）には何も置かないでください。

重要事項　発進の前に「安全運転のために」の章をよく読んでください。5 頁 (安全運転のために) 参照。

⚠ 注意

走行中に、メーターパネル上に燃料警告灯“"(1) が点灯した場合は、燃料残量が 5 リットルであることを示します。
燃料の補給をすぐ行ってください。31 ページ (燃料) 参照。

⚠ 危険

パッセンジャーが乗車していない場合は、パッセンジャー用フットレストが閉じていることを確認してください。

また運転中は常に両手でハンドルをしっかり握り、両足はフットレストに載せておいてください。

決して変則的な姿勢で運転しないでください。

⚠ 危険

パッセンジャーが乗る場合には、運転中にライダーのハンドル操作を妨げないように注意を促してください。

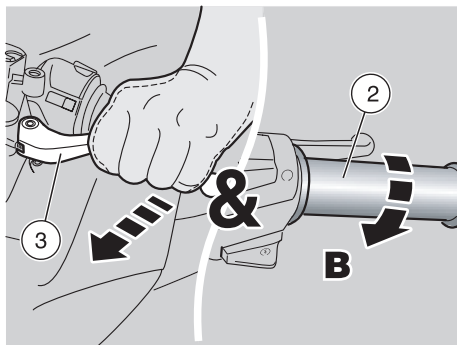
発進の前に、スタンドが完全に通常の位置に戻っているか確認して下さい。

発進の方法：

◆ エンジンを始動します。48 ページ (エンジンの始動) 参照。
◆ リアビューミラーの向きを正しく調整します。

⚠ 注意

停止した状態でリアビューミラーの使用法に慣れてください。ミラーの表面は凸面になっているため、対象物までの距離が実際よりも遠く見えます。「広角視界」のこのミラーに慣れていないと、後方の車両との車間距離を測るのが難しくなります。

◆ スロットルグリップ(2)を戻し (**Aの方向**)、エンジンをアイドリングにした状態で、クラッチレバー (3) を一杯に引きます。
◆ シフトペダル(4)を踏み込んでギアを1速に入れます。
◆ (エンジン始動の際に) かけておいたブレーキを放します。

⚠ 危険

発進の際、クラッチレバーを急に放すとエンストや車体の振動を起こす原因になります。

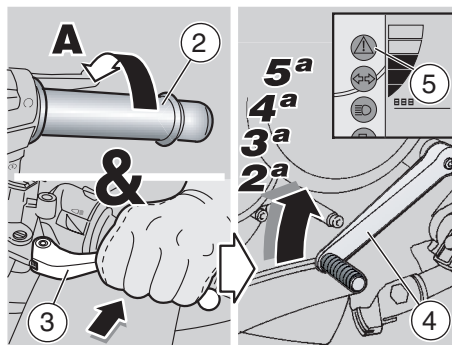
クラッチレバーを放す時は、スロットルグリップを急激に回したり、回し過ぎないようにしてください。こうした動作は、クラッチレバーをゆっくり放した場合には、クラッチが「抜けたり」、急に放した場合には前輪が浮き上がる現象を起こします。

◆ クラッチレバー (3) をゆっくり離しながらスロットルグリップ (2) を徐々に回します (**B の方向**)。

車両が発進を始めます。

◆ 最初の数キロ間は低速で走行しエンジンを温めるようにしてください。

⚠ 注意

推奨エンジン回転数を超えないでください。53 ページ (慣らし運転) 参照。

◆ スロットルグリップ (2) を徐々に回して (**B の方向**) 加速します。ただしエンジン回転数を推奨値以上に上げないでください 53 ページ (慣らし運転) 参照。

2 速へのギアチェンジ :

⚠ 注意

ギアチェンジは速やかに行なってください。

低すぎる回転数で走行しないでください。

◆ スロットルグリップ(2)を戻し(**Aの方向**)、クラッチレバー (3) を引いてからシフトペダル (4) をつま先でかき上げ、クラッチレバー (3) を戻してから加速します。

◆ ３速、4 速、5 速へとギアチェンジする場合も、前記 2 項目の操作を繰り返してください。

⚠ 注意

インストルメントパネルのランプ ⚠ (5) が消灯しない、あるいはエンジン作動中に点灯し、同時に油圧シンボルも表示される場合は、油圧の不足を意味します。

この場合は、エンジンをすぐ停止して、aprilia 社オフィシャルディーラーに連絡してください。

ギアの「シフトダウン」は以下のような場合に必要です :

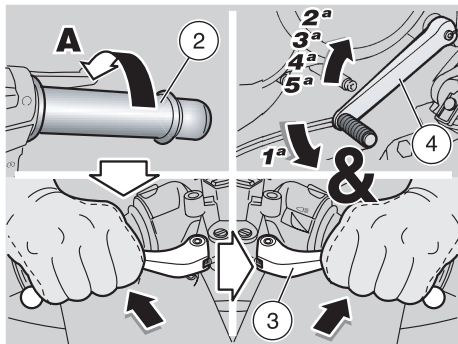
◆ 下り坂の走行やブレーキをかける際に、エンジンブレーキを併用することで制動効果をより高めたい時。

◆ 上り坂の走行で、現在のギアポジションが走行速度に適切でなく (ギアポジションに対して走行速度が低すぎる)、エンジン回転数が落ち始めた時。

⚠ 注意

シフトダウンは一段ずつ行ってください。同時に数段「シフトダウン」すると、最大許容回転数を超える「オーバーレブ」の原因となります。

「シフトダウン」の前および「シフトダウン」中は、スロットルグリップを戻し速度を落としてください。最大許容回転数を超える「オーバーレブ」の原因となります。

最大許容回転数に達すると警告灯が点滅します ⚠ (5)。

「シフトダウン」は次の手順で行ないます :

- ◆ スロットルグリップ (2) を戻します (**A の方向**)。
- ◆ 必要な場合は、ゆっくりと両輪のブレーキをかけて速度を落とします。
- ◆ クラッチレバー (3) を引いてクラッチを切り、シフトペダル (4) を踏み下げてギアをシフトダウンします。
- ◆ ブレーキをかけていた場合は、ブレーキを解除します。
- ◆ クラッチレバーを戻してからゆっくりと加速します。

⚠ 注意

ディスプレイにエラーメッセージ "⊥" が表示された場合は、冷却液温度が 118 ℃ を超えたことを示します。停車し、エンジンを 2 分間程度アイドリングした後、スターター スイッチを "⊗" の位置にして、冷却液レベルをチェックしてください。

38 ページ (冷却液) 参照。

冷却液レベルの状態がそれでも変わらない場合は、エンジンを始動せず、aprilia 社オフィシャルディーラーにご連絡ください。イグニッションスイッチを "⊗" の位置に回さないでください。冷却液温度にかかわらず冷却ファンが停止してしまい、さらに温度が上がることになります。

⚠ エンジン作動中にディスプレイにエラーメッセージ 「 SERVICE」が表示された場合は、コントロールユニットが何らかの異常を発見したことを示しています。

多くの場合、エンジンは限られた性能で稼動し続けます。aprilia 社オフィシャルディーラーにご連絡ください。

クラッチの過熱を防ぐため、エンジン稼動中に車体停止のままギアを挿入しクラッチレバーを作動させることは、できるだけ避けて下さい。

⚠ 危険

車体のコントロールを失う危険があるので、スロットルグリップを続けて何度も開閉させることは避けてください。ブレーキ操作の際は、先ずスロットルを閉じ、安定した均一な制動力を得るよう両輪のブレーキを適切に操作してください。

フロントまたはリアどちらか一方のブレーキしか使用しない場合には、制動力がかなり弱くなり、また車輪がロックしてスリップする危険があります。

傾斜面で停止する場合は、スロットルを最後まで戻し、ブレーキのみを使用して、車両を停止してください。

ブレーキを使用せずに、車体が後退しないようにエンジンをふかし続けると、クラッチが過熱し損傷を受けます。

極限での急ブレーキによって転倒や横滑りすることを避けるために、カーブに入る前には減速するか、適度な回し速度を保ったままブレーキレバーを軽く握るか、または、軽く加速
します。

下り坂でブレーキを連続的に使うとブレーキパッドが過熱し、制動力が弱まります。下り坂では必ずエンジンブレーキを活用し、フロントおよびリアブレーキは断続的に併用してください。

下り坂をエンジンを停めて走行することは絶対にやめてください。

視界不良時には、車両自体の視認性を高めるためにロービームライトを日中でも点灯してください。路面が濡れていたり、グリップが弱い状態（雪、氷、ぬかるみなど）の時は、滑って転倒する危険がありますので、速度を抑え、急ブレーキや乱暴なハンドル操作は避けてください。

⚠ 危険

路上の障害物や路面状態の変化には最大限の注意を払ってください。

凸凹の路面、鉄道のレール、マンホールの蓋、路上の塗装表示、工事現場の鉄板などは雨に濡れるとスリップしやすく危険です。このような場所では急なハンドル操作をせず、また車体をなるべく傾けずに走行してください。

車線変更や方向転換の際には早めにターンインジケーターライトで意志表示をし、急なハンドル操作や危険な運転を避けてください。

車線変更、方向転換した後は直ちにターンインジケーターライトを消灯してください。

他の車両を追い越したり、また、追い越されたりする間は、最大限の注意を払ってください。

降雨時に大型車が作る水煙は、視界をさえぎります。また、急激な空気の移動にハンドルを取られる危険性があります。

慣らし運転

慣らし運転（ランニングイン）は、エンジンを長持ちさせ、正しい性能を引き出すためにとても重要です。
エンジン、サスペンション、ブレーキが効果的にランニングインできるように、可能であれば、カーブや丘のある道を走るようにしてください。
慣らし運転中はさまざまな速度で走行するようにしてください。
こうした走行で、各パーツへ仕事の「負荷」をかけ、次いで「無負荷」にしてエンジンを冷ますことができます。
ただし、エンジンへ負荷を与えることは重要ですが、過度にならないよう注意してください。

重要事項　2000 km (1250 mi) の慣らし運転を終えないとエンジンの最高性能を引き出すことはできません。

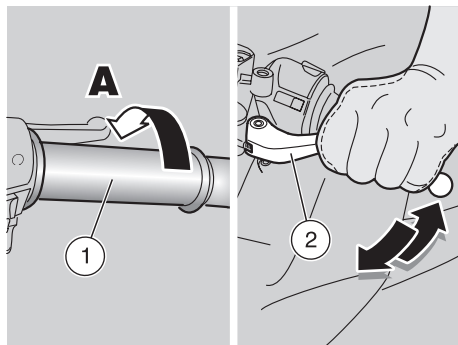
以下の注意事項を守ってください :

- ◆ エンジンが低速回転中に、急激にスロットルを開けたり全開にしたりしないでください。慣らし運転期間、慣らし運転終了後ともこの注意を守ってください。
- ◆ 最初の 500 km (312 mi) まではブレーキ操作は慎重に行ない、急ブレーキや長いブレーキ操作は避けてください。これは、ブレーキディスクとパッドを正しく馴染ませるために重要です。
- ◆ 最初の 500 km (312 mi) までは決して 4000回転／分(rpm) を超えないようにしてください。
- ◆ 500 km (312 mi) と 1000 km (625 mi) の間では決して 5000 回転／分を超えないようにしてください。

⚠ 危険

最初の 1000 km (625 mi) を走行後は、ライダー自身、第三者、および車両に危害、損傷を生じないよう、aprilia 社オフィシャルディーラーに依頼し、定期管理表の中にある「慣らし運転終了」の点検を実施してください。58 ページ (定期管理表) 参照。

- ◆ 1000 km (625 mi) と 2000 km (1250 mi) の間では、速度を様々に変化させ、短時間の最大加速を行い、各構成部品が良く馴染むような活発な運転をしてください。エンジン回転数は5500 回転/分 (rpm) を超えないでください (表参照)。
- ◆ 2000 km (1250 mi) 走行後は次第にエンジンの最高性能を引き出すことができます。

慣らし運転期間中のエンジン許容回転数	
走行距離 km (mi)	**回転数 / 分 (rpm)**
0 – 500 (0 – 312)	4000
500 – 1000 (312 – 625)	5000
1000 – 2000 (625 – 1250)	5500

停車

⚠ 危険

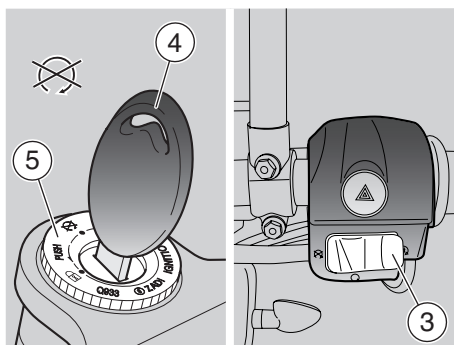
可能な限り、急激な停車や減速、また極限でのブレーキ制動は避けてください。

◆ 速度を落とすには、スロットルグリップ (1) を戻し (**A の方向**) 両輪のブレーキを徐々にかけ、同時にギアを「シフトダウン」します。50ページ (発進と走行) 参照。

速度が落ちてきたら車両を完全に停止させる前に :

◆ エンストを防止するためクラッチレバー (2) を引きます。

車両が停止したら :

◆ シフトペダルをニュートラルにします (グリーンのインジケーター "N" 点灯)。
◆ クラッチレバー (2) を放します。
◆ 一時停止中は、フロントまたはリア、少なくとも一方のブレーキをかけておきます。

パーキング

駐車場所の選択は大変重要です。交通標識を遵守し下記の注意事項をお守りください。

⚠ 危険

転倒を防ぐため、平らで安定した場所に駐車してください。

車体を壁などに立てかけたり、地面に寝かせて置いたりしないでください。
車体、特に熱くなっている部分が周囲の人々や子供にとって危険にならないよう注意してください。エンジンがかかった状態や、イグニッションスイッチにキーを挿し込んだ状態で放置しないでください。

たとえ止まっていても冷却ファンには近づかないでください。急に回り始めて衣服の端や髪の毛などを巻き込む危険があります。

⚠ 危険

転倒や車体の傾きすぎは燃料流出につながります。

エンジン内で燃焼される燃料は可燃性が高く、状況によっては爆発の恐れもあります。

⚠ 注意

サイドスタンドにはライダー、パッセンジャーの体重をかけないようにしてください。

パーキング方法 :

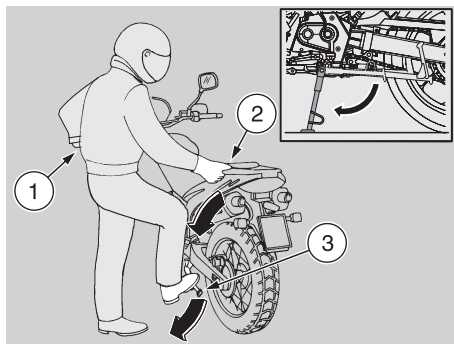
◆ 駐車場所を選びます。
◆ 車両を停止します。54 ページ (停車) 参照。
◆ エンジンストップスイッチ (3) を ⊗ 側に押します。
◆ キー (4) を回してイグニッションスイッチ (5) を ⊗ の位置に回します。

⚠ 危険

乗り降りに関する指示事項に必ず従ってください。**44 ページ (車両への乗り降り) 参照。**

◆ パッセンジャーがいる場合は、指示事項に従ってパッセンジャーを先に降りさせてから、ライダーが降ります。
◆ ステアリングをロックします。27 ページ (ステアリングロック) 参照。

⚠ 危険

車体が安定しているか確認してください。

スタンドの立て方

サイドスタンド

運転姿勢からのサイドスタンドの立て方については、44 ページ (車両への乗り降り) を参照してください。

何らかの操作 (たとえば車両の移動) のためにスタンドを格納する必要があった場合は、次の手順で再びスタンドを立ててください :

⚠ 危険

障害物のない堅く水平な場所に駐車してください。

- 駐車場所を選んでください。
  54 ページ (パーキング) 参照。
- 左スロットルグリップ (1) とハンドルバー (2) を握ります。
- 右足でサイドスタンド (3) を完全に開くまで踏み下げます。
- サイドスタンドが地面に着くまで車体を傾けます。
- ハンドルを左側いっぱいに切っておきます。

⚠ 危険

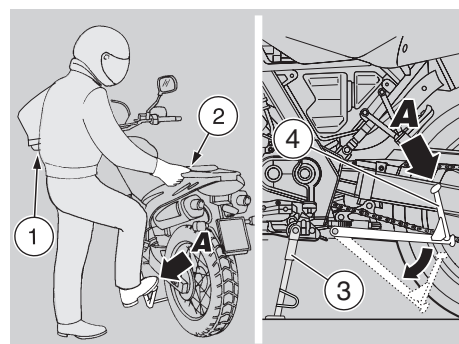
車体が安定しているか確認してください。

センタースタンド OPT (国によっては標準装備)

⚠ 危険

運転体勢でセンタースタンドを降ろすことは禁止されています。

⚠ 危険

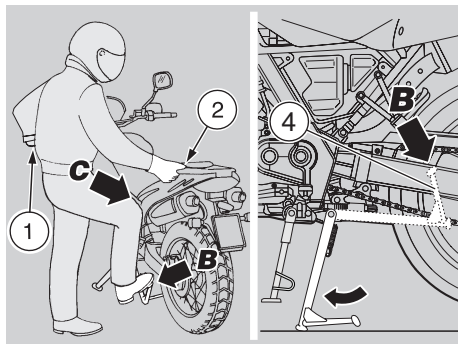
障害物のない堅く水平な場所に駐車してください。

- 駐車場所を選んでください。
  54 ページ (パーキング) 参照。
- 左スロットルグリップ (1) とハンドルバー (2) を握ります。

⚠ 注意

サイドスタンドを伸ばすのは、車体が転倒したり、平衡を失って転覆するのを避けるなど安全を期するためです。

重要事項 サイドスタンドは接地させないでください。車体を垂直状態に保ちます。

- 右足でサイドスタンド (3) を完全に開くまで踏み下げます。
- センタースタンドのレバー (4) (**Pos.A**) を地面に着くまで押します。

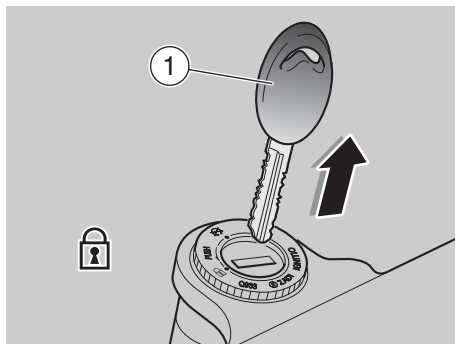
注意

取り扱いには、十分注意してください。

車体の重量のためにセンタースタンドに車体を配置するのが難しい場合があります。センタースタンドに車体を載せたら、スロットルグリップ (1) とハンドルバー(2) を放します。

◆ センタースタンドのレバー (4) (**Pos.B**) に体重を掛け、同時に車体後方に (**Pos.C**) 腰を動かします。

⚠ 危険

車体が安定しているか確認してください。

◆ サイドスタンドを収納します。

盗難防止のために

⚠ 注意

ディスクをロックする装置は使用しないでください。この注意が守られなかった場合は、ブレーキシステムを烈しく損傷したり、身体に重大な危害を与える、また場合によっては死に至る事故を引き起こす危険があります。

イグニッションスイッチにキー (1) を挿し込んだままにしないでください。常にステアリングロック "🔒" をかけてください。

可能であれば、ガレージやガードマンのいる駐車場を利用しましょう。

何らかの盗難防止装置を使用するようにしてください。

関係書類に手落ちがないか、また納税済みか確認してください。

下の欄に必要事項を記入しておくと、盗難車が発見された場合の所有者確認に役立ちます。

姓：. . . . .

名：. . . . .

住所：. . . . .

....

電話番号：. . . . .

重要事項 このマニュアルに記入された事項のおかげで盗難車の所有者が確認されるケースがよくあります。

2 ページ (安全に関するお知らせ)、(テクニカルインフォメーション) および (警告 - 注意 - 一般的注意事項) をよく読んでください。

危険

火災の危険があります。
電装構成部品には、燃料及びその他の引火物を近づけないで下さい。

点検整備を始める前には必ずエンジンを止め、キーをイグニッションスイッチから抜いて、エンジンと排気系統が完全に冷えるのを待ちます。できれば作業用スタンドなどを用い車体を持ち上げ、堅く水平な面に置きます。

危険

作業を開始する前に作業場の換気を確認してください。

火傷の危険がありますので、熱くなっているエンジンや排気系統に触れないよう充分注意してください。

車両の部品などを口に含まないでください。物質によっては、有害でとても危険です。

注意

特に指示がない限り、パーツの取り付けは取り外し作業の逆の手順で行なってください。

メンテナンスの際はゴム手袋の着用をお薦めします。

通常のメンテナンスはユーザーでも行なえますが、中には特殊工具や技術的知識を必要とするものもあります。
定期点検、アシスタンスサービス、技術的アドバイスなどが必要な場合は、お気軽に **aprilia** 社オフィシャルディーラーにご相談ください。適切で迅速なサービスをお約束します。

修理や定期点検整備の後には、路上での走行テストを **aprilia** 社オフィシャルディーラーに依頼されるようお薦めします。
メンテナンス作業を行った後も、個人的に「事前チェック」を必ず行ってください。
47 ページ (走行前の点検) 参照。

定期管理表

aprilia 社オフィシャルディーラー にて行なう作業 (ユーザーでも実施可能なもの)

各部名称

① = 点検、清掃、調整、潤滑、必要な場合は部品交換など。

② = 清掃

③ = 部品交換

④ = 調整

重要事項 車両を雨や埃の多い場所、凸凹な激しい道路で使用する場合は、メンテナンスの回数を増やしてください。

(*) = (*) = 15 日ごとまたは指定期間ごとに点検してください。
(**) = OPT (国によっては標準装備)。
CO = 一酸化炭素

部品	慣らし運転終了 [1000 km (625 mi)]	10000 km (6250 mi) ごと、または 12ヶ月ごと	20000 km (12500 mi) ごと、または 24ヶ月ごと
バッテリーターミナルボルトの締め付け	①	①	–
スパークプラグ	–	①	③
フォーク	①	–	①
ライト類の機能／光軸	–	①	–
ライト類装置	①	①	–
セーフティスイッチ類			
ブレーキ液	①	①	–
冷却液	–	–	①
サイドバッグのフック (**)	–	①	–
タイヤ	1000 km (625 mi) ごと : ①		
タイヤ空気圧 (*)	1000 km (625 mi) ごと : ④		
アイドリング回転数と CO	④	④	–
サイドバッグと後部トランクの固定締め付け (**)	–	①	–
警告灯	始動ごと : ①		
ラバークッシュドライブ、スライディングローラー	ファイナルトランスミッションを交換する毎 : ③		
チェーン張力と潤滑	500 km (375 mi) ごと : ①		
ブレーキパッドの摩耗	①	走行前に毎回、および 2000 km (1250 mi) 走行ごと : ①	
クッシュドライブの磨耗とクッシュドライブユニットの遊び	–	–	①

⚠ 注意

5000 km (3125 mi) 毎に、aprilia 社オフィシャルディーラーにファイナルトランスミッション(フロントスプロケット、リアスプロケット、チェーン)の点検を依頼してください。

aprilia 社オフィシャルディーラーで行う作業

各部名称

① = 点検、清掃、調整、潤滑、必要な場合は部品交換など。

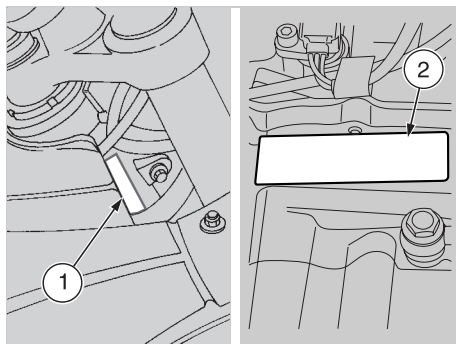
② = 清掃

③ = 部品交換

④ = 調整

重要事項 車両を雨や埃の多い場所、凸凹な激しい道路で使用する場合は、メンテナンスの回数を増やしてください。

CO = 一酸化炭素

部品	慣らし運転終了 [1000 km (625 mi)]	10000 km (6250 mi) ごと、または 12ヶ月ごと	20000 km (12500 mi) ごと、または 24ヶ月ごと
リアショックアブソーバー	–	–	①
バッテリーターミナルボルトの締め付け	①	–	–
混合気、CO 調整	①	①	–
タイミングベルト	–	①	–
コントロール・トランスミッションケーブル	①	①	–
ホイールセンタリング	–	①	–
リアサスペンション・コンロッドベアリング	–	–	①
ステアリングチューブベアリング、ステアリングの遊び	①	①	–
ホイールベアリング	–	①	–
ブレーキディスク	①	①	–
燃料ポンプフィルター	–	–	①
エアフィルター	–	①	③
エンジンオイルフィルター	③	③	–
エンジンオイルフィルター (タンク上)	②	–	②
総合車体機能	①	①	–
クラッチの遊び	④	④	–
バルブクリアランスの調整	④	–	④
ブレーキシステム	①	①	–
冷却システム	–	①	–
ブレーキ液	2 年ごと ③		
冷却液			
フォークオイル	–	–	③
エンジンオイル	③	③ (*)	–
フォークオイルシール	初回は 30000 km (18750 mi) 走行後、その後は 20000 km (12500 mi) 走行ごと : ③		
ブレーキパッド	磨耗した場合 ③		
ホイール / タイヤ	①	①	–
ナット、ボルト、ネジ類の締め付け			–
サスペンション	①	–	①
スポーク張力	①	①	–
ファイナルトランスミッション (チェーン、リアおよびフロントスプロケット)	5000 km (3125 mi) ごと : ①		
燃料ホース	–	①	4 年ごと ③
クラッチの摩耗	–	①	–

車体識別番号

フレームナンバーおよびエンジンナンバーをこのページに書き控えておくようお薦めします。

フレームナンバーはスペアパーツをオーダーする際に必要な場合があります。

重要事項 これらの識別番号を改ざんすることは重い刑事処罰および行政処罰の対象になります。特にフレームナンバーを改ざんした場合は正規保証外の扱いになります。

フレームナンバー

フレームナンバー (1) はステアリングチューブ右側に刻印されています。

フレームナンバー ___________________

エンジンナンバー

エンジンナンバー (2) はクランクケース後方、フロントスプロケットの近くに刻印されています。

エンジンナンバー ___________________

クリック固定輪と管締め用ネジによるジョイント

⚠ 注意

メンテナンスの一環としてのみ、指定の固定輪を外すことができます。

以下の説明は車体に装備されている固定輪を任意に取り外すことを許可するものではありません。

⚠ 危険

固定輪を取り外す前に、取り外しにより液漏れの恐れがないことを確認してください。必要であれば漏れを防ぐ処置を行い、特にジョイント部を保護してください。

クリック固定輪

取り外しの際は通常のピンセットを使用する事ができますが、取り付けの際は特別のツールが必要となります (下記参照)。

取り外す前に、再度正しく取り付けるために必要なツールを備えてください。

重要事項 指定の専用ツール OPT を準備します :

- 固定輪取り付け用ピンセット 29 ページ (スペシャルツール OPT) 参照。

⚠ 注意

再度取り付けの際、取り外したクリック固定輪を必ず同サイズの新品と交換してください。新品は aprilia 社オフィシャルディーラーまでお問い合わせ下さい。

取り外したクリック固定輪を再度取り付けようとしないでください。取り外したクリック固定輪の再使用はできません。
取り外したクリック固定輪を管締め用ネジまたは他の固定輪で代用しないでください。

⚠ 注意

操作は慎重に行い、ジョイント部の部品を破損しないように注意してください。

◆ プライヤーでクリック固定輪の頭部を外れるまで動かしてください。

パイプ締め付け用スクリュークランプ

取り外しおよび取り付けは通常のドライバーで行います。

⚠ 注意

固定輪の状態を確認し、必要ならば同種・同サイズの固定輪と交換してください。部品は、aprilia 社オフィシャルディーラーまでお問い合わせ下さい。
スクリュー締め付けの際は、ジョイント部の固定具合を確認してください。

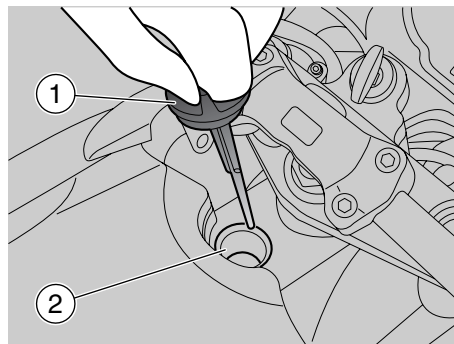
エンジンオイル量の点検と補充

**41 ページ (エンジンオイル) 、
57 ページ (メンテナンス) をよく読んでください。**

最初の 1000km (625 mi) 後と、その後、10000km (6250 mi) もしくは12ヶ月ごとにエンジンオイルのレベルを点検します。交換は **aprilia** 社オフィシャルディーラー。に依頼してください。

エンジンオイルの点検は次の手順で行なってください :

重要事項 暖機してエンジンオイルを作動温度に上げるためには、車両を停止した状態でアイドリングしないでください。郊外の道路をエンジンオイルが作動温度に上昇する程度に約 15 km (10 mi) 走行するか、ツーリング後に エンジンオイルを点検 するのが正しい方法です。

◆ エンジンを停止します。54 ページ (停車) 参照。

◆ 両輪を地面に着けたまま車体を垂直に保持します。

◆ 計量スティック (1) をもとの注油口 (2) に戻します。キャップは閉めないでおきます。

◆ もう一度、計量スティック (1) を抜き取り、スティックのオイルのレベルを読み取ります :

MAX = 最大レベル

MIN = 最小レベル

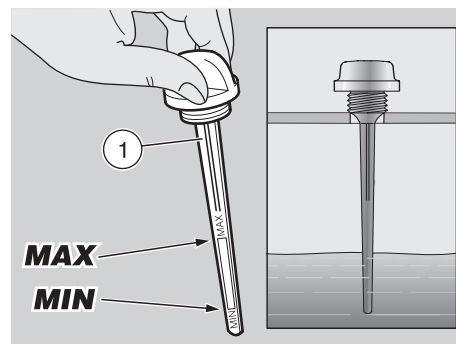
“**MAX**” と “**MIN**” 液量差は約300 cm^3です。

◆ 液面が “**MAX**” マーク近くまで達していれば適量です。

⚠ 注意

エンジンに重大な損傷を与える危険があるので、液面が "MAX" マークを超えないよう、また決して "MIN" マーク以下にならないよう注意してください。

必要な場合は次の手順でエンジンオイルを補充してください :

⚠ 注意

オイルには、添加物やその他の物質を混ぜないで下さい。

じょうご等を使用する場合には、清潔なものであることを確かめてから使用して下さい。

重要事項 15W – 50 クラスの良質オイルを使用してください。
93 ページ (指定油脂類表) 参照。

◆ キャップ/計量スティック (1) を取り外した後､適正レベルに達するまで注油口 (2) からオイルを補充します。93 ページ (指定油脂類表) 参照。

フロントホイール

⚠ 注意

フロントホイールの取り外しや取り付けは、経験のない人には困難な場合があります。

必要な場合は、aprilia 社オフィシャルディーラー に連絡してください。

ご自分で行なう場合は以下の指示に従ってください。

57 ページ (メンテナンス) をよく読んでください。

フロントホイールの取り外しや再取り付けの際は、ブレーキホース、ディスク、パッド等に損傷を与えないように注意してください。

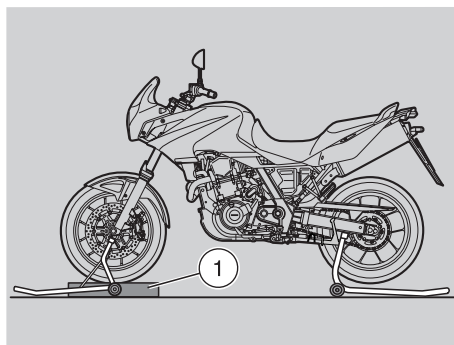
⚠ 危険

ホイールが損傷した状態で走行すると、ライダー自身や第三者、また車両の安全を損なうおそれがあります。

ホイールの状態を点検し、損傷している場合は交換を依頼してください。

⚠ 注意

ホイールの取り外し、取り付けには、正しいトルクで締め付けるためのトルクレンチが必要です。トルクレンチがない場合はこの作業を行わないでください。

重要事項 車両乾燥重量：180 kg.

フロントホイールの取り外し

- ◆ 車両を専用の作業用フロントスタンドに載せます。67 ページ (作業用フロントスタンド使用法 OPT) 参照。
- ◆ フロントホイールを外した際にそのままの位置に保持するため、適当な保持台 (1) をタイヤの下に置きます。

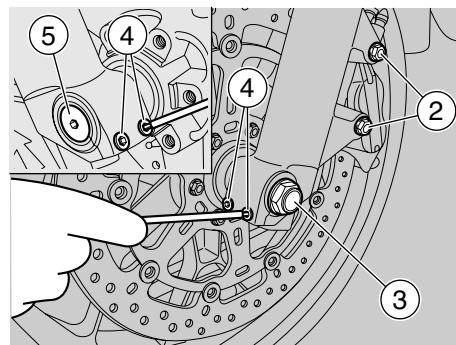
⚠ 注意

車体が安定していることを確認してください。

- ◆ 固定ネジ (2) をゆるめ、ブレーキキャリパーを取り外します。

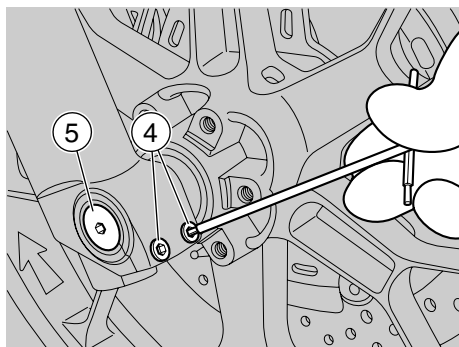
⚠ 注意

フロントブレーキキャリパーはいじらないでください。

- ◆ アクスルシャフトのナットを (3) を緩めます。
- ◆ アクスルシャフト (5) の両側のクランプスクリュー (4) を少し緩めます。
- ◆ アクスルシャフト(5) を完全に緩めます。

重要事項 アクスルシャフトを楽に抜き取るには、ホイールを軽く持上げるようにしてください。

- ◆ フロントホイールを支えながらアクスルシャフト (5) を手で抜き取ります。
- ◆ ホイールの両側からスペーサーを取り出します。
- ◆ フロントホイールを前方へ引き抜きながら外します。

⚠ 注意

ホイールを取り外してから、ブレーキレバーを操作しないで下さい。キャリパーのピストンの位置がずれて、ブレーキオイルの漏れにつながります。そのような場合には aprilia 社オフィシャルディーラーにご相談ください。適切な整備を行ないます。

取り付け

◆ アクスルシャフト(5)の全長にわたって、薄くグリースを塗布します。93 ページ (指定油脂類表) 参照。

⚠ 注意

ホイール取り付けの際は、ブレーキパイプ、ディスク、パッド等に損傷を与えないよう注意してください。

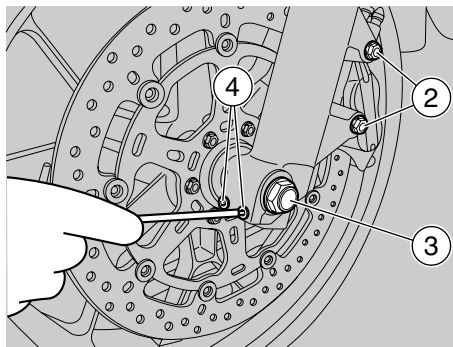
◆ 保持台 (1) の上にホイールを乗せ、両側のフォークレッグの間に差し込みます。

⚠ 注意

ブレーキキャリパーにディスクを挿入する際は、損傷を与えないように注意してください。

⚠ 危険

ケガをするおそれがありますので、指を使って穴の位置決めをすることは避けてください。

◆ フロントホイールの中心をフロントフォークの穴に一致させます。
◆ ホイールハブと右側フォークの間にスペーサーを 1 枚入れます。
◆ もう一方のスペーサーをホイールハブと左側フォークの間に入れます。

◆ 右側からアクスルシャフト (5) を完全に挿入します。
◆ アクスルシャフト右側クランプスクリュー (4) を締めます。
◆ アクスルシャフトナット (3) を締め付けます。
◆ アクスルシャフト左側クランプスクリュー (6) を締めます。
◆ アクスルシャフト右側クランプスクリュー (4) を締めます。
◆ フロントエンドに圧力がかかるように押し、フォークレッグを馴染ませます。
◆ アクスルシャフト右側クランプスクリュー (4) を締めます。

ナット締め付けトルク (3): 80 Nm (8 kgm)

タイヤの下の保持台 (1) を取り外します。

固定ネジ (2) を締め、ブレーキキャリパーを取り付けます。

ブレーキキャリパー固定ネジ締め付けトルク (2): 50 Nm (5 kgm)

⚠ 危険

車両の重量、サイズを鑑みて、作業は 2 人で行ってください。

重要事項 車両乾燥重量：180 kg.

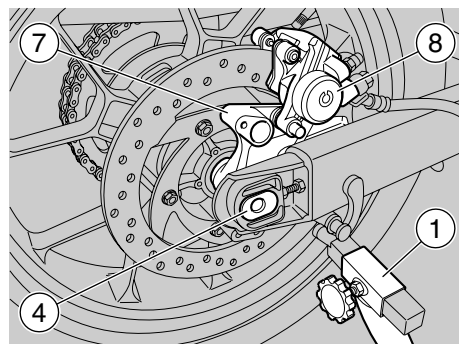
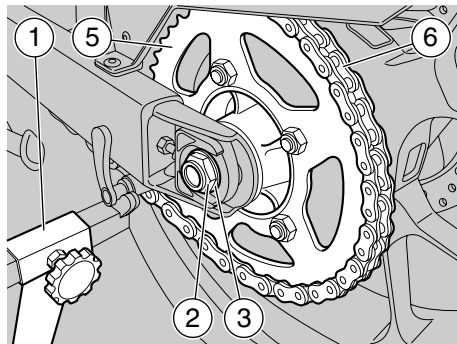
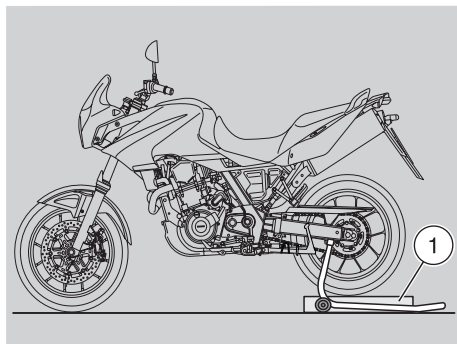
◆ フロントスタンドを取り外します。67 ページ (作業用フロントスタンド使用法 OPT) 参照。
◆ リヤスタンドを取り外します。
67 ページ (作業用リアスタンド使用法 OPT) 参照。
◆ フロントブレーキレバーを引いた状態で、繰り返しハンドルバーを押し下げてフロントフォークを押し込みます。これによりフォークレッグが正しくセットされます。
◆ スタンドに車両を配置します。
55 ページ (スタンドの立て方) 参照
◆ 両側のシャフトクランプスクリュー (4) を締めます。

シャフトクランプスクリューの規定締め付けトルク： 412 Nm (1.2 kgm)

◆ 以下の部品に汚れがないことを確かめて下さい：

- タイヤ
- ホイール
- ブレーキディスク

⚠ 危険

フロントホイールの取り付け後は、フロントブレーキレバーを繰り返し引いてみてブレーキ系統が正しく作動することを確認してください。
ライダー自身も含めた重大な人身事故につながる危険があるので、各部の締め付けトルク、ホイールのセンタリング、ホイールバランスの点検は aprilia 社オフィシャルディーラーに依頼してください。

リアホイール

⚠ 注意

リアホイールの取り外しや取り付けは、経験のない人には複雑で難しい作業かも知れません。

必要な場合は、aprilia 社オフィシャルディーラー に連絡してください。

ご自分で行なう場合は以下の指示に従ってください。

57 ページ (メンテナンス) をよく読んで下さい。

⚠ 危険

火傷の危険がありますので、以下の作業はエンジンおよびサイレンサーが常温に戻ってから行なってください。

⚠ 危険

ホイールが損傷した状態で走行すると、ライダー自身や他の人々、また車両の安全を損なうおそれがあります。
ホイールの状態を点検し、損傷している場合は交換を依頼してください。

フロントホイールの取り外し

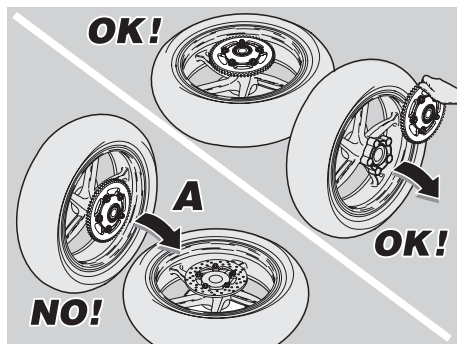
◆ 車両を専用のリアスタンドに載せます。67 ページ (作業用リアスタンド使用法 OPT) 参照。
◆ ホイールを外した際にそのままの位置に保持するため、適当な保持台 (1) をタイヤの下に置きます。
◆ ナット (2) を緩めて外し、ワッシャー (3) を保管します。

ナット締め付けトルク (2): 100 Nm (10 kgm)

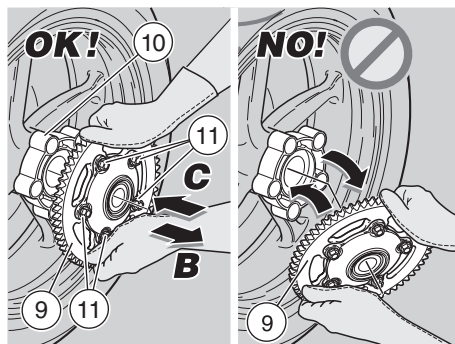
重要事項 アクスルシャフトを楽に抜き取るには、ホイールを軽く持上げるようにしてください。

◆ アクスルシャフト (4) を右側から抜き取ります。

重要事項 チェーン (5) をリアスプロケット (6) の外側に外してください。

◆ リアホイールを少し前方へ進め、チェーン (5) をリアスプロケット (6) から外します。
◆ リアホイールを後方へ引き抜きながらスイングアームから外します。このときブレーキディスクやブレーキキャリパーに損傷を与えないように注意してください。
◆ サポートプレート (7) をブレーキキャリパー (8) から取り外します。

⚠ 注意

ホイールを取り外した後、リアブレーキレバーの操作を行わないで下さい。所定位置からピストンが外れて、ブレーキオイル漏れの危険があります。そのような場合には aprilia 社オフィシャルディーラーにご相談ください。適切な整備を行ないます。

取り扱いには、十分注意してください。ファイナルトランスミッションユニット (9) がダンパーマウント (10) 上に取り付けられている場合は、リアホイールを裏返したり、リアスプロケット側 (A) を下にして寝かせた状態で回したりしないでください。ファイナルトランスミッションユニットが抜け落ち、リアスプロケット (6) を損傷するおそれがあります。

重要事項　ホイールを走行状態のように (立てて) 置く場合や、リアスプロケット側を上にして水平に置く場合は、ファイナルトランスミッションユニットを取り外す必要はありません。ただしどちらの場合も裏返らないよう注意してください。

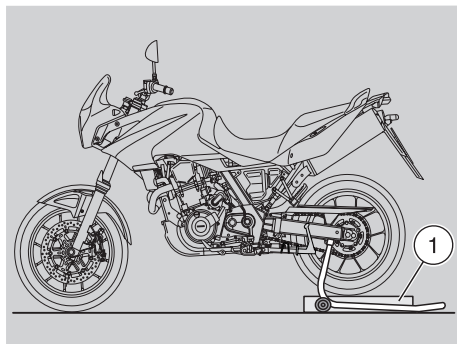
重要事項　5 個のナット (11) は決して緩めないでください。ファイナルトランスミッションユニットは、一体でダンパーマウントから抜き取ります。

◆ 両手でリアスプロケットの外周部分 (6) を持ち (B)、ファイナルトランスミッションユニット （9）を車軸方向に抜き取ります。
◆ ダンパーマウント (10) から 5 個のハブダンパーを取り外します (10)。

重要事項　5個のハブダンパーの状態を点検します。損傷があったり、磨耗が激しい場合は交換してください。58 ページ (定期管理表) 参照。

取り付け

重要事項　ハブダンパーの間の所定位置にドライバーピンを差し込み、ファイナルトランスミッションユニットをアクスルシャフトと平行に挿入します。

◆ 5 個のハブダンパーをダンパーマウント (10) 上の所定位置に置きます。
◆ 両手でリアスプロケットの外周部分 (6) を持ち(C)、ファイナルトランスミッションユニット (9) をダンパーマウント (10) に差し込みます。

⚠ 注意

取り付け作業を始める前にブレーキキャリパー（9）サポートプレート（8）が正しい位置にあることを確認します。プレートのスロットが右側スイングアーム内側にあるピンに入っていることを確認します。

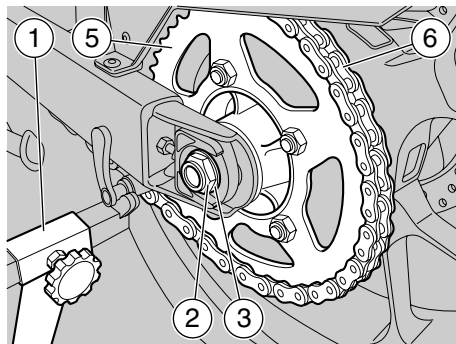
ブレーキキャリパーにディスクを挿入する際は、損傷を与えないように注意してください。

◆ 保持台 (1) の上にホイールを乗せ､両側のスイングアームの間に差し込みます。

⚠ 危険

チェーンとリアスプロケットの間に指をはさまないように注意してください。

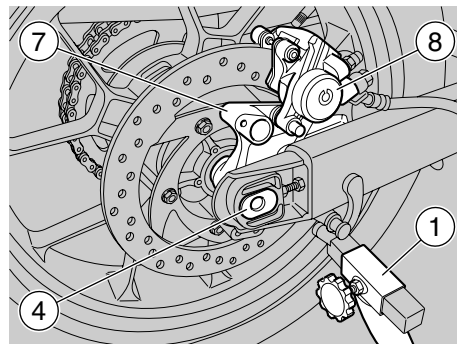
◆ リアホイールを少し前方へ進め、チェーン(5)をリアスプロケット(6)にかけます。
◆ アクスルシャフト (4) に均等に小量のグリースを塗布します。93 ページ (指定油脂類表) 参照。

⚠ 危険

ケガをするおそれがありますので、指を使って穴の位置決めをすることは避けてください。

◆ ホイールの中心がスイングアームの穴に一致するよう、リアホイールを後方に戻します。
◆ ブレーキキャリパー (9) が取り付いたままのプレート (8) を、位置決めキーを支点にして回し、ホイール中心との位置を揃えます。
◆ 左側からアクスルシャフト (4) を完全に挿入します。

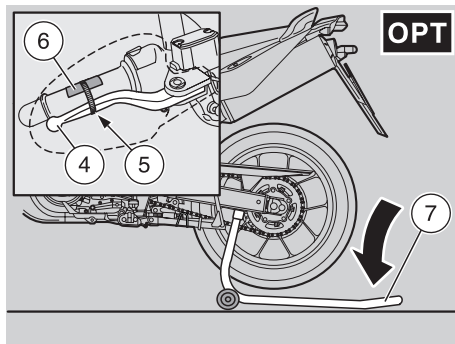
重要事項 アクスルシャフト (4) が完全に挿入されていることを確認します。

◆ ワッシャー (3)　を元どおりに取り付け、ナット (2) を手で仮締めします。
◆ 専用スパナーでアクスルシャフト (4) をロックし、ナット (2) を締め付けます。

ナット締め付けトルク (2): 100 Nm (10 kgm)。

◆ 以下の部品に汚れがないことを確かめて下さい：
- タイヤ
- ホイール
- ブレーキディスク

⚠ 注意

リアホイールの取り付け後は、リアブレーキペダルを繰り返し操作し、ブレーキ系統が正しく動作することを確認してください。

ライダー自身も含めた重大な人身事故につながる危険があるので、各部の締め付けトルク、ホイールのセンタリング、ホイールバランスの点検は aprilia 社オフィシャルディーラー にご依頼ください。

作業用リアスタンド使用法 OPT

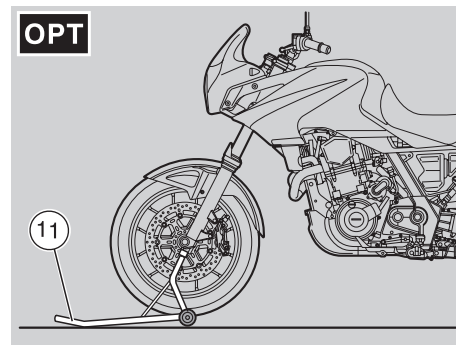
◆ フロントブレーキレバー (4) を一杯に引き、ボール紙 (5) を差し込みます。プラスチックのバンド (6) を使いブレーキレバー(4) を一杯に引いた状態を保ちます。

⚠ 危険

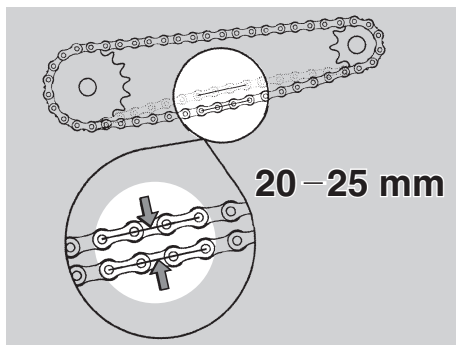
両方のスイングアームを支えて車体を持ち上げます。

◆ 車体の後ろ側からスタンドを入れ、2 本のサポートシャフト (3) がスイングアームのピンに掛かるようにして置きます。

重要事項 誰かに手伝ってもらい、両輪を地面に着けたまま車体を垂直に保持します。

◆ リアスタンド (7) の後部端に片足を乗せます。
◆ リアスタンド (7) をいっぱいまで下に押し込みます（図参照）。

作業用フロントスタンド使用法 OPT

重要事項 車体をフロントスタンドに配置するには、専用リアスタンドが必要です OPT。

◆ 車体を専用のリアスタンドに載せます。67 ページ (作業用リアスタンド使用法 OPT) 参照。
◆ 左右のフロントフォーク末端にあるホルダー穴 (10) に、フロントスタンド (9) の左右のホルダー部先端を同時に挿入します。
◆ フロントスタンド(11)の前部端に片足を乗せます。
◆ フロントスタンド (11) をいっぱいまで下に押し込みます（図参照）。

ドライブチェーン

57 ページ (メンテナンス) をよく読んでください。

この車両はマスターリンクのない、エンドレスタイプのチェーンを装備しています。

⚠ 注意

チェーンが弛み過ぎていると、騒音やチェーンの振動衝突が生じ、スライダーやチェーンガイドを摩耗させるおそれがあります。
定期的にチェーン張力を点検し、必要な場合は調整してください。68 ページ (チェーン張力の調整) 参照。
チェーンの交換は必ず aprilia 社オフィシャルディーラーにご依頼ください。迅速で適確なサービスをお約束します。

整備が正しく行なわれていないと、チェーンの摩耗を早めるだけでなく、フロントスプロケットおよびリアスプロケットに損傷を与えます。

⚠ 注意

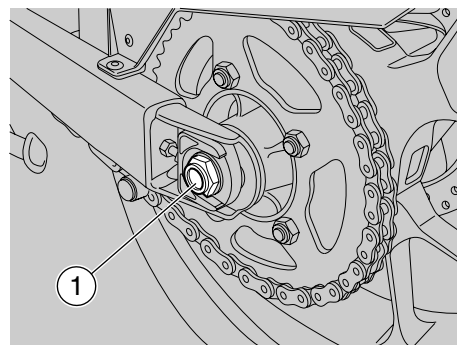
車両を厳しい条件下で使用したり、埃ぽい道路、ぬかるみの道路などを走行する場合は、点検を通常よりも頻繁に実施してください。

チェーン張力の点検

チェーン張力の点検は以下の手順で行なってください：

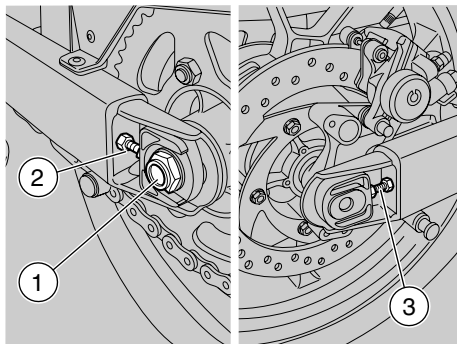
- ◆ エンジンを停止します。54 ページ (停車) 参照。
- ◆ 車両を専用のリアスタンドに載せます。67 ページ (作業用リアスタンド使用法 OPT) 参照。
- ◆ シフトペダルをニュートラルにします。
- ◆ フロントスプロケットとリアスプロケットの中間部で、下側のチェーンの振幅が約 **20-25** mm であることを確認します。
- ◆ 手でホイールを回し、チェーンの振幅を数箇所で点検します。
  全ての箇所で同じ遊びがあることを確認します。

⚠ 注意

ホイールの回転位置によって大きな弛みが見られる場合は、リンクが潰れているか固着しています。この場合は aprilia 社オフィシャルディーラーにご相談ください。
チェーンは頻繁に潤滑してください。69 ページ (チェーンの清掃と潤滑) 参照。

チェーンの遊びが一定であっても、**25mm** 以上、もしくは **20mm** 以下の場合は、チェーン張力の調整をしてください 68 ページ (チェーン張力の調整) 参照。

チェーン張力の調整

チェーン張力の点検後、必要がある場合は調整をします。遊びを大きくする場合はチェーンを緩め、逆に小さくする場合は張りを強くします。

- ◆ 車両を専用のリアスタンドに載せます。67 ページ (作業用リアスタンド使用法 OPT) 参照。
- ◆ ナット (1) を緩めます。

重要事項 ホイールセンタリング用にスイングアーム上のアジャスター (2) と (3) の動きに対応したポジションマークが付いています。

◆ 左右アジャスター (2) と (3) でチェーン張力を調整します。この際、左右のポジションマークの値が一致するようにします。
◆ ナット (1) を締め付けます。

ナット締め付けトルク (1): 100 Nm (10 kgm)

◆ チェーンの遊びを点検します。
68 ページ (チェーン張力の点検) 参照。

チェーン、フロントスプロケット、リアスプロケットの摩耗の点検

チェーン、フロントスプロケット、リアスプロケットを点検し、以下の兆候がないことを確認します。

- ローラーの損傷。
- ピンの緩み。
- リンクのオイル切れ、錆び、潰れ、固着。
- 極端な摩耗。
- シールリングの欠如。
- 各スプロケットの歯の極端な摩耗、損傷。

⚠ 注意

チェーンのローラーの損傷、ピンの緩み、オイルシールの損傷、欠如がある場合には、チェーンユニット全体 (フロントスプロケット、リアスプロケット、チェーン) を交換する必要があります。

⚠ 注意

頻繁にチェーンの潤滑を行なってください。オイル切れ、錆びなどが見られる場合は特に頻繁に実施してください。

また、潰れたり固着した部分は、スムーズに動くよう潤滑と修理が必要です。
修理が不可能な場合には aprilia 社オフィシャルディーラーにチェーンの交換をご依頼ください。

◆ スイングアームガードスライダーの磨耗を点検します。
◆ 下のチェーンスライダーローラーの磨耗を点検します。必要な場合は交換します。

チェーンの清掃と潤滑

⚠ 注意

チェーンのリンク接合部にはシールリングが使われ、グリースを内部に保持しています。

チェーンの潤滑、清掃、交換などの作業の際は細心の注意が必要です。

チェーンを洗浄する際は、高圧水や蒸気のジェット、可燃性の溶剤などは絶対に使用しないでください。

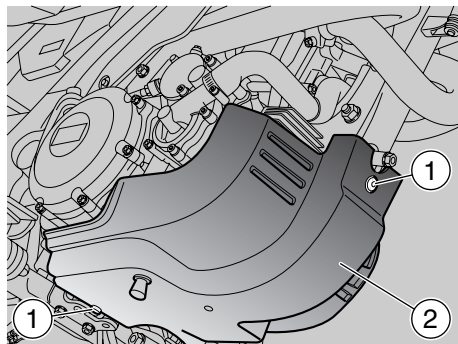
◆ チェーンをナフタまたは灯油で洗浄します。早めに錆びてしまう場合はメンテナンスの頻度を上げてください。

チェーンの潤滑は 500 km (312 mi) 走行ごと、また必要に応じてさらに頻繁に行なってください。

◆ 洗浄後は完全に乾かし、潤滑を行ないます。必ずシールドタイプのチェーンに対応したスプレーグリースを使用してください。93 ページ (指定油脂類表) 参照。

⚠ 注意

市販されているチェーン用グリースの中には、ゴム製のシールリングに損傷を与える成分を含んだものもありますのでご注意ください。

重要事項 チェーンの潤滑を行なった直後は車両を使用しないでください。遠心力によりグリースが飛び散り周囲を汚してしまいます。

ベリーパンの取り外し

57 ページ (メンテナンス) をよく読んでください。

⚠ 危険

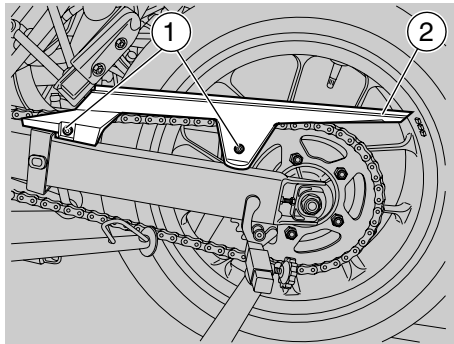
エンジンとサイレンサーが完全に冷えるまで待ってから作業を始めてください。

- ◆ スタンドに車両を配置します。55 ページ (スタンドの立て方) 参照
- ◆ 2 本のねじ (1) をゆるめて取り外します。

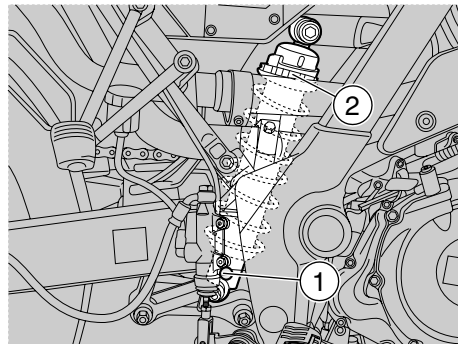
⚠ 注意

プラスチック部品や塗装部品は、掻き傷をつけたり割ったりしないよう慎重に扱ってください。

- ◆ ベリーパン（オイルサンプガード）(2) を取り外します。

重要事項　ベリーパン (2) 内の防音財材が劣化している場合は、**aprilia 社オフィシャルディーラー** に交換を依頼してください。

チェーンカバーの取り外し

57 ページ (メンテナンス) を注意して読んで下さい。

- ◆ スタンドに車両を配置します。55 ページ (スタンドの立て方) 参照。
- ◆ 2 本のねじ (1) をゆるめて取り外します。
- ◆ 反対側からねじ（2）をゆるめて取り外します。

リアサスペンション

リアサスペンションは、スプリングーショックアブソーバー・ユニットから成り、フレームにはユニボールで、リアフォークにはレバー装置によって接続されています。

荷重に合わせた調整が行えるよう、ショックアブソーバーには以下が装備されています :

- リバウンドダンピング調整用スクリューアジャスター (1)
- スプリングプリロード調整用リングナット (2)

リアショックアブソーバーの調整

20000 km (12500 mi) 走行ごとにリアショックアブソーバーを点検し、必要ならば調整します。

リアショックアブソーバーの標準設定は、殆どの運転条件を満たすように調整されてあります。
製造工場での通常の調整では体重約 70kg のライダーを対象として行われます。
パッセンジャーを乗せたり、最大加重を積載するなど荷重条件が異なる場合は、**aprilia** 社オフィシャルディーラーにお問い合わせください。

車両の使用条件に応じ、スクリュー (1) を使ってリバウンドダンピングの調整ができます。調整の際は以下の点を注意してください :

凸凹な路面 – 堅い調整 (HARD):

◆ スクリュー(1) を右側に (時計回り方向) に回します。

通常の路面 – 柔軟な調整 (SOFT):

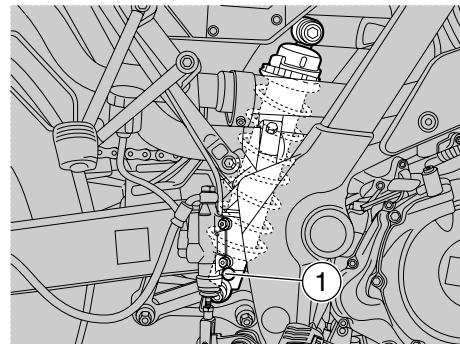
◆ スクリュー (1) を左側に (反時計回り方向) に回します。

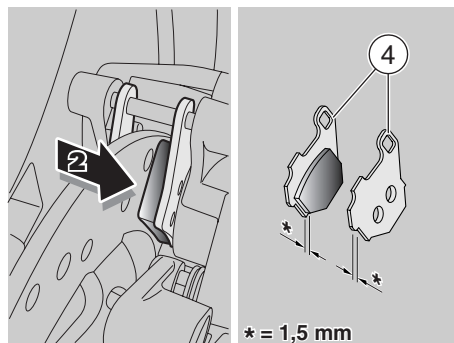
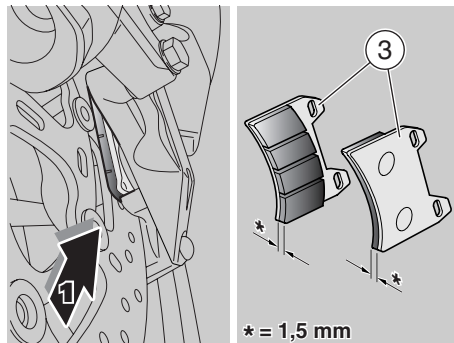
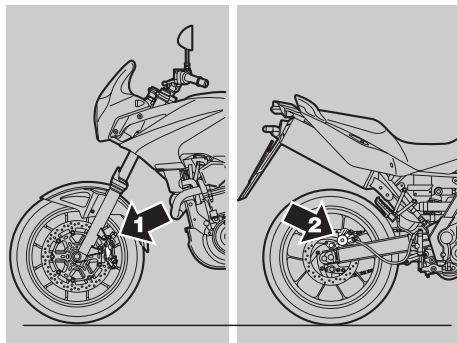
⚠ 注意

使用状況に応じてスプリングプリロードとリバウンドダンピングを調整してください。

走行中に車体が急にはね上がる危険がありますので、スプリングプリロードを大きくした場合はリバウンドダンピングも大きくする必要があります。

必要な場合は aprilia 社オフィシャルディーラー に連絡してください。

最適な調整が得られるまで、路上で繰り返し試運転をしてください。

リアショックアブソーバーの調整

リアショックアブソーバー	プリロード (全く調整されていない状態からのステップ数)	ダンピング (全閉状態からのクリック／回数)	フロント / リアタイヤ空気圧 (STRADA バージョン)	フロント / リアタイヤ空気圧 (TRAIL バージョン)
ライダーのみ (ソフト調整)	**3**	**13** (1 回転)	1.8/2.0	1.9/2.1
ライダー＋荷物、またはライダー＋パッセンジャー (中間調整)	**9**	**5** (1/2 回転)	1.9/2.2	1.9/2.3
ライダー＋パッセンジャー＋荷物 (ハード調整)	**9**	**3** (1/4 回転)	1.9/2.2	1.9/2.3

ブレーキパッドの摩耗の点検

33ページ(ブレーキ液- 注意事項)、34ページ (ディスクブレーキ) 、57 ページ (メンテナンス) をよく読んでください。

重要事項　以下の説明は一つのブレーキ系統についてですが、前後輪ともに共通です。

初回は 1000 km (625 mi) 走行後、その後は 2000 km (1250 mi) 走行ごと、また走行前には毎回、ブレーキパッドの摩耗を点検してください。

ブレーキパッドの摩耗は使用状況、運転の仕方、道路状態などによって変わります。

⚠ 危険

走行前には毎回、必ずブレーキパッドの摩耗を点検してください。

ブレーキパッドの摩耗を簡単に点検するには：

◆ スタンドに車両を配置します。55 ページ (スタンドの立て方) 参照

◆ ブレーキキャリパーとパッドの間を覗いて摩擦面を目視点検します：

- -フロントブレーキキャリパー(1) の場合は、前方の下から。
- -リアブレーキキャリパー(2) の後方の上から。

⚠ 注意

パッドの摩耗が進むと、パッドを支えている金属部分がディスクに触れ、金属音、キャリパーから火花が出、ブレーキ効果、安全性をも保てなくなります。

たとえフロント (3) またはリア (4)1 個のパッドだけでも、摩擦材が **1.5 mm** 程度の厚さまでに摩耗している場合、もしくは摩耗の目安となる溝が 1 本でも見えなくなっている場合は：

- -**フロントブレーキキャリパー**については、ブレーキパッドを両方とも交換します。
- -**リアブレーキキャリパー**については、ブレーキパッドを両方とも交換します。

⚠ 危険

交換は aprilia 社オフィシャルディーラーに依頼してください。

アイドリングの調整

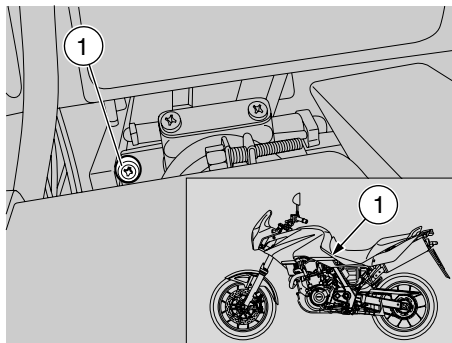
57 ページ (メンテナンス) をよく読んでください。

重要事項 エンジンが通常作動温度に達しない場合は、アイドリング回転数が適正でないことがありますが、これは正常です。作動温度に達すると、通常のアイドリング回転数に戻ります。

エンジンのアイドリング回転数を適正に点検するには以下の手順に従ってください：

◆ 通常作動温度に達するまで数キロ走行します。
16 ページ (冷却液温度「ºC/ºF」) “” 参照。
◆ シフトペダルをニュートラルにします (グリーンのインジケーター "N" 点灯)。
◆ タコメーターでエンジン回転速度を確認します。

回転速度は約 **1500 ± 100** (rpm) でなくてはなりません。

アイドリング回転数が指定範囲内の場合は、それを変更しないでください。

⚠ 注意

アイドリング回転数に異常がある場合は、aprilia 社オフィシャルディーラーにご連絡ください。

アイドリング回転数を過度に増加させるとエンジン機能に不具合が生じたり、エンジン、そのほかの部品を損傷する場合があります。

調整は、本当に必要がある場合（スロットルを放すとエンジンが停止する、または既定回転数を超える場合）、もしくは aprilia 社オフィシャルディーラーに車両を持ち込むのが不可能な場合に限られます。

調整の必要がある場合：

⚠ 注意

火傷するおそれがあります。

車体には熱くなった部分があります (例：エキゾーストパイプ、エキゾーストパイプカバー)。

作業手袋で保護してください。

いかなる場合も エキゾーストパイプ カバーに寄りかからぬよう注意して作業してください。

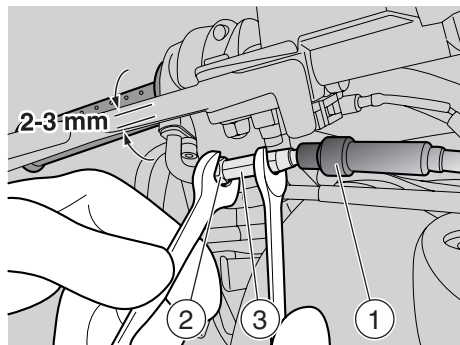
◆ シートを取り外します。
27 ページ (シートロックの掛け方・外し方) 参照。
◆ アジャスタースクリュー(1) を回します。
- 締めると (時計回り)、回転数は増加します。
- 緩めると（反時計回り）回転数が減ります。
◆ 調節終了後、スロトッルグリップを数回動かし正しく機能するか、また安定したアイドリング回転数が得られているか確認します。

スロットルグリップの調整

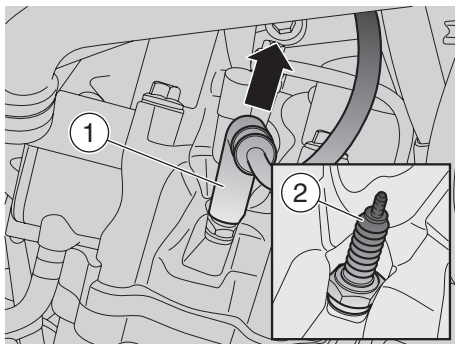
57 ページ (メンテナンス) をよく読んでください。

初回は 1000 km (625 mi) 走行後、その後は 10000 km (6250 mi) 走行ごとに、スロットルグリップの点検を **aprilia 社オフィシャルディーラー**に依頼してください。

スロットルグリップの遊びはグリップの縁で測定して 2 〜 **3** mm が適当です。

そうでない場合は次の手順で補充してください :

- ◆ スタンドに車両を配置します。55 ページ (スタンドの立て方) 参照
- ◆ 保護ラバー (1) を抜き取ります。
- ◆ ロックナット (2) を緩めます。
- ◆ 遊びが適切になるよう、アジャスター(3) を回して調整します。
- ◆ 調整後、ロックナット (2) を締め、再度遊びを点検します。
- ◆ 保護ラバー (1) を元どおりかぶせます。

⚠ 注意

遊びを調整した後は、どのハンドル切れ角においてもアイドリング回転数が常に一定であること、また、スロットルグリップは手を放すとスムーズに定位置に戻ることを確認してください。

スパークプラグ

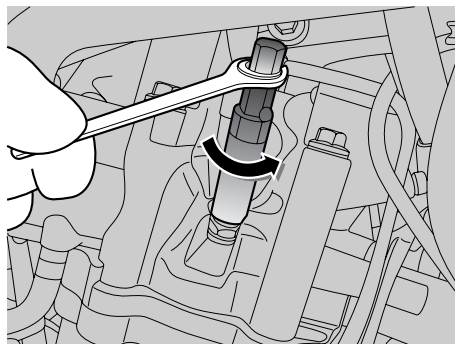
57 ページ (メンテナンス) をよく読んでください。

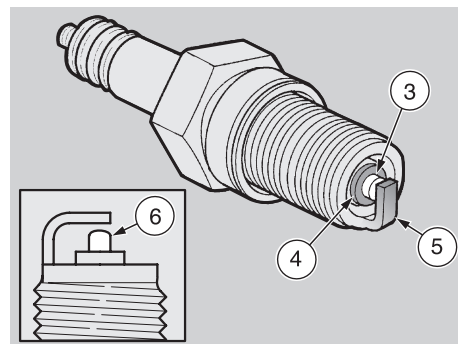
スパークプラグは 10000 km (6250 mi) 走行ごとに点検し、また、20000 km (12500 mi) 走行ごとに交換してください。

それ以外にも定期的にスパークプラグを取り外して付着したカーボンなどを取り除き、必要な場合は交換してください。

スパークプラグを取り扱うには :

⚠ 危険

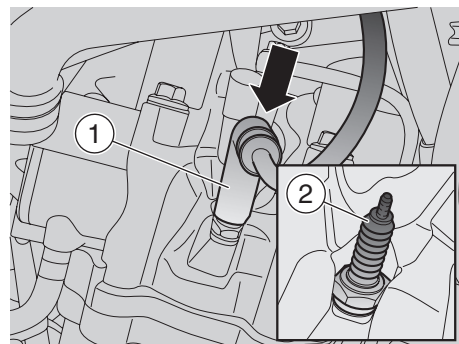
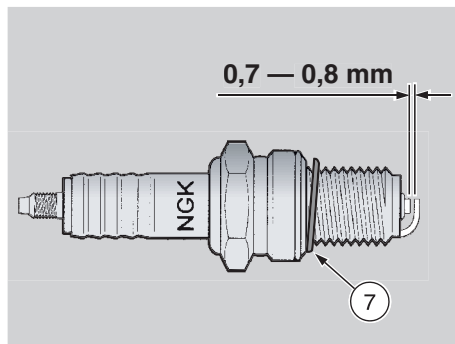
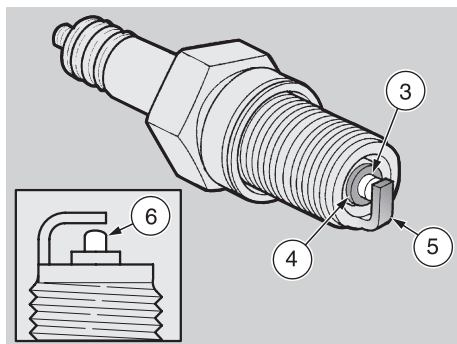
火傷の危険がありますので、以下の作業はエンジンおよびサイレンサーが常温に戻ってから行なってください。

取り外しには :

- ◆ スパークプラグ (2) からキャップ (1) を取り外します。
- ◆ スパークプラグ基部の汚れを全て取り除きます。
- ◆ ツールキットにあるプラグレンチをスパークプラグにかぶせます。
- ◆ スパークプラグを回して緩め、取り出します。このときシリンダー内に埃や異物が入らないように注意してください。

スパークプラグの取り外しと清掃 :

各部名称

- 中央電極 (3)、
- 絶縁碍子 (4)、
- サイド電極 (5)。

- ◆ スパークプラグの電極と絶縁碍子にカーボンや錆が付着していないか確認し、必要な場合は圧縮空気を使って清掃してください。

絶縁碍子がひび割れていたり、電極が錆びていたり、カーボンが異常に多く付着している場合、または中央電極 (3) の先端 (6) が丸まっている場合は、スパークプラグを交換してください。

⚠ 注意

スパークプラグの交換の際はネジ山のピッチと長さを確認してください。

ネジ山の部分が短すぎると、余った部分にカーボンが付着し、次に正しいスパークプラグを取り付けた際にエンジンを損傷するおそれがあります。

必ず推奨スパークプラグのみを使用してください。90 ページ (テクニカルデータ) 参照。それ以外のスパークプラグではエンジンの性能が損なわれたり寿命が短くなったりします。

◆ 電極間の距離を測ります。
電極間の距離が **0.7 – 0.8 mm** の範囲内にない場合は、注意深く中央電極を折り曲げて調整します。

◆ ワッシャー (7) の状態も点検してください。

取り付け方法：

◆ ワッシャー (7) を取り付け、ネジ山をいためないよう注意深くスパークプラグを手でねじ込んでください。

◆ 最後に、ツールキットにあるプラグレンチで 1/2 回転させワッシャーを押さえつけます。

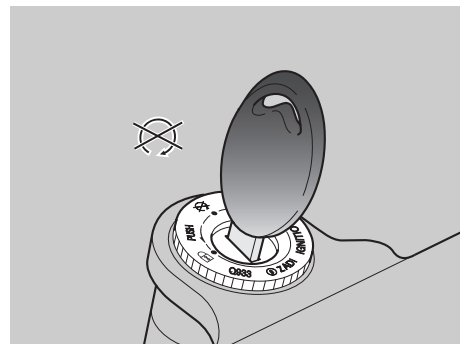
スパークプラグの締め付けトルク：20Nm(2.0kgm)

⚠ 注意

スパークプラグがしっかり締められていないと、エンジンがオーバーヒートして重大な損傷を受けることがあります。

⚠ 注意

ピペット (1) がスパークプラグ (2) に正しく接続されているか確認します。正しく接続されていないと、エンジンの振動でピペットが外れ、エンジンを損傷します。

◆ カチッと音がするまでピペット (1) をスパークプラグ (2) を挿入します。

バッテリー

57 ページ (メンテナンス) をよく読んでください。

⚠ 危険

火災の危険があります。

電装構成部品には、燃料及びその他の引火物を近づけないで下さい。

バッテリーは爆発性ガスを生ずるので、火花、タバコなど加熱物は遠ざけてください。

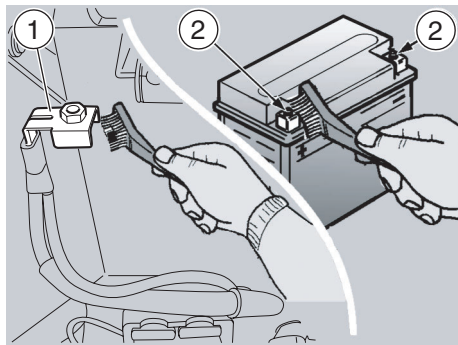
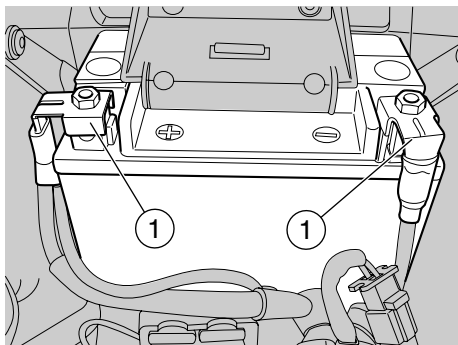
バッテリー充電中や使用中は周囲の換気に注意し、充電中に発生するガスを吸わないように気をつけてください。

子供の手の届かない場所に保管してください。

⚠ 注意

バッテリーケーブルの極性を決して逆にしないでください。

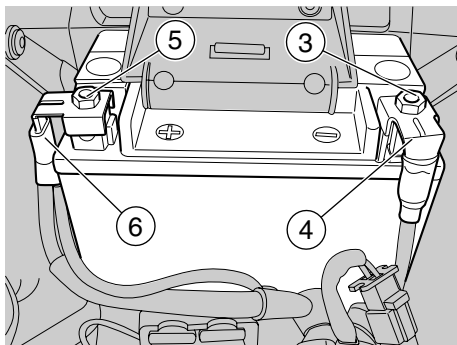
部品を損傷する危険がありますので、バッテリーの取り付け及び取り外しは、イグニッションスイッチを "" の位置にして行ってください。

バッテリーケーブルを接続するときは (+) を先に、(−) を後に接続します。
ケーブルを外すときは逆の順序で外します。

ターミナルおよび電極の点検と清掃

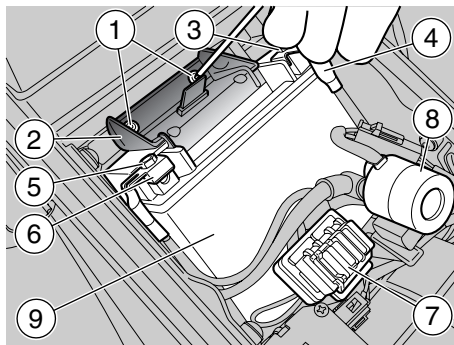
77 ページ (バッテリー) をよく読んでください。

◆ イグニッションスイッチが "⊗" の位置になっていることを確認します。
◆ シートを取り外します。
27 ページ (シートロックの掛け方・外し方) 参照。
◆ バッテリーケーブルのターミナル (1) およびバッテリーの電極 (2) について次の点を確認してください :
- 損傷などがなく良好状態であること、また、錆や付着物がないこと。
- 中性グリースまたはワセリンで保護されていること。

清掃が必要な場合は :

◆ バッテリーを取り外します。
79ページ (バッテリーの取り外し) 参照。
◆ 金属ブラシを使って、ケーブルのターミナル(1) およびバッテリー電極(2) に付着した錆などをよく落とします。
◆ バッテリーを取り付けます。
80ページ (バッテリーの取り付け) 参照。
◆ シートを取り付けます。27 ページ (シートロックの掛け方・外し方) 参照。

バッテリーの取り外し

77 ページ (バッテリー) をよく読んでください。

◆ イグニッションスイッチが"⊠" の位置になっていることを確認します。
◆ シートを取り外します。
27 ページ (シートロックの掛け方・外し方) 参照。
◆ ネジ (1) を回して取り外します。
◆ バッテリーカバー (2) を外します。
◆ (−) 電極のネジ (3) を回して取り外します。
◆ マイナス側ケーブル (4) を横方向へずらします。
◆ (+) 電極のネジ (5) を回して取り外します。
◆ プラス側ケーブル (6) を横方向へずらして外します。
◆ ヒューズケース (7) とスターターリレー (8) を取り付け位置から抜き取り、横にずらしておきます。

⚠ 注意

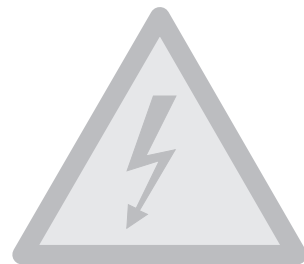
配線ケーブルを引っ張らないよう注意してください。

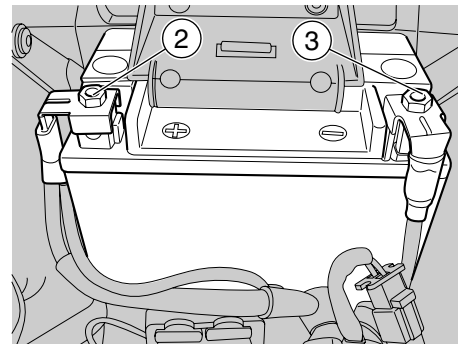
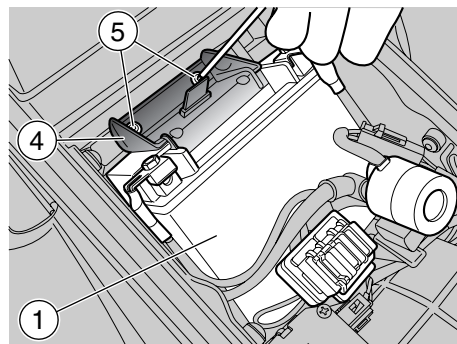
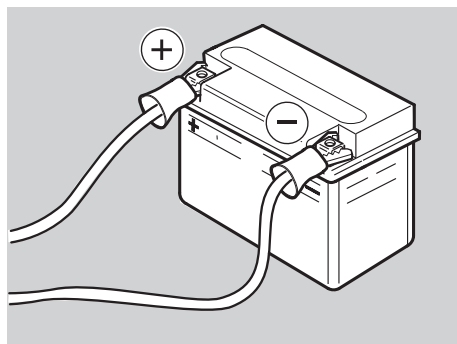
◆ バッテリー(9) をしっかりと支えながら、外側に向けて持ち上げるようにして取り外します。

⚠ 危険

取り出したバッテリーは安全で子供の手の届かない場所に保管してください。

◆ 涼しく乾いた場所で、平らな台の上にバッテリーを置きます。
◆ シートを取り付けます。
27 ページ (シートロックの掛け方・外し方) 参照。

⚠ 危険

再取り付けの際は、先ず (+)、続いて (−) の順にバッテリーケーブルを接続します。

重要事項 バッテリーの取り付けに関しては、80 ページ (バッテリーの取り付け) を参照してください。

バッテリーの充電

77 ページ (バッテリー) をよく読んでください。

◆ バッテリーを取り外します。
79ページ (バッテリーの取り外し) 参照。

◆ MF バッテリー用の充電器を準備してください。

◆ 充電方法を選択します。

重要事項 アンペア数が 1/10A の充電器を使用してください。

◆ バッテリーを充電器に接続します。

⚠ 危険

バッテリー充電中や使用中は周囲の換気に注意し、充電中に発生するガスを吸わないように気をつけてください。

◆ 充電器を点けます。

⚠ 危険

充電後もしばらくの間ガスが発生し続けますので、バッテリーは充電器から取り外した後 5 ～ 10 分程度待ってから取り付けてください。

バッテリーの取り付け

77 ページ (バッテリー) をよく読んでください。

◆ イグニッションスイッチが "○" の位置になっていることを確認します。

◆ シートを取り外します。27 ページ (シートロックの掛け方・外し方) 参照。

重要事項 バッテリー (1) は、それぞれの端子を車体の外側に向けて、設置して下さい。

◆ バッテリー (1) を車体に戻します。

⚠ 危険

再取り付けの際は、先ず (+)、続いて (−) の順にバッテリーケーブルを接続します。

◆ プラス側ケーブルを (+) 電極に接続しネジ (2) を締めます。

◆ マイナス側ケーブルを(−)電極に接続しネジ (3) を締めます。

⚠ 注意

バッテリーを取り付ける際は、硫酸の蒸気を避け、電気システム、塗装部、ゴム製部品、ガスケットなどを腐食させないために、バッテリーブリーザーを必ず接続してください。

◆ バッテリーカバー (4) を取り付けます。

◆ ネジ (5) を締めます。

◆ シートを取り付けます。27 ページ (シートロックの掛け方・外し方) 参照。

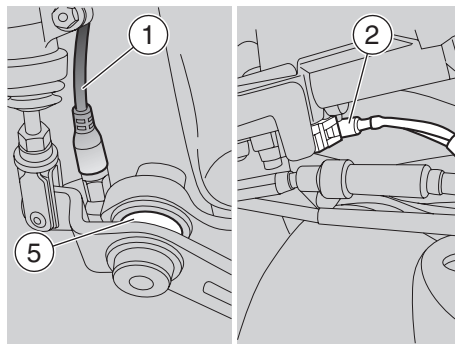
バッテリーを長期間使用しない時

バッテリーを 15 日間以上使用していない場合、硫化を防ぐために、再充電が必要です。80 ページ (バッテリーの充電) 参照。

◆ バッテリーを外し、涼しく、乾燥した場所に保管してください。79 ページ (バッテリーの取り外し) 参照。

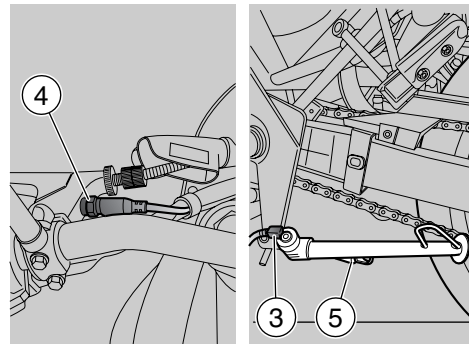
特に冬期や長期間使用しない場合には、バッテリーの劣化を防ぐため定期的に (毎月 1 回程度) バッテリーの充電状態を点検し充電してください。

◆ ゆっくりな充電法で完全に再充電してください。80 ページ (バッテリーの充電)

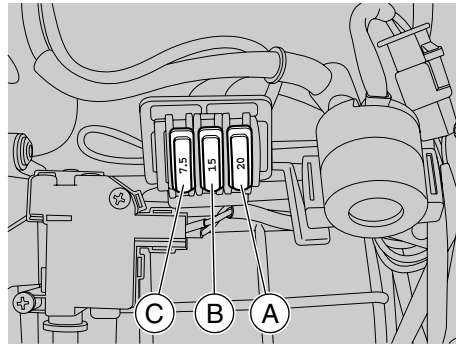
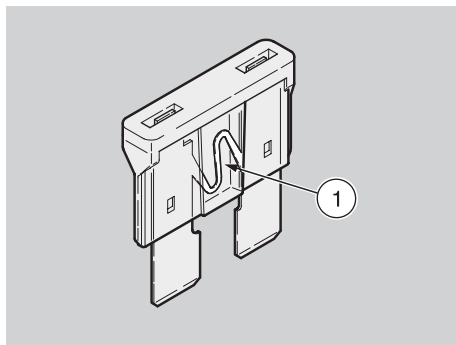
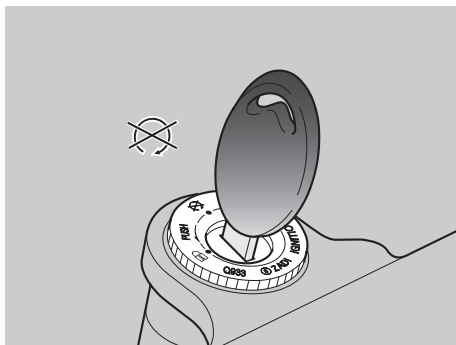
車両に搭載したままの場合は、バッテリーケーブルを電極から外してください。

スイッチ類の点検

57 ページ (メンテナンス) をよく読んでください。

この車両には次の 4 つのスイッチが付いています：

1) リアブレーキペダル上のストップライト・スイッチ
2) フロントブレーキレバー上のストップライト・スイッチ
3) サイドスタンド上の安全スイッチ
4) クラッチレバー上のスイッチ

◆ スイッチに汚れや泥が付着していないか点検します。ピンが干渉なしに動き、自動的に出発点に戻ることを確認します。

◆ ケーブルが正しく接続されているか確認してください。

◆ スプリング (5) に損傷、摩耗、劣化などがないか点検してください。

ヒューズの交換

57 ページ (メンテナンス) をよく読んでください。

⚠ 注意

欠陥のあるヒューズを修理して使わないで下さい。

規格に合ったヒューズ以外は決して使わないでください。
ショートした場合には電気系統に損傷を与えるだけでなく火災の危険もあります。

重要事項 ヒューズが頻繁に切れる場合は電気系統がショートしているか、過負荷になっている箇所があると考えられます。

この場合は、**aprilia 社オフィシャルディーラー**に相談してください。
電気部品が作動しなかったり、作動が不規則な場合、またはエンジンの始動ができない場合などは各ヒューズを点検してください。

エンジンオイルの点検は次の手順で行なってください：

- 思いがけないショートを避けるため、イグニッションスイッチを "⊗" の位置に回します。
- シートを取り外します。
  27 ページ (シートロックの掛け方・外し方) 参照。
- ヒューズを一つずつ取り出し、フィラメントが切れていないか点検します (1)。
- 切れたヒューズを交換する前に、できるだけ切れた原因を調べてください。
- ヒューズが切れている場合は同じ電流容量の新しいヒューズに交換します。

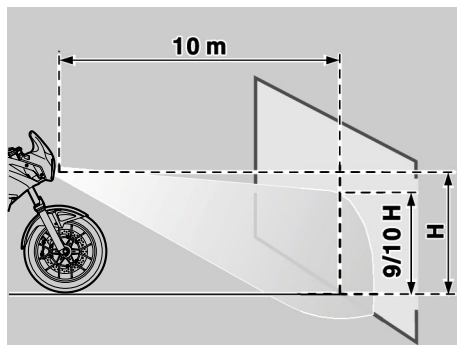
重要事項 交換にスペアヒューズを使用した場合は、新品の同じヒューズを必ずその場所に補充しておいてください。

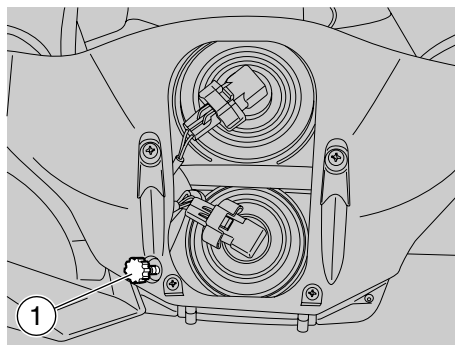
ヒューズの配置

A) ヒューズ 20 A (イエロー)- バッテリーから以下へ：
イグニッションスイッチ、電圧レギュレーター、電動冷却ファン。

B) ヒューズ 15A (ブルー) - イグニッションスイッチから以下へ：
全ライト類。

C) ヒューズ 7.5A (レッド) -イグニッションスイッチから以下へ：
イグニッション、スターターセーフティロジック。

重要事項 3個の予備ヒューズが付いています。

ヘッドランプの垂直光軸調整

重要事項 車体を使用する国の現行の法規定に従って、ヘッドランプ調整には特定の作業を行って下さい。

ヘッドランプ光軸の調整方法：

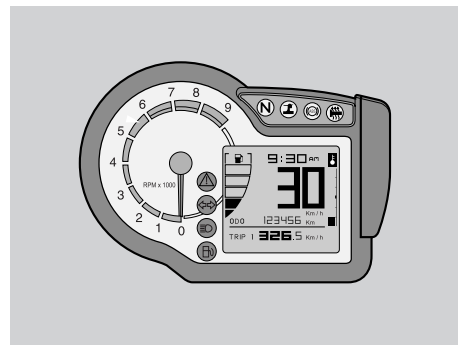
- ◆ スタンドに車両を配置します。55 ページ (スタンドの立て方) 参照。
- ◆ フロントフェアリングの下部から手を入れて、ノブ (1) を回します。

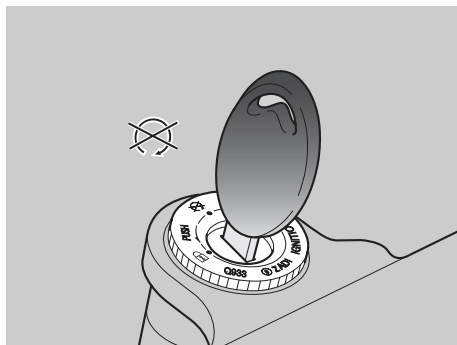
  時計方向に回すと、光線は上がります。

  反時計方向に回すと、光線は下がります。

調整が終わったら：

⚠ 危険

上下方向の光軸を確認してください。

インストルメントパネルの照明

aprilia 社オフィシャルディーラーアシスタンスサービスや技術的アドバイスが必要な場合は、お気軽に にご相談ください。適切で迅速なサービスをお約束します。

電球

57 ページ (メンテナンス) をよく読んでください。

⚠ 危険

火災の危険があります。

電装構成部品には、燃料及びその他の引火物を近づけないで下さい。

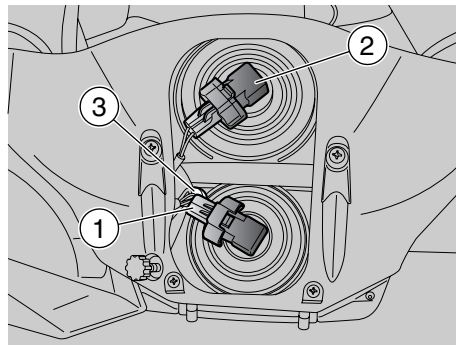
⚠ 注意

電球を交換する前にイグニッションスイッチが"⊗" の位置に来ていることを確認し、数分間待って電球を冷まします。

きれいな手袋をはめるか、きれいな乾いた布で電球を持つようにしてください。
電球の過熱や破裂の原因となりますので、電球を指紋などで汚さないでください。

損傷を避けるために、電球を素手で触った場合には、アルコールを使い指紋などの汚れをふき取ってください。

配線ケーブルを引っ張らないよう注意してください。

重要事項　電球を交換する前に、ヒューズ点検を行ってください。
82 ページ (ヒューズの交換)。

ヘッドランプ電球の交換

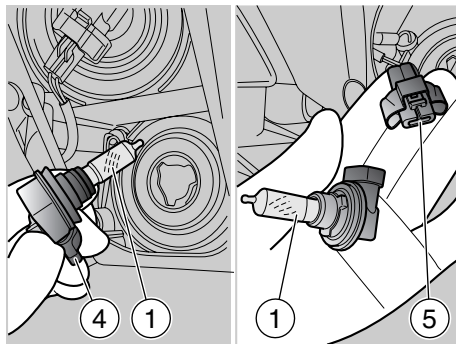
84 ページ (電球) をよく読んでください。

ヘッドランプには以下の電球が取り付けられます。

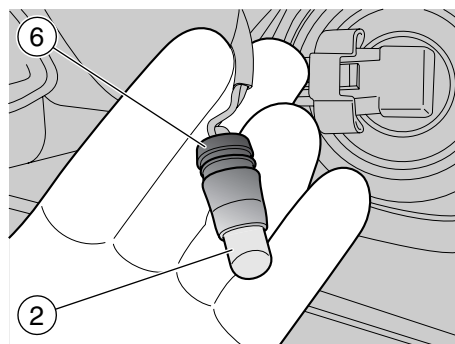
- ハイビーム電球 1 個 (1) (下部)
- パーキングライト電球1個(2) (左側中央)
- ロービーム電球 3 個 (1) (上部)

交換の手順 :

◆ スタンドに車両を配置します。55 ページ (スタンドの立て方) 参照。

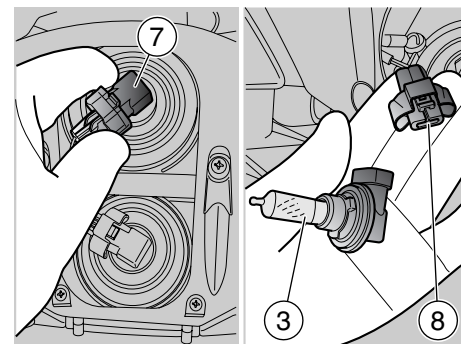
重要事項　交換する電球の側から作業を行ってください。

ハイビーム電球

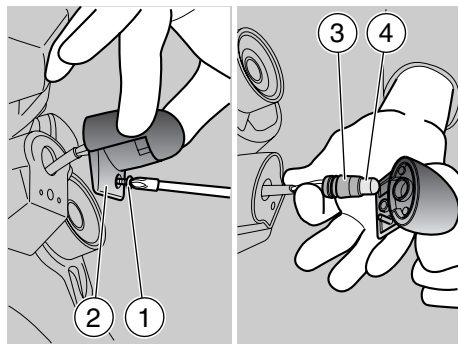
◆ ハイビーム電球ユニット (4) を反時計方向に回します。
◆ 電球の接続部 (5) を引き、電球 (1) から外します。
◆ 電球（1）を外し、同じ種類の電球と交換します。

重要事項 取り付け位置を合わせて電球をソケットに挿入します。

パーキングライト電球の交換

⚠ 注意

電球のソケットを取り出す際に配線ケーブルを引っ張らないよう注意してください。

◆ パーキングライトのソケット (6) を掴んで抜き取ります。
◆ 電球(2)を外し、同じ種類の電球と交換します。

ロービーム電球

◆ ロービーム電球ユニット (7) を反時計方向に回します。
◆ 電球の接続部(8)を引き、電球(3)から外します。
◆ 電球(3)を外し、同じ種類の電球と交換します。

ナンバープレートランプ電球の交換

84 ページ (電球) をよく読んでください。

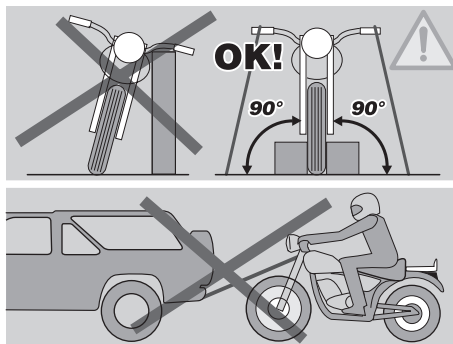
交換の手順 :

◆ スタンドに車両を配置します。55 ページ (スタンドの立て方) 参照。
◆ ネジ (1) をゆるめて取り外します。
◆ ライトユニット (2) を取り外します。

⚠ 注意

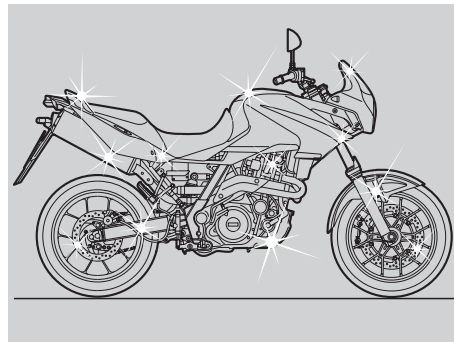
ソケットを外す時に、電線を引っ張らないように注意してください。

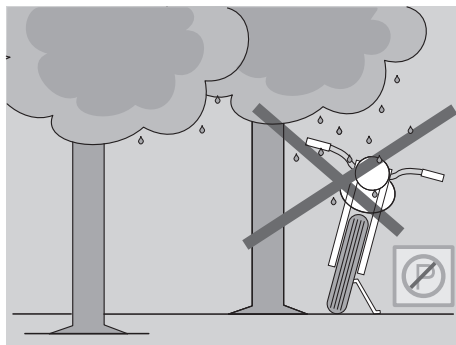
◆ ソケット (3) を引きながら取り出します。
◆ 電球 (4) を外し、同じ種類の電球と交換します。

輸送の際の注意事項

重要事項 車両輸送の際は、垂直の体勢を保つようにしっかりと固定されなければいけません。燃料、オイル、冷却液の漏れを防ぐために、ギアは 1 速に入れておいてください。

⚠ 注意

故障した場合は、自分で車両を引こうとせず、専門の業者に助けを呼んでください。

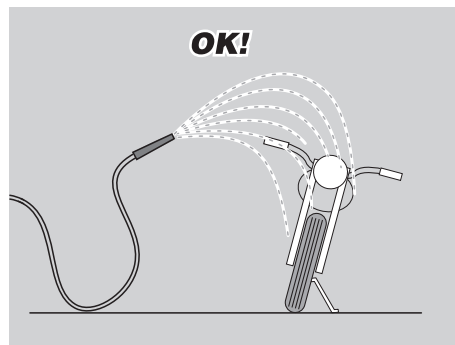
清掃

次のような特殊な地域や条件下で車両を使用した場合は頻繁に清掃を行なってください :

- 環境汚染地域 (市街地、工場地区)。
- 塩分や湿気の多い環境 (海岸、高温多湿風土)
- 環境、季節に応じた特殊条件 (冬季は道路に塩や凍結防止剤が撒かれた場合など)
- 車両に溜まった埃や車のタール、虫、鳥の糞などをそのままにしておかないでください。
- 木の下には駐車しないでください。季節によっては車に落ちる樹脂、木の実、葉などに含まれる物質で塗装を傷めることがあります。

危険

洗車後はブレーキシステムの摩擦面に残った水分により、ブレーキの効きが悪くなることがあります。

事故防止のために早めにブレーキをかけるようにしてください。

ブレーキを通常の作動状態に戻すには、何度もブレーキを制動させせます。

事前チェックを行って下さい。
47 ページ (走行前の点検) 参照。

塗装面に付着した埃や泥を落とすには、弱い圧力で水を噴射して汚れた部分を充分に濡らした後、水で薄めた洗剤 (水の 2 ～ 4 %) に洗車用の柔らかいスポンジを浸して泥や汚れを拭き取ります。
その後、よく水をかけ、水分をスエード革で拭き取ります。

エンジンの表面の掃除は、脱脂液、筆や布を使用して行います。

注意

ライト類の洗浄は、中性洗剤及び水を含ませたスポンジで表面を丁寧にこすり、水で充分にすすいで下さい。

シリコンワックスで磨き上げるときは、よく洗車、乾燥した後にしてください。

マットカラーの塗装を研磨性のペーストで磨かないでください。

夏の日光下での洗車を行わないでください。洗い流す前にシャンプーが乾いてしまい、塗装部分に損害をきたす可能性があります。

車体のプラスチック部品の清掃には、40 。C を超える液体は使用しないでください。

⚠ 注意

次の部分に高圧ウォータージェット、エアージェット、蒸気ジェットなどを使わないでください : 車輪ハブ、両ハンドル上のコントロールユニット、ベアリング、ブレーキポンプ、計器とインジケーター、サイレンサー、小物入れ／ツールキット、イグニッションスイッチ / ステアリングロック、ラジエーター、燃料タンクのキャップ、ライト系、電源類。

ゴム、プラスチックの部分、シートを洗う時には、アルコールや石油、その他の溶剤を使用せず、中性洗剤と水のみを使用してください。

⚠ 危険

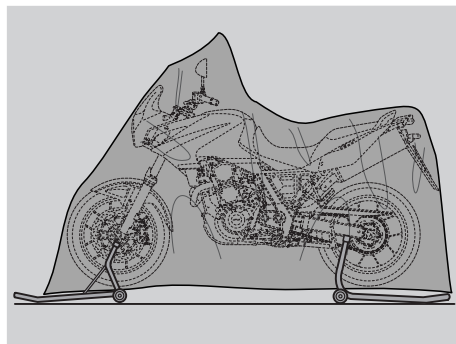
シートにワックスは塗布しないでください。滑って危険です。

長期間の未使用

長期間使用の予定がない場合は、トラブルを避けるためにいくつかの注意が必要です。

長期間使用しない場合は、車両を車庫にしまう前に、必ず、修理や主要チェックを行ってください。後になると忘れてしまう可能性もあります

次の作業を行なってください :

◆ バッテリーを取り外します。
79 ページ (バッテリーの取り外し)、81 ページ (バッテリーを長期間使用しない時) 参照。
◆ 車両を洗車し、乾かします。
86 ページ (清掃) 参照。
◆ 塗装面をワックスで磨きます。
◆ タイヤに空気を入れます。40 ページ (タイヤ) 参照。
◆ 直射日光の当たらない、涼しく乾燥した温度変化の少ない場所に保管してください。

重要事項 作業用フロントスタンド OPT および作業用リアスタンド OPT を使って両輪を地面から浮かせます。

◆ 車両を専用のフロントスタンドに載せます。67 ページ (作業用フロントスタンド使用法 OPT) 参照。
◆ 湿気が入らないようにサイレンサーのエキゾーストターミナルにプラスチックの袋をかぶせ、縛ります。
◆ 車体にカバーをかけてください。プラスチックや防水性の材質の物は避けてください。

長期間使用しなかった後は：

重要事項 プラスチックの袋をサイレンサーから取り外します。

- ◆ カバーを外し車両を清掃します。86 ページ (清掃) 参照。
- ◆ バッテリーの充電状態を点検します。80 ページ (バッテリーの充電) 参照。バッテリーを取り付けます。80 ページ (バッテリーの取り付け) 参照。
- ◆ 燃料をタンクに注入します。31 ページ (燃料) 参照。
- ◆ 事前チェックを行って下さい。47 ページ (走行前の点検) 参照。

⚠ 危険

交通量の少ない場所であまりスピードを上げずに、数キロ程度試験走行を行なってください。

テクニカルデータ

寸法	車体最長 Strada / Trail	2173 mm / 2232 mm
	最大車体幅 Strada / Trail	810 mm / 820 mm
	車高最大（フロントフェアリングまで）Strada / Trail	1150 mm / 1180 mm
	シート高 Strada / Trail	780 mm / 810 mm
	ホイールベース (軸距) Strada / Trail	1490 mm / 1510 mm
	地面からの最低車高 Strada / Trail	200 mm / 230 mm
	車体重量 (燃料抜き) Strada / Trail	179 kg / 183 kg
エンジン	モデル	MY660
	タイプ	シングルシリンダー、4 ストローク、4 バルブ、オーバーヘッドカムシャフト 1 本
	シリンダー数	1
	総排気量	660 cm^3
	ボア／ストローク	100 mm / 84 mm
	圧縮比	10 ± 0.5 : 1
	エンジンの始動	電動式
	。アイドリング回転数	1500 ± 100 回転 / 分 (rpm)
	クラッチ	湿式多板式、コントロールは左ハンドルバー上
	潤滑システム	ドライパン、別体オイルタンク
	エアフィルター	ドライカートリッジフィルター式
	冷却方式	水冷
ギア	タイプ	メカニカル 5 段変速、エンジン左側のシフトペダルによる切替え
容量	燃料 (リザーブも含む)	15 ± 0.5 ℓ
	リザーブ燃料	3 ℓ約
	エンジンオイル	オイル交換の場合は 2500 cm^3 – オイルとフィルター交換の場合は 2700 cm^3
	Strada バージョンのフォーク用オイル	エア 105 mm (各フォークレッグ、スプリングを装着せずフォークレッグを圧縮した状態で測定)
	Trail バージョンのフォーク用オイル	フォークレッグごとに 570 cm^3
	冷却液	冷却液 1.2 ﾘｯﾄﾙ (水 50% + エチルグリコール不凍液 50%)

	シート	2
	最大積載量	210 kg (ライダー、パッセンジャー、荷物、フールド類)

		1 次	2 次	最終	トータル比
変速比	1ª	36/75 = 1 : 2.083	12/30 = 1 : 2.500	15/44 = 1 : 2.933	15.278
	2ª		16/26 = 1 : 1.625		9.930
	3ª		20/23 = 1 : 1.150		7.028
	4ª		22/20 = 1 : 0.909		5.556
	5ª		26/20 = 1 : 0.769		4.700

ドライブチェーン	タイプ	接合リンクなし、シールド式リンク
燃料供給システム	タイプ	電子制御燃料噴射
	スロットルボディ	Ø 45.5 mm
補給	燃料	燃料は DIN 51 607 に基づいた最低オクタン価 95 (N.O.R.M.) 及び 85(N.O.M.M.) の無鉛ガソリンのみ使用してください。
フレーム	タイプ	スチール構造、シート架台取り外し可能。
サスペンション	フロント	油圧式、フォークレッグ Ø 45 mm
	トラベル Strada / Trail	140 mm / 170 mm
	リア	スイングアーム、調整可能油圧式モノショックアブソーバー。
	ホイールトラベル Strada / Trail	130 mm / 170 mm
ブレーキ	フロント Strada / Trail	ディスク - Ø 320 /300 mm- 油圧式トランスミッション
	リア	ディスク - Ø 240 mm- 油圧式トランスミッション
ホイールリム	タイプ Strada / Trail	軽合金 / スポーク
	フロント Strada / Trail	3.5 x 17” / 2.15 x 19”
	リア Strada / Trail	4.5 x 17” / 3.00 x 17”
タイヤ	フロント Strada	110/70 ZR 17 54W
	そのほか Strada	110/70 R 17 54H – 120/65 ZR 17 56W – 120/65 R 17 56H
	フロント Trail	100/90 M/C 19 57H
	ライダーのみ乗車時の空気圧 Strada / Trail	1.8 / 1.9
	ライダー＋パッセンジャー乗車時の空気圧 Strada / Trail	1.9 / 1.9

タイヤ	リア Strada	160/60 ZR 17 69W
	そのほか Strada	160/60 R 17 69H – 150/60 ZR 17 66W – 150/60 R 17 66H
	リア Trail	130/80 M/C R 17 65H
	そのほか Trail	140/80 M/C R 17 69H
	ライダーのみ乗車時の空気圧 Strada / Trail	2.0 / 2.1
	ライダー＋パッセンジャー乗車時の空気圧 Strada / Trail	2.2 / 2.3
イグニッション	タイプ	DENSO ー誘導放電
スパークプラグ	スタンダード	NGK CR7E
	スパークプラグ電極間距離	0.7 – 0.8 mm
	抵抗	5 kΩ
電装システム	バッテリー	12 V - 12 Ah
	ヒューズ	7.5 A – 15 A – 20 A
	ジェネレーター (永久磁石)	12V - 290W
電球	ロービーム	12V - 55W
	ハイビーム	12V - 60W
	フロントパーキングライト	12V - 5W
	ターンインジケーターライト	マイクロランプ (交換不可能)
	ストップライト／リアパーキングライト	LED
	ナンバープレートランプ	12V - 5W
	タコメーター照明	LED
警告灯	ニュートラルギア	LED
	ターンインジケーター	LED
	リザーブ燃料	LED
	ハイビーム	LED
	警告ランプ	LED
	サイドスタンド	LED
	ABS..	LED
	スロットルグリップ暖房	LED

指定油脂類表

エンジンオイル (推奨): Agip TEC 4T SAE 15W - 50

上記推奨品以外でも、CCMC G-4 規格、A.P.I. SG 規格と同等以上の品質のメーカー品オイルを使用しても差し支えありません。

フォークオイル (推奨): Agip 5W または Agip 20W

または Agip 5W と Agip 20W、それぞれの中間の物を使用したい場合は下記に従いミックスします。

SAE 10W = Agip 5W (容量の) 67% + Agip 20W (容量の) 33%

SAE 15W = Agip 5W (容量の) 33% + Agip 20W (容量の) 67%

ベアリングとその他部品潤滑油 (推奨): Agip GREASE 30
推奨以外のものを使用する場合は、ベアリング用の
高品質グリースを使用し、作業温度範囲が 30 ℃. . . +140 ℃、
滴点が 150 ℃. . . 230 ℃、腐食防止率が高く、水と酸化に強い物を選んでください。

バッテリーの極端の防御：中性グリースまたはワセリン

チェーン用スプレーグリース (推奨): Agip CHAIN LUBE

⚠ 危険

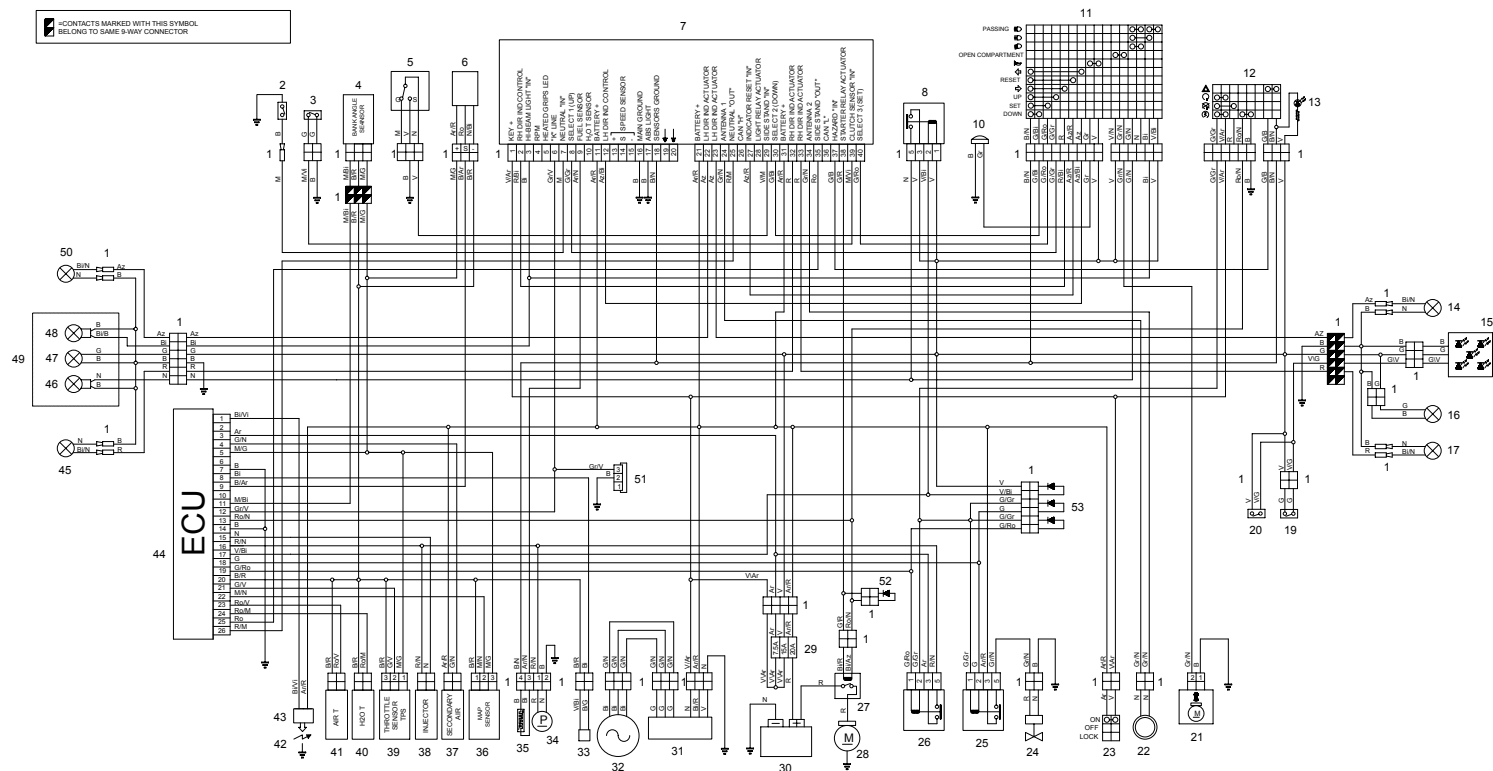
ブレーキオイルは必ず新しいものを使用して ください。メーカーの違うブレーキオイルや規格の違うオイルを混ぜないでください。

ブレーキ液 (推奨): Agip BRAKE 5.1、DOT 4 (DOT 5 でも可)

⚠ 危険

不凍液と防食剤は亜硝酸塩を含まないもので、少なくとも -35 ℃までは機能するものを使用してください。

エンジン冷却液 (推奨): Agip COOL

電気配線図 - Pegaso 650 I.E.

配線図凡例 - Pegaso 650 I.E.

1) マルチコネクター
2) ニュートラルランプスイッチ
3) クラッチスイッチ
4) 転倒センサー
5) サイドスタンドスイッチ
6) スピードセンサー
7) インストルメントパネル
8) ライトリレー
9) -----
10) ホーン
11) 左ディマースイッチ
12) 右ディマースイッチ
13) ハザードスイッチ・バックライティング
14) リア左ターンインジケーター
15) テールランプ
16) ナンバープレートランプ
17) リア右ターンインジケーター
18) ---
19) リア・ストップライトスイッチ
20) フロント・ストップライトスイッチ
21) 電動ロック
22) インモビライザーアンテナ
23) キースイッチ
24) ファン
25) ファンリレー
26) インジェクションリレー
27) スターターリレー
28) スターターモーター
29) ヒューズ
30) バッテリー
31) 電圧レギュレーター
32) ジェネレーター
33) ピックアップ
34) 燃料ポンプ
35) 燃料レベルセンサー
36) センサーマップ
37) 補助エア
38) インジェクター
39) スロットルポジションセンサー (TPS)
40) 水温センサー
41) 気温センサー
42) スパークプラグ
43) イグニッションコイル
44) コントロールユニット CPU
45) フロント右ターンインジケーター
46) ロービーム電球
47) パーキングライト電球
48) ハイビーム電球
49) ヘッドランプ
50) フロント左ターンインジケーター
51) 自動診断コネクタ
52) ダイオード
53) ダイオード・モジュール

配線ケーブルの色分け

Ar オレンジ
Az 水色
B 青
Bi 白
G 黄
Gr グレー
M 茶色
N 黒
R 赤
Ro ピンク
V 緑
Vi 紫

サービスレベル保証 aprilia

数々の、修や技術者育成システムにより、全ての **aprilia** 製品のメンテナンス・補修など、お客様のニーズにお答えできる技術者を揃えております。

車両の信頼性は、その機械的な条件にも依存します。事前チェック、定期的なメンテナンス、そして **aprilia** オリジナルパーツの使用はお客様に安全なライディングを楽しんで頂くための基本となります。

最寄の **aprilia** オフィシャルディーラーまたはサービスセンターに関する情報は、イエローページ、または **aprilia** 社オフィシャルサイトに掲載の地図を参照してください :

www.aprilia.com

aprilia オリジナルパーツであれば、設計段階から品質・機能が å、究、テストされた信頼のおける部品であることが保証されています。
aprilia オリジナルパーツは、信頼性、耐久性を保証するために、計画的な品質検査が実施されています。

本車両を選んで頂いたお客様に **Piaggio & C. S.p.A.** は心からの感謝を申し上げると共に、以下の事項をお守りいただくようお願い申し上げます。

環境汚染を防ぐために、オイル、燃料、その他の有害物を無断に廃棄しないでください。
- 必要時以外はエンジンを停める事を心がけてください。
- 他人に迷惑となる騒音は避けるようにしましょう。
- 自然環境保護に心がけましょう。